METコミュニケータ

取扱説明書

日本システム開発株式会社

はじめに

MET コミュニケータ（以下、本アプリケーションと称す）は、MCD-1000（以下、光通信ユニットと称す）を介して、MET-1000（以下、ターミナルと称す）とホストパソコン（以下、PC と称す）間のアプリケーションインストール、およびファイル転送を行うためのアプリケーションです。
本書は、本アプリケーションの操作説明を述べたものです。

【 本アプリケーションの構成 】

1）リモートモード
エクスプローラライクなファイラーイメージの画面／操作から 1 台のターミナルに対してアプリケーションインストール、ファイルのアップダウンロード、ファイルの参照、ファイルの削除等が行えるモードです。

2）イージーモード
ターミナルの ID 番号を設定することにより、ターミナルを光通信ユニットに置くだけで、自動でファイルのアップダウンロードが行えるモードです。

3）スクリプトモード
リモートモードの機能をコマンド化することにより、リモートモードの機能を自動で行えるモードです。（エディタでこれらのコマンドをスクリプトファイルとして記述します）

本書について

注意

1. 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。ソフトウェアについても内容の一部または全部を無断で複写することは禁止されています(バックアップを除く)。
2. 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。

商標

Microsoft,Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

免責事項

- 本製品をお客様が第三者へコピー等による配布、ならびにお客様以外の第三者が使用することを禁止します。
- 本製品の使用誤り、不具合または本製品の使用によって受けられた損害については、一切その責任を負いません。
- 本製品を使用して生成されたもの（ソフトウェア）を利用することにより発生したいかなる損害についても、一切責任を負いかねます。

動作環境

パソコン本体	：IBM PC/AT 互換機
対応 OS	：Windows XP、Windows Vista、Windows 7 （いずれも 32 ビット日本語版）
通信ポート	：USB もしくは RS-232C ポートが必要
解像度	：800×600 ピクセル以上
その他	：OS の必要環境を満たしていること

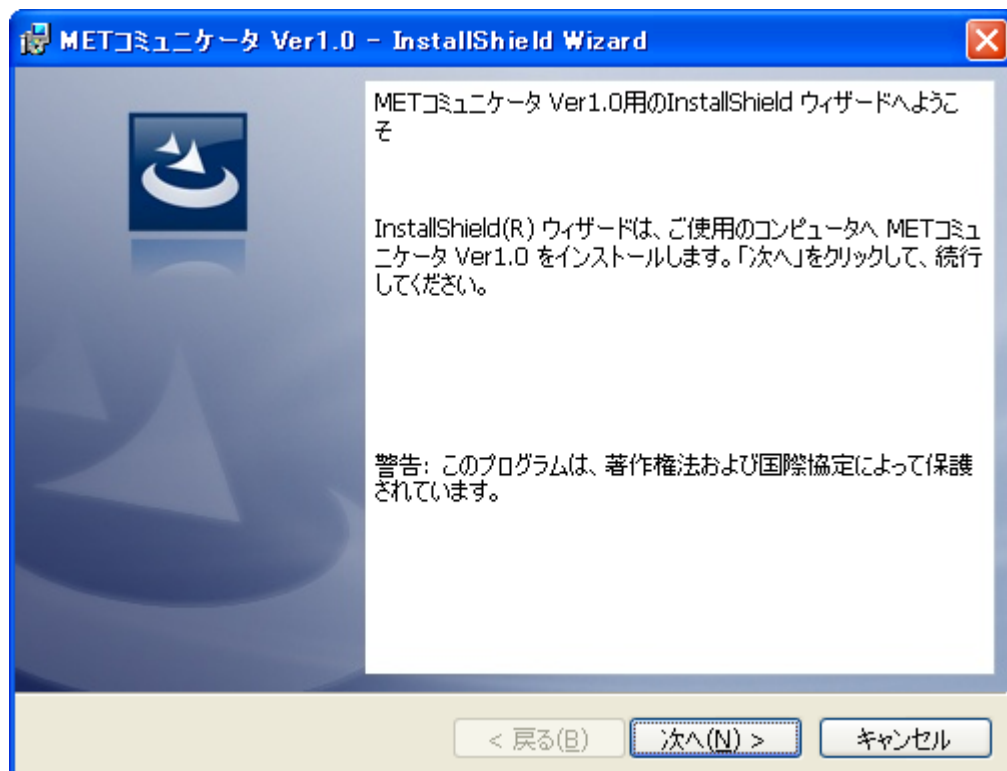
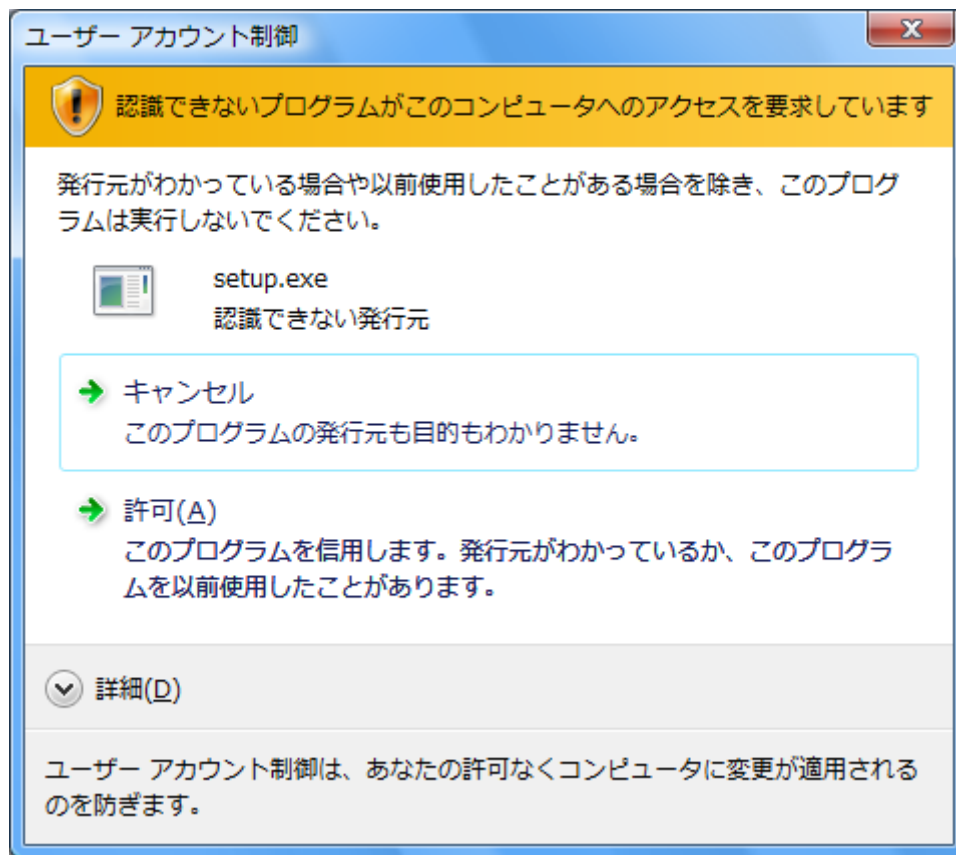
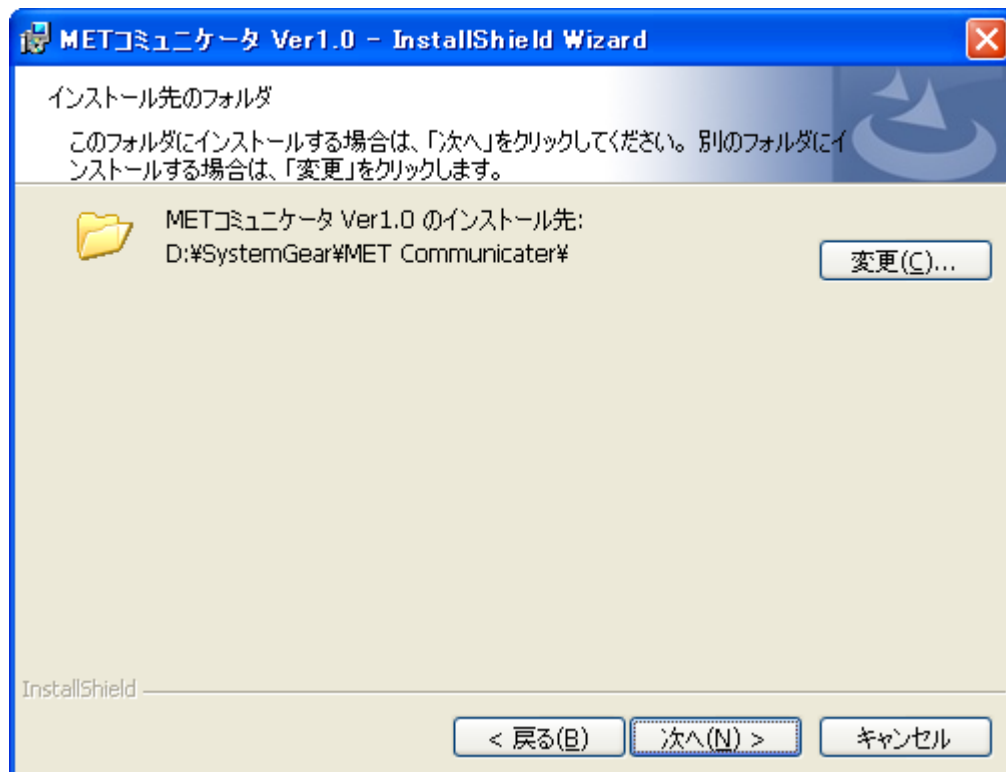
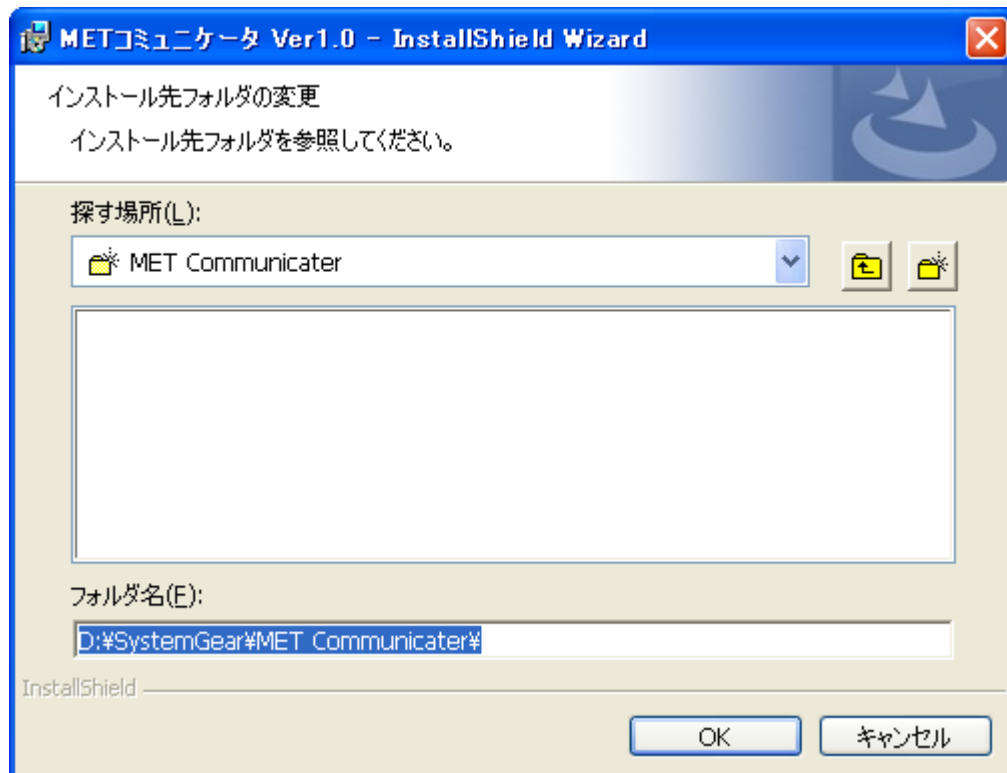
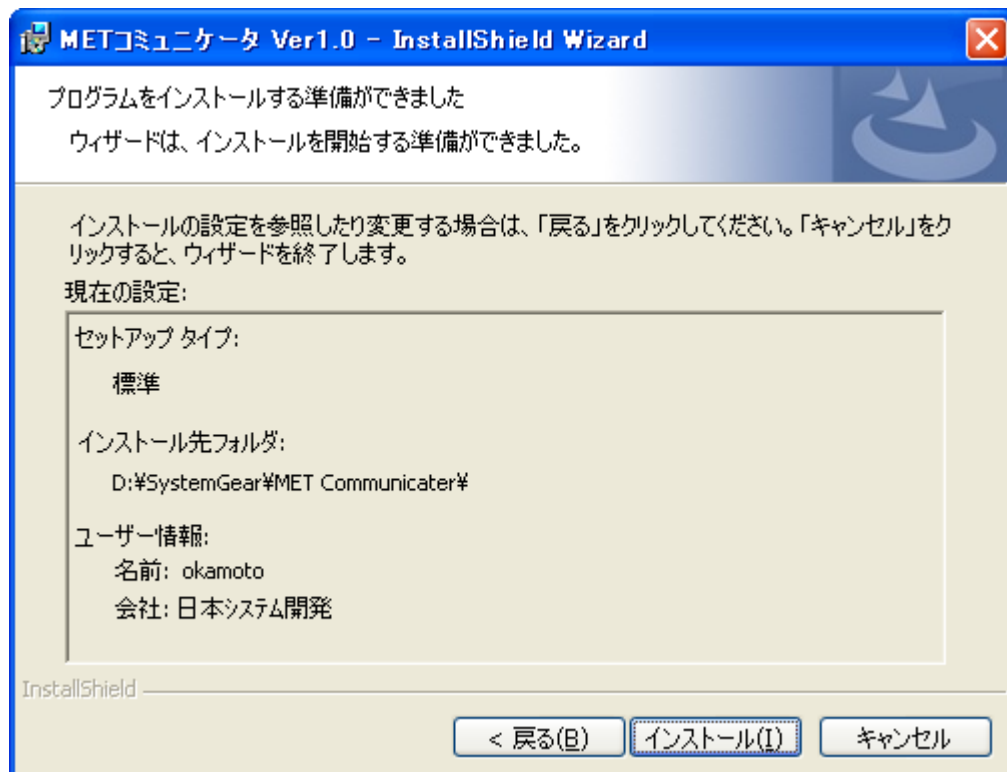
インストール

パソコンの電源を入れて Windows を起動して、以下の手順でインストールを行ってください。（このとき起動しているアプリケーションをすべて終了してください。）

注意
本アプリケーションのインストールには Administrator または管理者権限でログオンする必要があります。

ご使用の OS が Windows Vista，Windows 7 の場合、¥Program Files、¥Windows、C:¥直下のいずれかのフォルダの下に本アプリケーションをインストールすると、ユーザアカウント制御（UAC）によってインストールできない、設定が反映されない現象が発生します。
インストール場所を変更する場合は、¥Program Files、¥Windows、C:¥直下以外を指定するようにしてください。

① 本アプリケーションのセットアップディスクをドライブにセットします。

② インストールィザードを起動します。
エクスプローラからセットアップディスク上の setup.exe(¥MET ｺﾐｭﾆｹｰﾀ¥SetUpDisk) を起動します。
インストールウィザードが起動したら「次へ」ボタンを押下します。

※Windows7、Vista の場合、以下の画面が表示されることがあります。「許可」をクリックしてください。

③　インストール先を選択し、「次へ」をクリックしてください。

変更する場合は「変更」ボタンを押下しディレクトリを変更してください。

④ インストール開始確認画面が表示されたら、「インストール」ボタンを押下して下さい。

⑤ セットアップ完了確認画面が表示されたら「完了」ボタンをクリックしてください。

目次

ページ

概要

本アプリケーションは３本のソフトウェアで構成されております。

① マニュアル操作によるファイル転送（ダウンロード・アップロード等）を行うリモートモードソフトウェア
② 自動的にファイル転送（ダウンロード・アップロード等）を行うイージーモードソフトウェア
③ スクリプトファイル作成による、ファイル転送（ダウンロード・アップロード等）を行うスクリプトモードソフトウェア

リモートモード

接続したターミナルのフォルダ内容とPC のフォルダ内容を同時に表示し、マウス操作によってファイルのダウンロード・アップロード、削除等の処理をエクスプローラライクなファイラーイメージで操作することができます。本機能は、ターミナルのモードがリモート時のみ使用が可能です。

イージーモード

ターミナルが指定したファイルのダウンロード・アップロードを行います。
本機能は、ターミナルのモードがイージー時のみ使用が可能です。

スクリプトモード

スクリプトファイルに設定された内容の指示に従い、自動でターミナルへダウンロード・アップロードを行います。
簡単なスクリプトによるファイル転送を実現し、エンドユーザに誤操作させない（バッチファイル形式）
方式となっています。本機能は、ターミナルのモードがリモート時のみ使用が可能です。

ターミナルとの接続方法

本アプリケーションを使用する場合、ターミナルとＰＣの処理モードを一致させる必要があります。

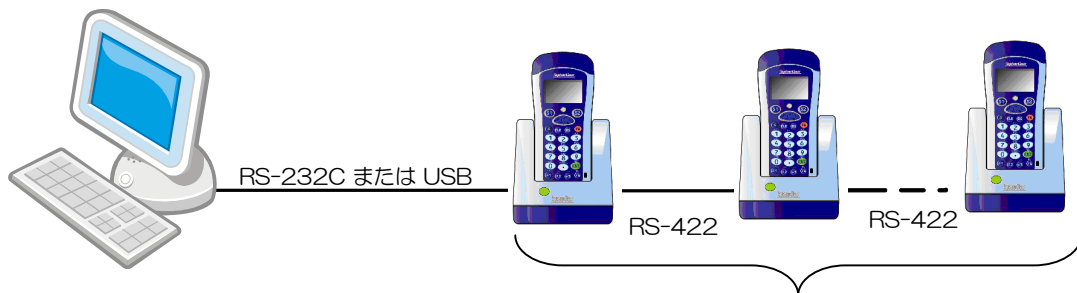
接続モード	ターミナルモード	ＰＣモード
リモート接続	リモート（terminalcontrol）	リモートモード（MetCommUtyR.exe）
イージー接続	ライブラリ関数 （filedownload/fileupload）	イージーモード（MetCommUtyE.exe）
スクリプト接続	リモート（terminalcontrol）	スクリプトモード（MetCommSpt.exe）

構成

以下に本アプリケーションの動作するハードウェア構成を示します。ターミナルは 1～127 の範囲で ID を持つことが可能です。接続形態は、以下の通りです。

● PC 対ターミナル　1：1 接続

PC とターミナルを 1 対 1 で接続する場合は、RS-232C、または USB にて接続します。

● ＲＳ４２２マルチドロップ接続

接続台数は、最大 16 台まで可能です。

PC と先頭の光通信ユニットにのみ RS-232C、または USB にて接続し、残りの光通信ユニットは RS-422 にて接続します。

注意！！

・ USB接続の場合、光通信ユニットに付属しているUSBドライバーがインストールされていることが前提となります。
・ USB接続の場合、ケーブルの抜差しは絶対にしないでください。

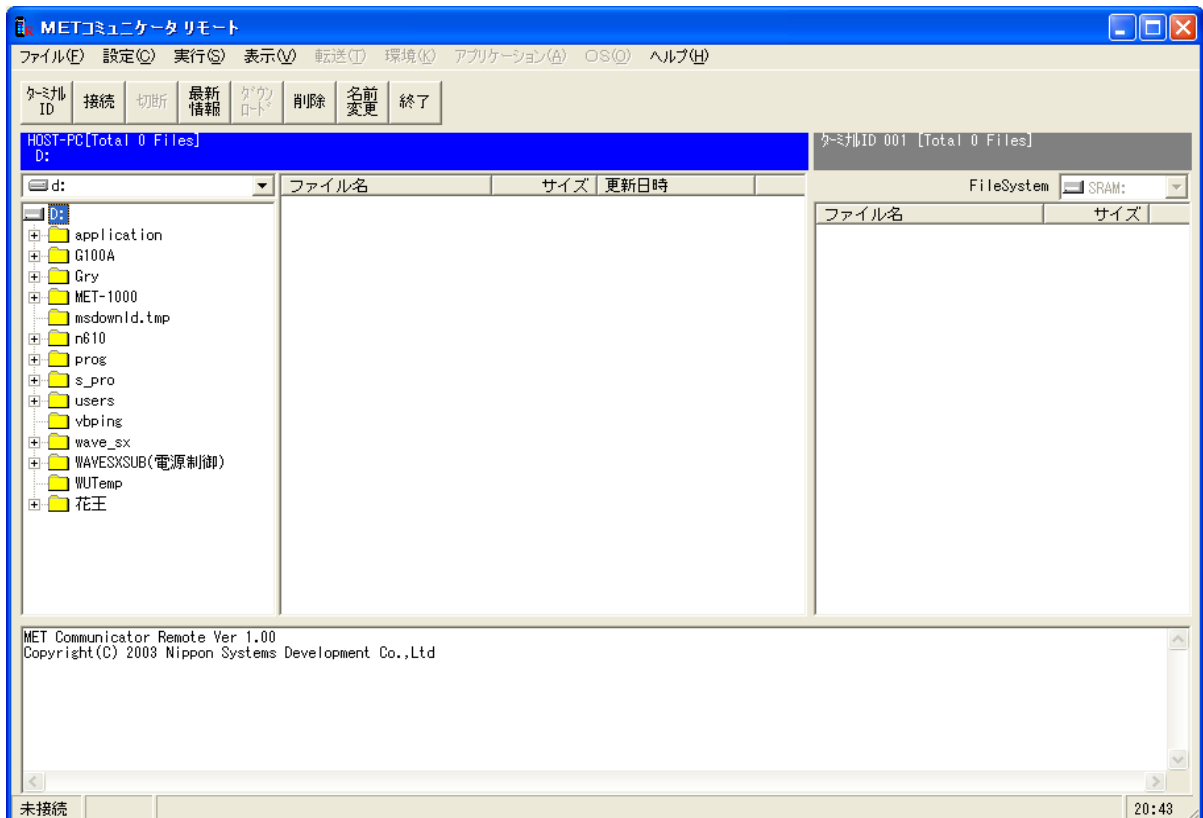
操作説明

リモートモード

接続したターミナルのフォルダ内容とPCのフォルダ内容を同時に表示し、マウス操作によってファイルのダウンロード・アップロード、削除等の処理をエクスプローラライクなファイラーイメージで操作することができます。本機能は、ターミナルのモードがリモート時のみ使用が可能です。

起動方法

[スタート]-[すべてのプログラム(P)]から[MET コミュニケータ]-[リモート]を選択するとリモートモードが起動します。

起動すると、下記画面を表示します。ただし、ターミナルとは接続されていません。

※1）メニュー、およびボタンはターミナルとの接続状態により選択可／不可状態が変化します。

ボタン	ターミナル未接続	ターミナル接続中
ターミナルID	○	×
接続	○	×
切断	×	○
最新情報	注２	注２
ダウンロード・アップロード（切替式）	×	○
削除	注２	○
名前変更	注２	○
終了	○	○

メニュー	ターミナル未接続	ターミナル接続中
ファイル（F）	○	○
ファイル参照（R）	注2	○
削除（D）	注2	○
名前の変更（M）	注2	○
ファイルフォーマット（F）	×	○
終了（X）	○	○
設定(C)	○	×
ターミナルID設定（H）	○	×
通信設定（T）	○	×
実行（S）	○	○
リモート接続（O）	○	×
リモート切断（C）	×	○
ターミナル電源切断（P）	×	○
表示（V）	○	○
ファイル情報の取得（I）	×	○
空き容量の取得（S）	×	○
最新情報の取得（R）	注2	注2
転送（T）	×	○
ダウンロード（D）	×	○
アップロード（U）	×	○
環境（K）	×	○
環境設定値変更（U）	×	○
環境設定値取得（G）	×	○
環境設定初期化（I）	×	○
日時設定（D）	×	○
アプリケーション（A）	×	○
ＡＰインストール（I）	×	○
ＡＰバージョン情報（A）	×	○
OS（O）	×	○
ＯＳバージョン情報（A）	×	○
ヘルプ（H）	○	○
バージョン情報（A）	○	○

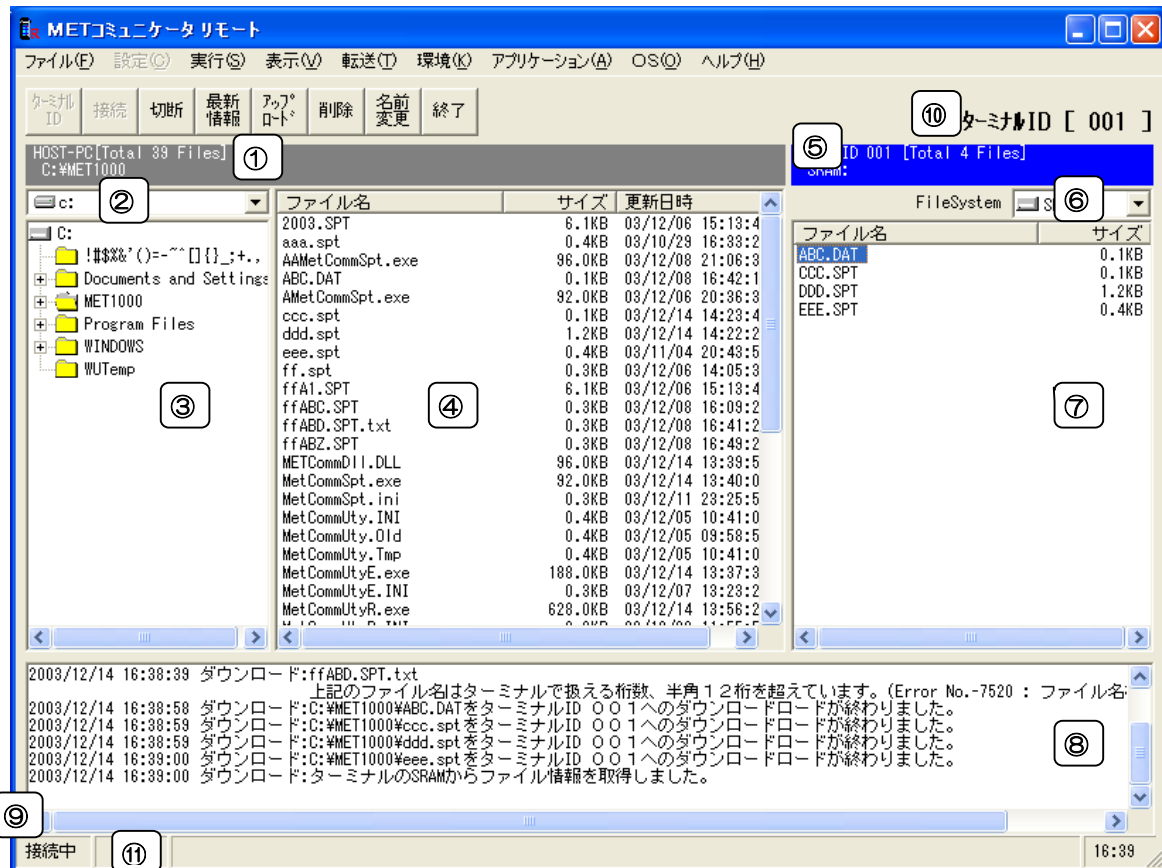
注１　○は選択可能、×は選択不可

注２　PC側のファイルのみ選択可能、ターミナル側のファイルは選択不可

※2）本モード起動時に DLL のバージョンが異なる場合、以下のメッセージを表示し、「OK」をクリックすると終了します。

上記のメッセージが表示された場合は、「コントロールパネル」-「プログラムの追加と削除」で本アプリケーションをアンインストールしてから再度インストールを行ってください。

メイン画面

本モード起動後に表示される下記の画面から PC、またはターミナルのファイルを選択して、ファイルのダウンロード・アップロード、削除、アプリケーションのインストール等を行います。

①PC―フォルダ情報
　カレントフォルダ（フォルダツリーボックス（③）で選択されているフォルダ）の情報（フォルダ内のトータルファイル数とフォルダパス名）を表示します。
　なお、PC 側のドライブ選択ボックス（②)、フォルダツリーボックス、またはファイル情報リストボックス（④）の何れかが選択されていれば、背景色が青色になります。また、ターミナル側のファイルシステム選択ボックス（⑥)、ファイル情報リストボックス（⑦)、または履歴の表示領域（⑧）の何れかを選択すると、背景色が灰色になります。

②PC―ドライブ選択ボックス
　ボックス右の▼をクリックすると PC に接続されているドライブの一覧リストを表示しますので、ダウンロードするファイルがあるドライブ、またはアップロードしたファイルを格納するドライブを一覧リストから選択してください。ドライブを選択すると選択したドライブ内のフォルダをフォルダツリーボックスに表示します。

③PC―フォルダツリーボックス
　ドライブ選択ボックスで選択したドライブ内のフォルダをツリー構造で表示します。
　フォルダを選択してクリックすると、フォルダ内のファイル情報をファイル情報リストボックスに表示します。
　また、(+)や(—)記号のあるフォルダを選択してクリックすると、閉じられている子フォルダの展開や展開されている子フォルダを閉じます。

④PC－ファイル情報リストボックス
フォルダツリーボックスで選択しているフォルダ内のファイル情報（ファイル名／サイズ／更新日時）の一覧を表示します。

⑤ターミナル－フォルダ情報
選択しているファイルシステムの情報（接続しているターミナルID、ファイルシステム内のトータルファイル数、およびファイルシステム名）を表示します。
なお、ターミナル側のファイルシステム選択ボックス、またはファイル情報リストボックスの何れかを選択すると、背景色が青色になります。また、ターミナルが未接続の場合とPC側のドライブ選択ボックス、フォルダツリーボックス、ファイル情報リストボックス、または履歴の表示領域の何れかを選択すると、背景色が灰色になります。

⑥ターミナル－ファイルシステム選択ボックス
ボックス右の▼をクリックするとファイルシステムの一覧リスト（SRAM／FROM）を表示しますので、ファイルシステムを一覧リストから選択してください。ファイルシステムを選択すると選択したファイルシステムのファイル情報をファイル情報リストボックス（⑦）に表示します。

⑦ターミナル－ファイル情報リストボックス
ファイルシステム選択ボックス（⑥）で選択しているファイルシステムのファイル情報（ファイル名／サイズ）の一覧を表示します。

⑧履歴の表示領域
ファイルのダウンロード・アップロード、削除、アプリケーションのインストール等の操作を行った結果を履歴として表示する領域です。従って、どのターミナルに対して何の操作（処理）を行い、その結果がどうであったかを遡って確認することができます。

【 正常終了時の履歴】
YYYY/MM/DD HH:MM:SS ○○○○：△△△△△△△△△△
【 異常終了時の履歴】
YYYY/MM/DD HH:MM:SS ○○○○：△△△△△△△△△△（Error №-9999:×××）

項目	内容
YYYY/MM/DD	操作を行った日付
HH:MM:SS	操作を行った時刻
○○○○	操作の名称 削除／名前の変更／ファイル情報の取得／空き容量の取得／ファイル参照／ファイルフォーマット／リモート接続／リモート切断／ダウンロード／アップロード／ターミナルID設定／日時設定／環境設定値変更／環境設定値取得／環境設定初期化／APインストール／APバージョン情報／OSバージョン情報／バージョン情報
△△△△△△△△△△	メッセージ
-9999	エラー№　※1
×××	エラー名称　※1

※1）エラー№／エラー名称の詳細は『.エラー一覧』を参照してください。

⑨ターミナル接続ステータス
ターミナルとの接続状態を表示します。ターミナルとリモート接続している場合は“接続中”を表示し、ターミナルと接続されていない場合は“未接続”と表示します。

⑩ターミナルID
現在、接続しているターミナルIDを表示します。なお、ターミナルと未接続状態の場合、ターミナルIDは表示

しません。

⑪通信状況
ターミナルとの通信状況を表示します。ターミナルと通信している場合は“通信中”と点滅表示します。また、ターミナルと通信していない場合は何も表示しません。

【 メニュー 】

［ファイル（F）］

ファイル参照（R）	選択しているファイルの内容を表示します
削除（D）	選択しているファイルを削除します。（複数ファイル選択可）
名前の変更（M）	選択しているファイルの名前を変更します。（複数ファイル選択不可）
ファイルフォーマット（F）	ターミナルのファイルシステムをフォーマットします。
終了（X）	本モードを終了します。

［設定（C）］

ターミナルID設定（H）	リモート接続するターミナル IDを設定します。
通信設定（T）	ターミナルとの通信条件を設定します。

［実行（S）］

リモート接続（O）	設定されているターミナルIDのターミナルとリモート接続します。
リモート切断（C）	ターミナルとのリモート接続を切断します。
ターミナル電源切断（P）	ターミナルの電源をOFFします。

［表示（V）］

ファイル情報の取得（I）	ターミナルのファイル情報を取得します。なお、ファイルシステム選択ボックスでターミナルのファイルシステムを選択した場合と同じ処理です。
空き容量の取得（S）	ターミナルの空き容量を取得します。
最新情報の取得（R）	PCのファイル情報を取得します。

［転送（T）］

ダウンロード（D）	選択しているPCのファイルをターミナルへダウンロードします。（複数ファイル選択可）
アップロード（U）	PC へ選択しているターミナルのファイルをアップロードします。（複数ファイル選択可）

［環境（K）］

環境設定値変更（U）	ターミナルの環境設定値を変更します。
環境設定値取得（G）	ターミナルの環境設定値を取得します。
環境設定初期化（I）	ターミナルの環境設定値を工場出荷状態に戻します。
日時設定（D）	ターミナルの日付・時間を設定します。

［アプリケーション（A）］

APインストール（I）	アプリケーションをターミナルへインストールします。
APバージョン情報（A）	ターミナルにインストールしているアプリケーションのバージョンを表示します。

[OS（O）]
OSバージョン情報（A）　　ターミナルのOSバージョンを表示します。

[ヘルプ（H）]
バージョン情報（A）　　　本モードのバージョン情報を表示します。

【 ボタン 】

「ﾀｰﾐﾅﾙID」ボタン
メニューの[設定（C）]-[ターミナルID設定（H）]のショートカットボタンです。
リモート接続するターミナルIDを設定します。

「接続」ボタン
メニューの[実行（S）]-[リモート接続（O）]のショートカットボタンです。
設定されているターミナルIDのターミナルとリモート接続します。

「切断」ボタン
メニューの[実行（S）]-[リモート切断（C）]のショートカットボタンです。
ターミナルとのリモート接続を切断します。

「最新情報」ボタン
メニューの[表示（V）]-[最新情報の取得（R）]のショートカットボタンです。
PCのフォルダ情報をリフレッシュ表示します。

「アップロード／ダウンロード」ボタン
メニューの[転送（T）]-[ダウンロード（D）]、および[アップロード（U）]のショートカットボタンです。（切替式です）
PCのファイルを選択している場合は、選択しているファイルをPCからターミナルへダウンロードします。
ターミナルのファイルを選択している場合は、選択しているファイルをターミナルからPCにアップロードします。

「削除」ボタン
メニューの[ファイル（F）]-[削除（D）]のショートカットボタンです。
選択しているファイル（複数ファイル選択可）を削除します。

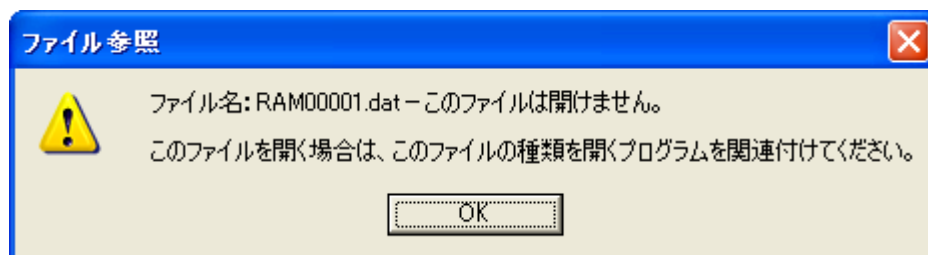
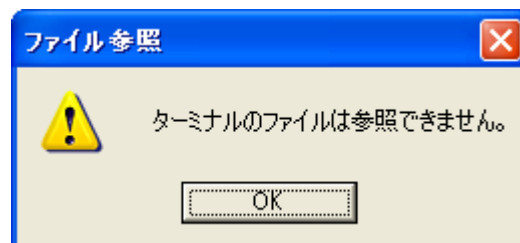
「名前変更」ボタン
メニューの[ファイル（F）]-[名前の変更（M）]のショートカットボタンです。
選択しているファイル（複数ファイル選択不可）の名前を変更します。

「終了」ボタン
メニューの[ファイル（F）]-[終了（X）]のショートカットボタンです。
本モードを終了します。

ファイル参照

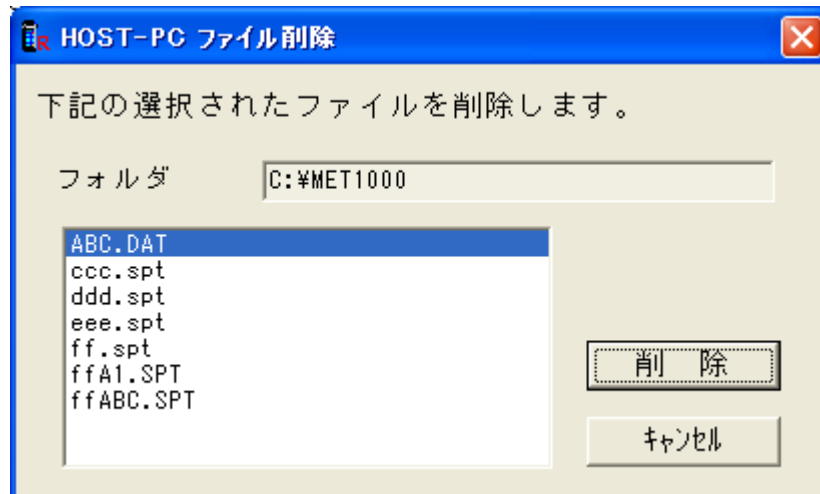
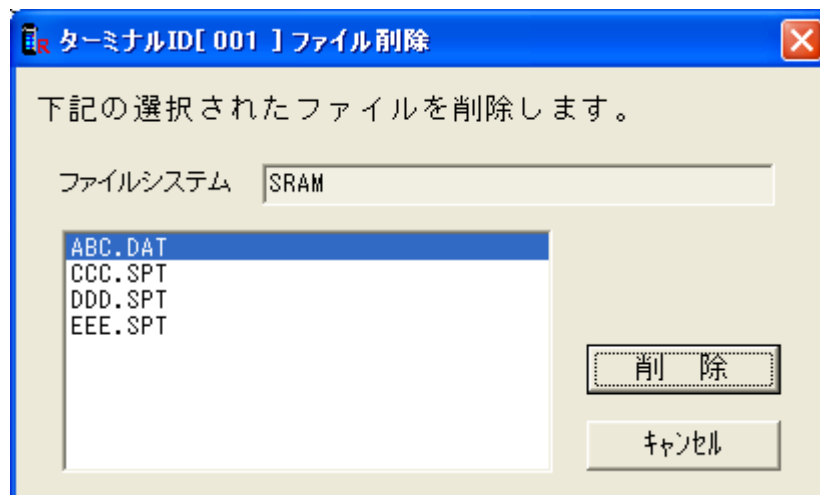
メイン画面の PC-ファイル情報リストボックスから参照するファイルを選択後、メニューの[ファイル（F）]-[ファイル参照（R）]を選択、または PC-ファイル情報リストボックスのファイルをダブルクリックすると、選択されたファイルの拡張子に関連付けされているアプリケーションを起動して選択されたファイルの内容を表示します。

例）「拡張子「txt」を持つファイルを開く場合は、『メモ帳』で開く」と設定されていると、選択されたファイルは『メモ帳』で開きます。

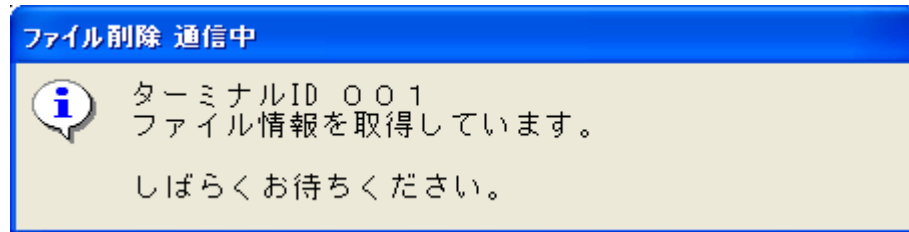
なお、選択されたファイルの拡張子に関連付けされているアプリケーションがなければ、下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

※ メイン画面のターミナル-ファイル情報リストボックスから参照するファイルを選択後、メニューの[ファイル（F）]-[ファイル参照（R）]を選択、またはターミナル－ファイル情報リストボックスのファイルをダブルクリックした場合は下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

※ ファイルの拡張子とアプリケーションの関連付けは、エクスプローラ、またはマイコンピュータのメニューの[表示（V）]-[フォルダ オプション（O）]を選択し「ファイルの種類」タブから設定を行ってください。

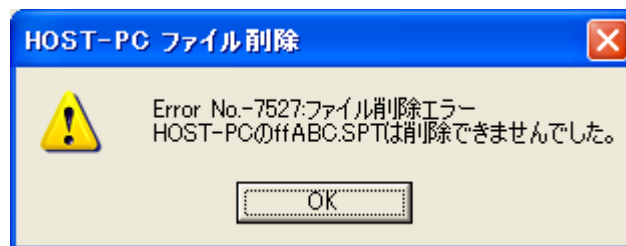
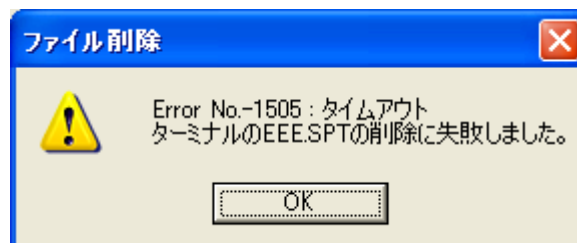
ファイル削除

　メイン画面のPC-ファイル情報リストボックス、またはターミナル接続中にターミナル－ファイル情報リストボックスで削除するファイルを選択後、メニューの[ファイル（F）]-[削除（D）]を選択、または「削除」ボタンを選択すると削除するファイルの一覧リストが、下記のファイル削除画面に表示されます。

【 PC-ファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合 】

【 ターミナル-ファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合】

上記の画面に表示されているファイルが削除対象となるファイルです。

「削除」ボタン
　削除対象のファイルを削除し、メイン画面に戻ります。

※　ターミナルのファイルを削除した場合は削除後、下記の処理中画面を表示してファイル情報取得を行います。

ファイルの削除に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

【 PC のファイルの削除に失敗した場合 】

【 ターミナルのファイルの削除に失敗した場合 】

「キャンセル」ボタン
　削除を行わずにメイン画面に戻ります。

ファイル名変更

メイン画面のPC-ファイル情報リストボックス、またはターミナル接続中にターミナルーファイル情報リストボックスでファイル名を変更するファイルを選択後、メニューの[ファイル（F）]-[名前の変更（M）]を選択、または「名前変更」ボタンを選択すると下記のファイル名変更画面を表示します。

【 PCーファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合 】

HOST-PC ファイル名変更

新しいファイル名を１２７桁以内で入力してください。

フォルダ　D:¥MET-1000¥HT

ファイル名　TEST.TXT

新しいファイル名

OK　キャンセル

【 ターミナルーファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合 】

ターミナルID[001]ファイル名変更

新しいファイル名を１２桁以内で入力してください。

ファイルシステム　SRAM

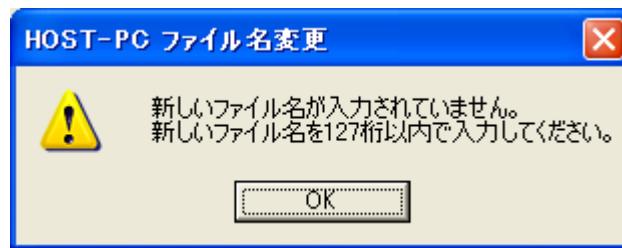
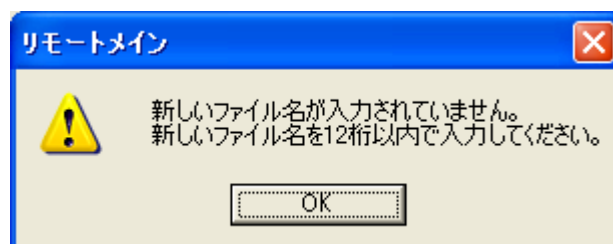
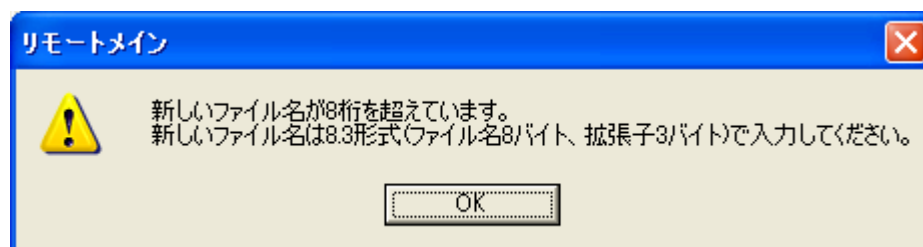
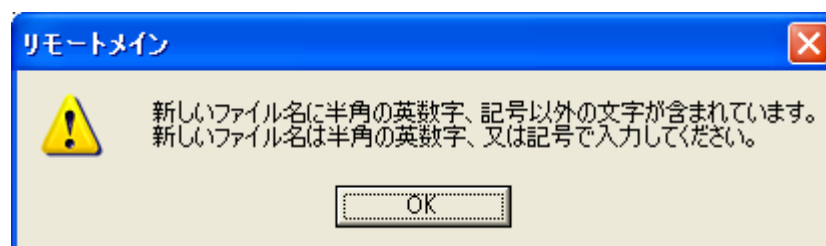
ファイル名　DDD.SPT

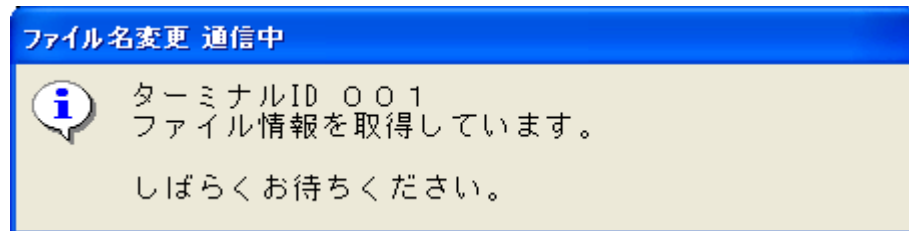
新しいファイル名

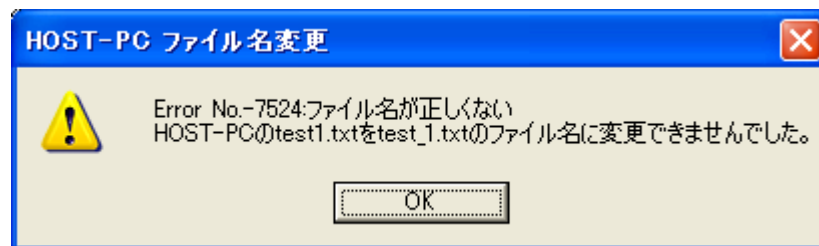
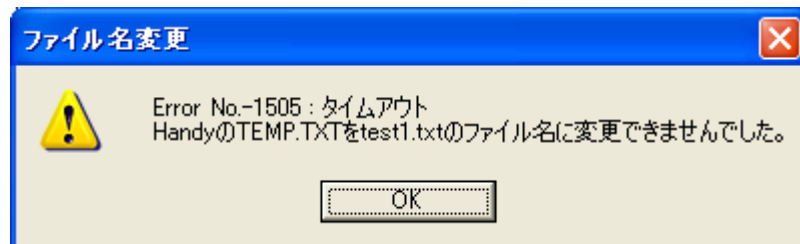
OK　キャンセル

[新しいファイル名]

変更後のファイル名を入力します。PC のファイル名は半角 127 桁までで入力してください。
ターミナルのファイル名は半角 12 桁までで入力してください。なお、漢字、カナ、ひらがなは入力不可です。

【 PC-ファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合 】
※　未入力の場合、下記の画面を表示します。

【 ターミナルーファイル情報リストボックスのファイルを選択した場合 】
※　未入力の場合、下記の画面を表示します。

※　間違ったファイル形式の場合、下記の画面を表示します。

※　ファイル名に漢字・カナを使用した場合、下記の画面を表示します。

「OK」ボタン
　ファイル名を入力されたファイル名に変更し、メイン画面に戻ります。

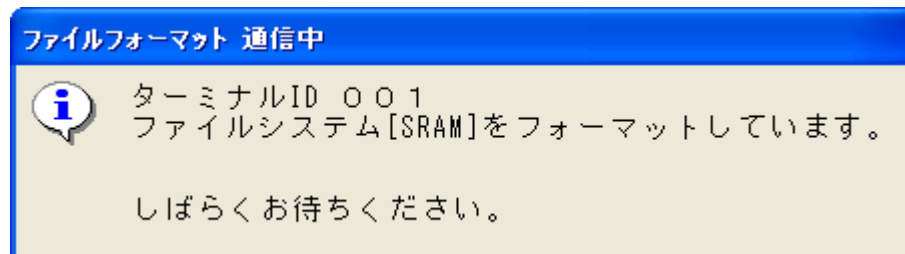
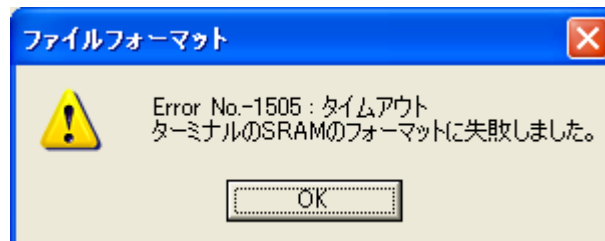
※　ターミナルのファイル名を変更した場合はファイル名の変更後、下記の処理中画面を表示してファイル情報取得を行います。

ファイル名の変更に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

【 PC のファイル名の変更に失敗した場合 】

【 ターミナルのファイル名の変更に失敗した場合 】

「キャンセル」ボタン
　ファイル名を変更せずにメイン画面に戻ります。

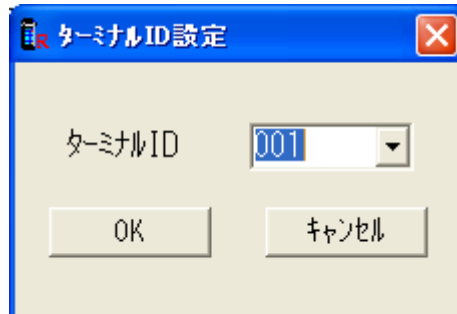
ファイルフォーマット

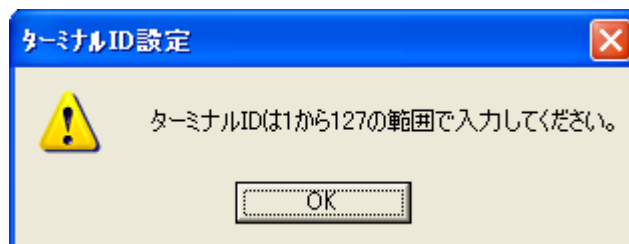
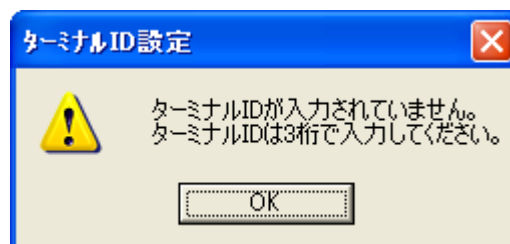
ターミナル接続中にメニューの[ファイル（F）]-[ファイルフォーマット（F）]を選択すると下記のファイルフォーマット画面を表示します。

[Temninal FileSystem]
ファイルフォーマットを行うターミナルのファイルシステムを選択してください。
ボックス右の▼をクリックするとファイルシステムの一覧リスト（SRAM／FROM）を表示しますので、ファイルシステムを一覧リストから選択してください。

「OK」ボタン
選択したファイルシステムのフォーマットを開始し、下記の処理中画面を表示します。
フォーマットが終了するとメイン画面に戻ります。

フォーマットに失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
ファイルフォーマットを行わずにメイン画面に戻ります。

ターミナル ID 設定

メニューの[設定（C）]-[ターミナル ID 設定（H）]を選択、または「ターミナル ID」ボタンを選択すると下記の ID 設定画面を表示します。

[ターミナル ID]
接続するターミナルのターミナル ID を設定します。
ターミナル ID は "001" ～ "127" の３桁で入力してください。
また、ボックス右の▼をクリックすると設定できるターミナル ID の一覧リストを表示しますので、ターミナル ID を一覧リストから選択してください。

※　設定したターミナル ID が１～１２７の範囲外の場合、以下の画面を表示します。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

「OK」ボタン
入力したターミナル ID を接続するターミナルのターミナル ID として設定し、メイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
ターミナル ID を設定せずにメイン画面に戻ります。

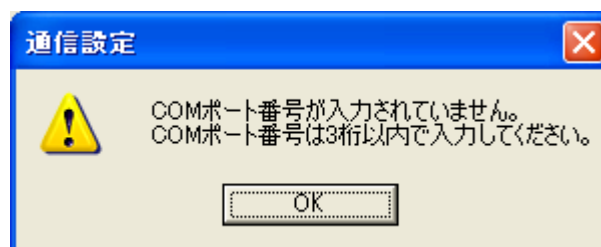
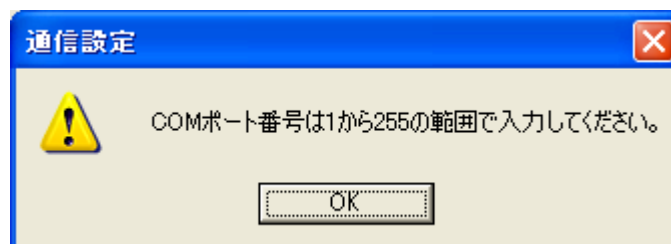
※ 本アプリケーション起動時のターミナル ID は "001" になっています。

通信設定

メニューの[設定（C）]-[通信設定（T）]を選択すると、下記の通信設定画面を表示します。

[通信条件の設定]

1）COM ポート番号
ターミナルとの通信に使用するCOM ポートの番号を設定してください。
COM ポート番号は 1～255 の間で入力してください。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

2）パリティ
本モードでは、パリティはNONE（パリティなし）固定です。

3）ボーレート

ターミナルとの通信ボーレートを設定してください。

ボーレートは 2400bps、4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps、115.2Kbps の何れかから選択してください。

※ ボーレートが遅い場合、PC の動作環境等により通信タイムアウト設定のポーリングタイムアウト値の調整が必要となる場合があります。

4）データ長

本モードでは、データ長は８ビット固定です。

5）ストップビット

本モードでは、ストップビットは１ビット固定です。

6）通信タイムアウト

ポーリングタイムアウト値を設定してください。

ポーリングタイムアウト値は 100ms~5000ms の間で入力してください。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

[履歴に関する設定]

1）ファイル作成の有無

履歴ログファイルを作成するか否かを設定してください。

ファイル作成の有無は「無」（作成しない）、「新規」、「追加」から選択してください。

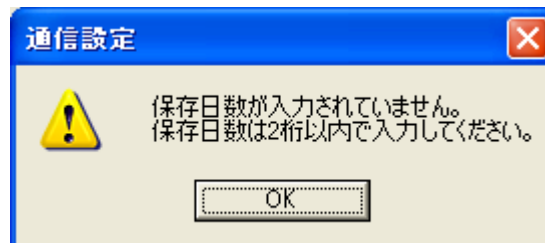
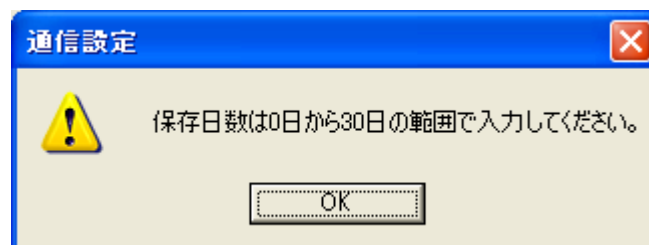
なお、「新規」は起動時に同一ファイル名の履歴ファイルが存在すれば、そのファイルを削除してから履歴ファイルを作成し、履歴ログを書込みます。「追加」は起動時に同一ファイル名が存在していれば、そのファイルに履歴ログを追加書込みします。

※ 履歴ファイルは本アプリケーションを起動したフォルダに作成されます。

2）保存日数

履歴ログファイルの保存に日数を設定してください。

設定された日数分、履歴ファイルを保存します。なお、保存日数を０日に設定した場合、履歴ファイルは削除されません。

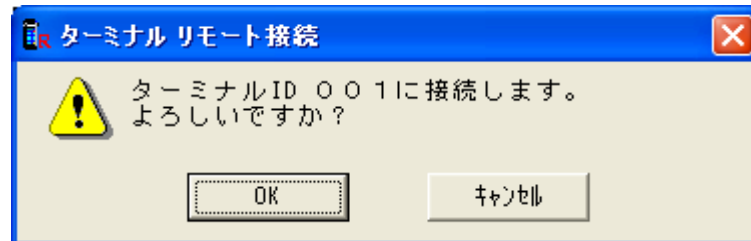
※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

「OK」ボタン

設定された内容を通信設定に設定して、メイン画面へ戻ります。

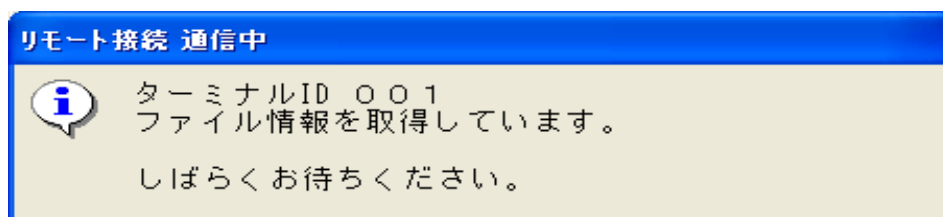
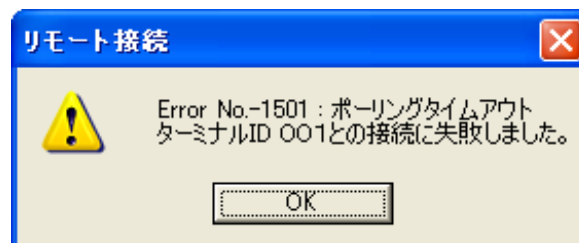
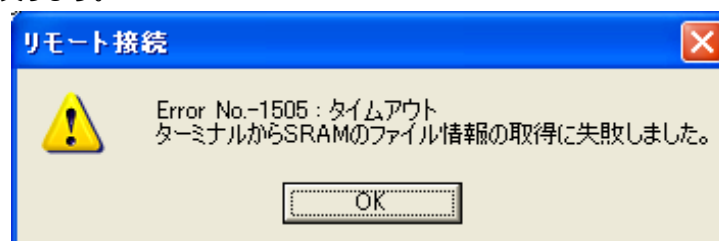
「キャンセル」ボタン

設定された内容を破棄して、メイン画面へ戻ります。

リモート接続

メニューの[実行（S）]-[リモート接続（O）]を選択、または「接続」ボタンを選択すると下記のリモート接続画面を表示します。

「OK」ボタン

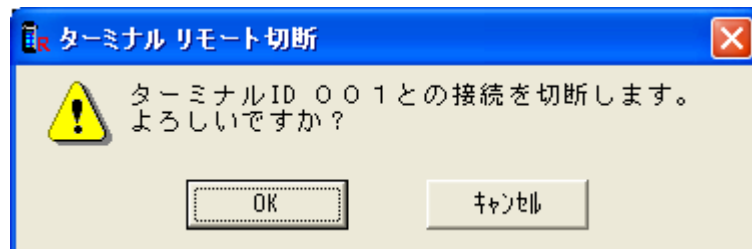
設定したターミナル ID のターミナルと接続し、ファイルシステム（SRAM）のファイル情報を取得した後に、メイン画面に戻ります。

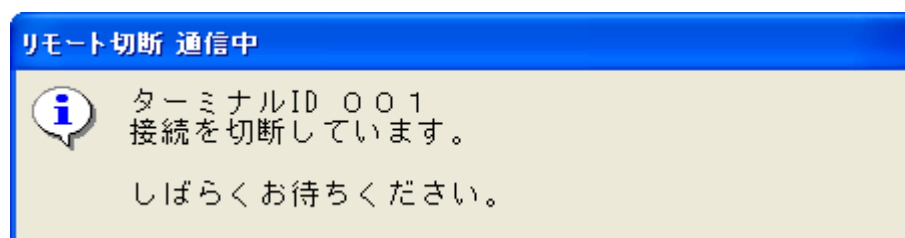
※ リモート接続中は、下記の処理中画面を表示します。

ターミナルとの接続に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

また、ファイルシステムのファイル情報の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

※ ターミナルとリモート接続後、メイン画面のターミナル接続ステータスに“接続中”を表示します。

「キャンセル」ボタン

接続を行わずにメイン画面に戻ります。

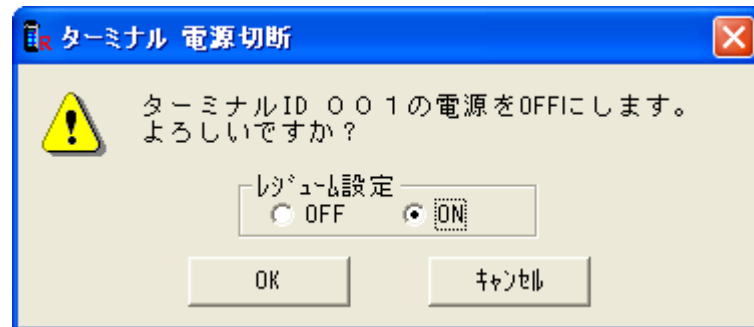
リモート切断

ターミナル接続中にメニューの[実行（S）]-[リモート切断（C）]を選択、または「切断」ボタンを選択すると下記のリモート切断画面を表示します。

「OK」ボタン
接続しているターミナルと接続を切断し、メイン画面に戻ります。

※　リモート切断中は、下記の処理中画面を表示します。

※ ターミナルとのリモート接続切断後、メイン画面のターミナル接続ステータスに"未接続"を表示します。

「キャンセル」ボタン
切断を行わずにメイン画面に戻ります。

ターミナル電源切断

ターミナル接続中にメニューの[実行（S）]-[ターミナル電源切断（P）]を選択すると下記のターミナル電源切断画面を表示します。

[レジューム設定]

再度、接続しているターミナルの電源をONした時にターミナルで設定されているレジューム設定に従うか否かを設定します。

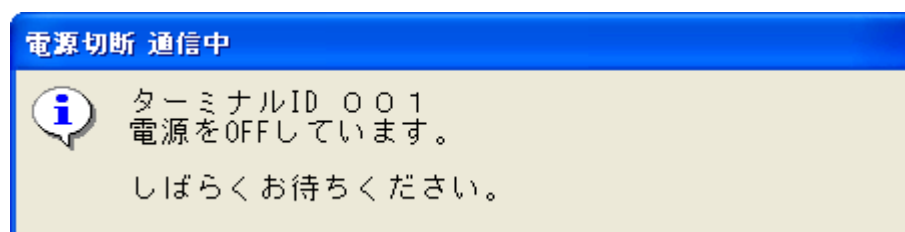
・OFF の場合はターミナルで設定されているレジューム設定に従いません。ターミナルのレジューム設定が「OFF」の時と同じとなります。

・ON の場合はターミナルで設定されているレジューム設定に従います。

※ 本レジューム設定はターミナルのレジューム設定を行うものではありません。
ターミナルのレジューム設定は、メニューの「環境（K）」-「環境設定値変更（U）」で行ってください。

「OK」ボタン

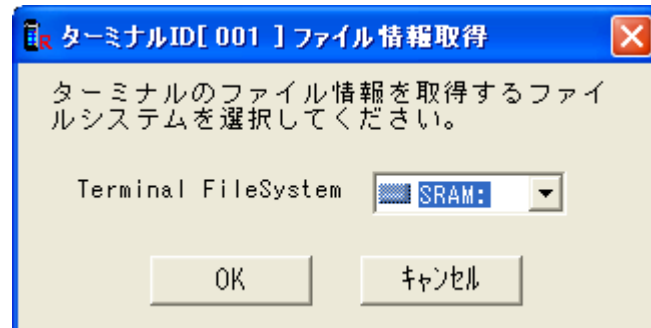
接続しているターミナルの電源をOFFし、メイン画面に戻ります。

※　ターミナル電源切断中は、下記の処理中画面を表示します。

※　ターミナルの電源をOFFにするので、ターミナルとは未接続状態となります。
メイン画面のターミナル接続ステータスに“未接続”を表示します。

「キャンセル」ボタン

ターミナルの電源をOFFせずにメイン画面に戻ります。

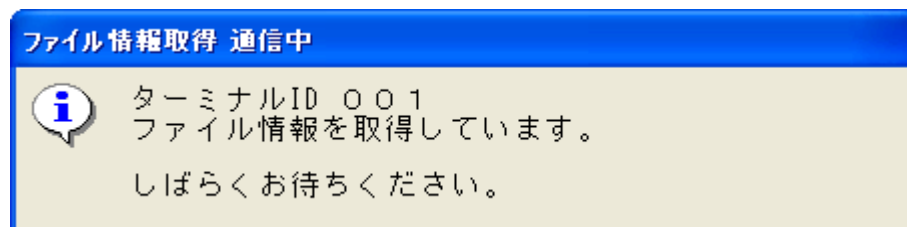
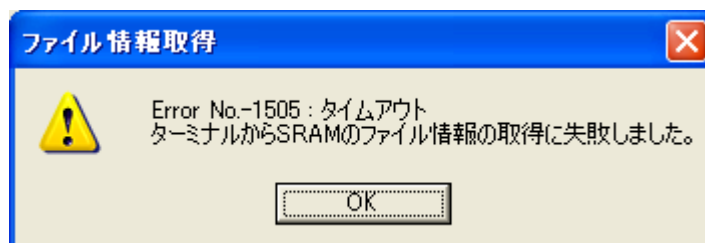
ファイル情報取得

ターミナル接続中にメニューの[表示（V）]-[ファイル情報の取得（I）]、またはターミナル―ファイルシステム選択ボックスでファイルシステムを選択すると下記のファイル情報取得画面を表示します。

[Terminal FileSystem]

ファイル情報を取得するターミナルのファイルシステムを選択してください。
ボックス右の▼をクリックするとファイルシステムの一覧リスト（SRAM／FROM）を表示しますので、ファイルシステムを一覧リストから選択してください。

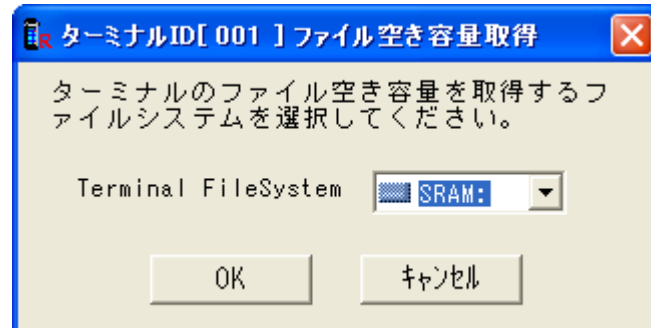
「OK」ボタン

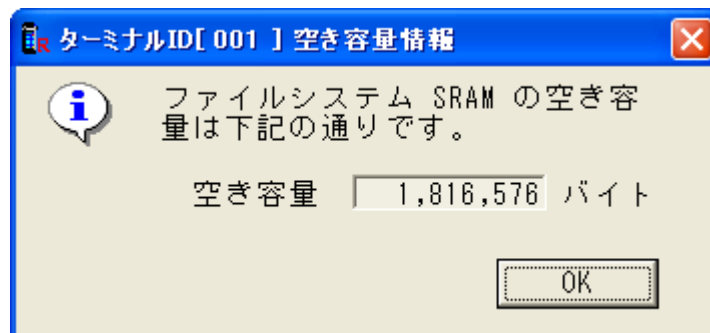
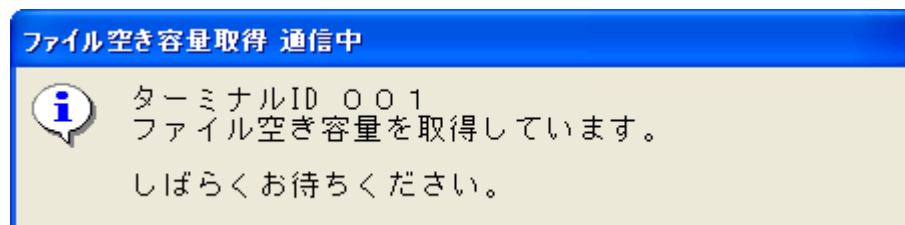
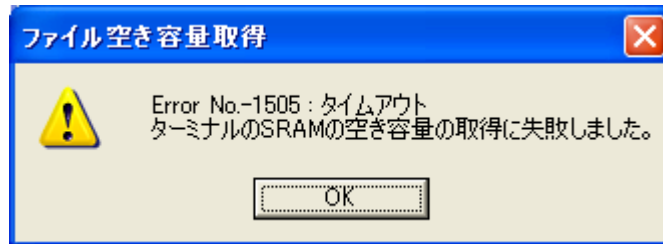
選択したファイルシステムのファイル情報を取得し、メイン画面に戻ります。なお、取得したターミナルのファイル情報はメイン画面のターミナル―ファイル情報一覧ボックスに表示します。

※　ファイル情報取得中は、下記の処理中画面を表示します。

ファイル情報の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン

ファイル情報を取得せずにメイン画面に戻ります。

空き容量取得

ターミナル接続中にメニューの[表示（V）]-[空き容量の取得（S）]を選択すると下記のファイル空き容量取得画面を表示します。

[Terminal FileSystem]
空き容量を取得するターミナルのファイルシステムを選択してください。
ボックス右の▼をクリックするとファイルシステムの一覧リスト（SRAM／FROM）を表示しますので、ファイルシステムを一覧リストから選択してください。

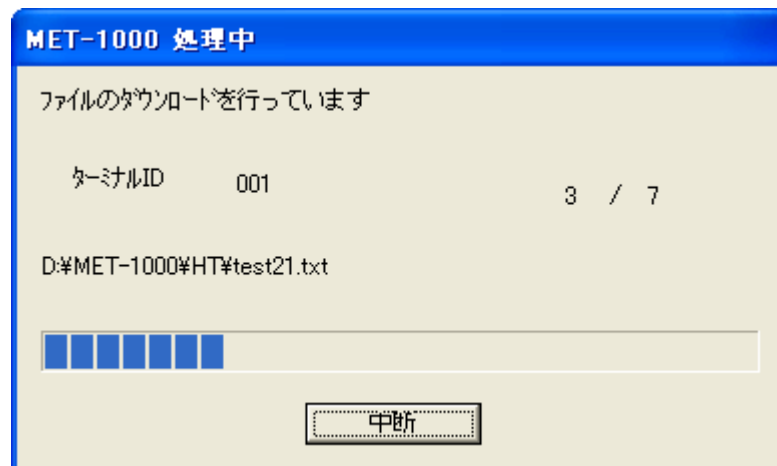
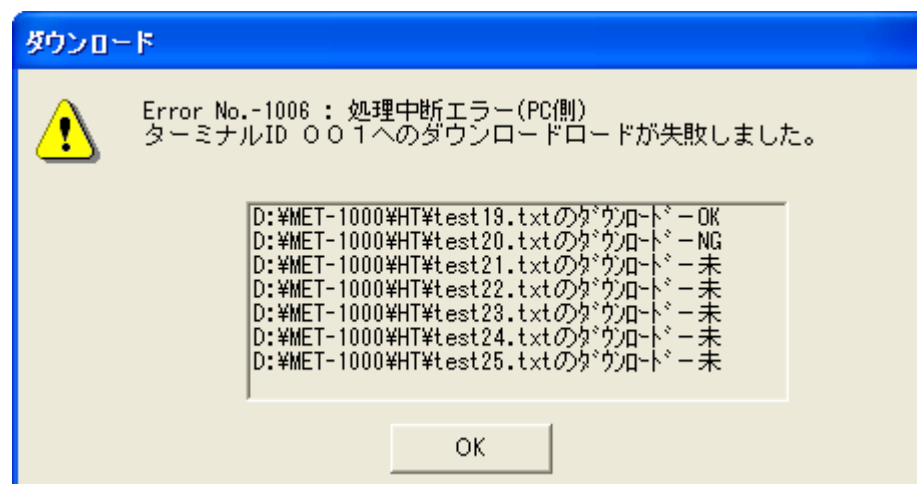
「OK」ボタン
選択したファイルシステムの空き容量を取得し、下記の空き容量表示画面を表示します。
「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

※ 空き容量取得中は、下記の処理中画面を表示します。

空き容量の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
空き容量を取得せずにメイン画面に戻ります。

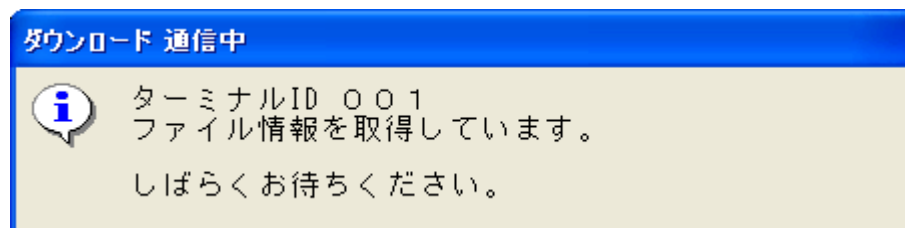
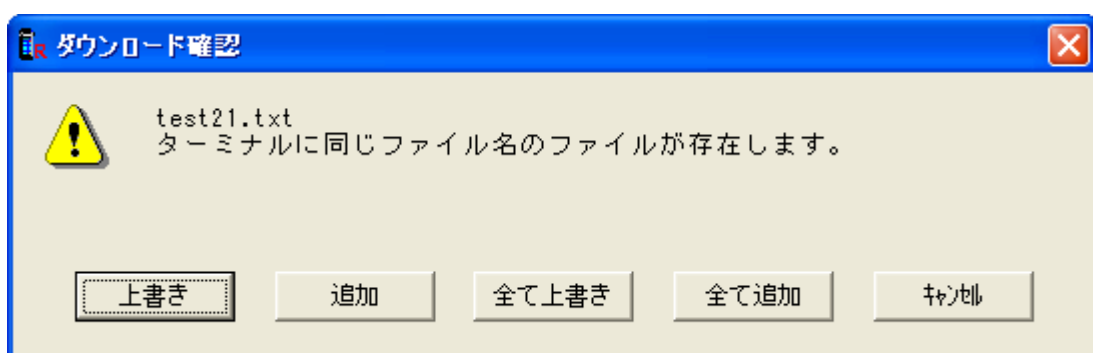
最新情報の取得

メニューの[表示（V）]-[最新情報の取得（R）]を選択、または「最新情報」ボタンをクリックするとPC内のフォルダやファイル情報を最新情報に更新します。

ダウンロード

ターミナル接続中にメイン画面の PC―ファイル情報リストボックスでターミナルへダウンロードするファイルを選択した後にメニューの[転送（T）]-[ダウンロード（D）]を選択、または「ダウンロード」ボタンを選択すると下記の処理中画面を表示し、PC からターミナルへダウンロードを開始します。

また、ターミナル接続中にメイン画面の PC―ファイル情報リストボックスでターミナルへダウンロードするファイルを選択し、ターミナル―ファイル情報リストボックスへドラッグ＆ドロップすると下記の処理中画面を表示し、PC からターミナルへダウンロードを開始します。

上記の処理中画面で「中断」ボタンをクリックするとダウンロードを中断し、下記の処理結果画面を表示します。

ダウンロードが失敗すると下記の処理結果画面を表示します。

ダウンロードが正常に終了、または処理結果画面で「OK」をクリックすると、下記の処理中画面を表示してファイル情報取得を行い、メイン画面に戻ります。

なお、ダウンロードを開始する前にダウンロードするファイルと同一ファイル名を持つファイルがターミナルに存在していれば、下記のダウンロード確認画面を表示します。

「上書き」ボタン
　ファイルを上書きします。

「追加」ボタン
　ファイルに追加書込みします。

「全て上書き」ボタン
　選択した全てのファイルを上書きします。

「全て追加」ボタン
　選択した全てのファイルを追加書込みします。

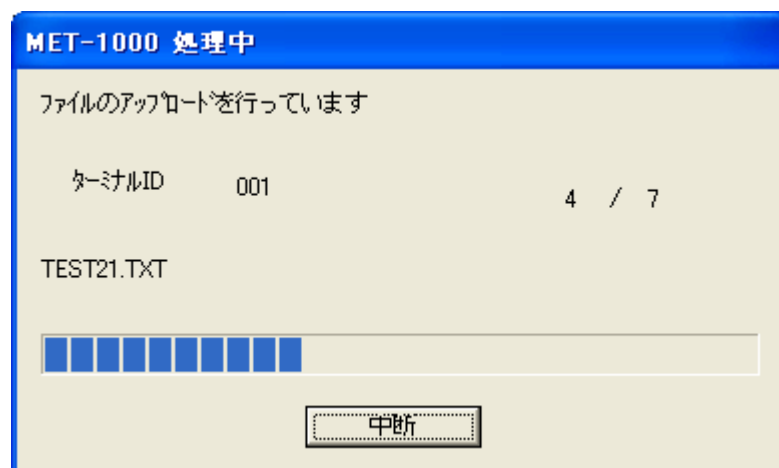
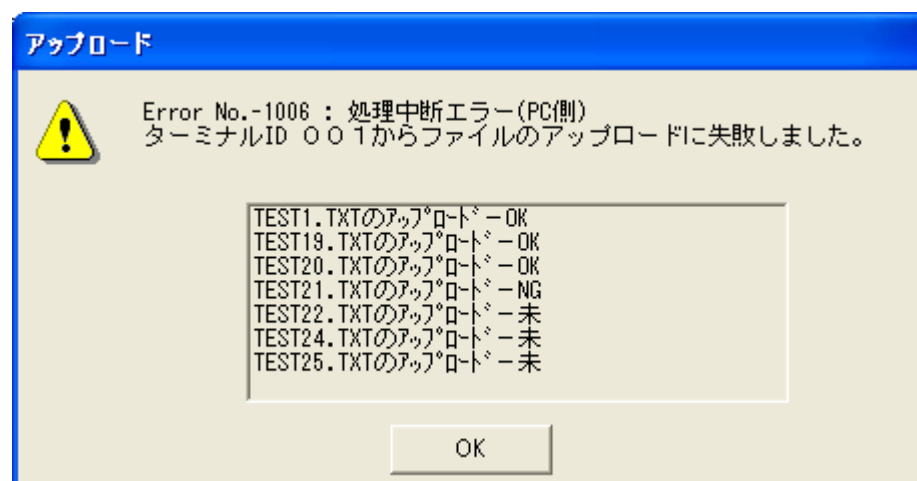
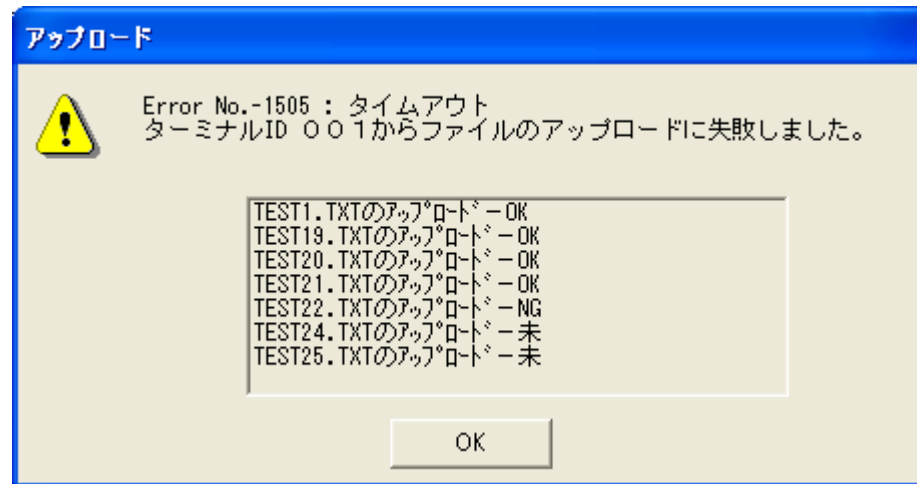
「キャンセル」ボタン
　ダウンロードを中止し、メイン画面に戻ります。

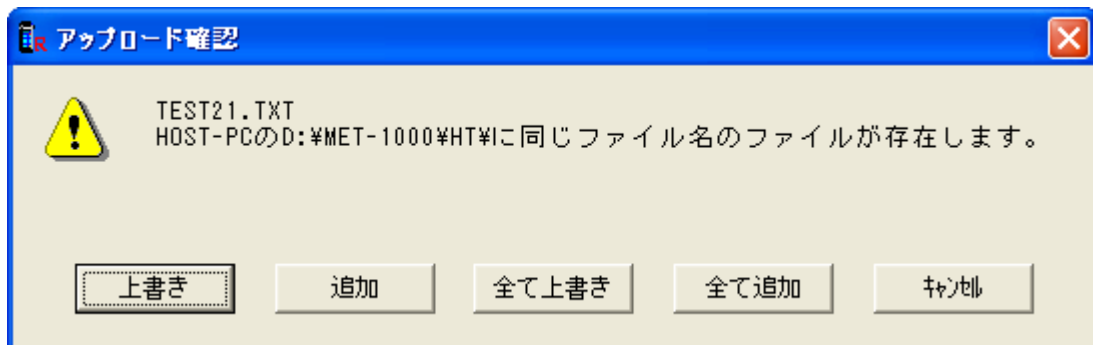
アップロード

ターミナル接続中にメイン画面のターミナル―ファイル情報リストボックスでターミナルからアップロードするファイルを選択した後にメニューの[転送（T）]-[アップロード（U）]を選択、または「アップロード」ボタンを選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルから PC へアップロードを開始します。

また、ターミナル接続中にメイン画面のターミナル―ファイル情報リストボックスでターミナルからアップロードするファイルを選択し、PC―ファイル情報リストボックスへドラッグ＆ドロップするとターミナルからアップロードを開始します。

注意

ご使用の OS が Windows Vista，Windows 7 の場合、¥Program Files フォルダの下にファイルをアップロードすると、ユーザアカウント制御（UAC）によってアップロードしたファイルが実際には別の場所に作成されます。アップロードするファイルは¥Program Files 以下以外のフォルダを設定することをお勧めします。
もし、¥Program Files フォルダの下にファイルをアップロードした場合、実際に作成されたファイルを参照するには、エクスプローラでアップロードしたフォルダを表示して、ツールバーの［互換性ファイル］ボタンをクリックしてください。

上記の処理中画面で「中断」ボタンをクリックするとアップロードを中断し、下記の処理結果画面を表示します。下記の処理結果画面で「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

アップロードが失敗すると下記の処理結果画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

アップロードが正常終了するとメイン画面に戻ります。

なお、アップロードを開始する前にアップロードするファイルと同一ファイル名を持つファイルが PC に存在していれば、下記のアップロード確認画面を表示します。

「上書き」ボタン
　ファイルを上書きします。

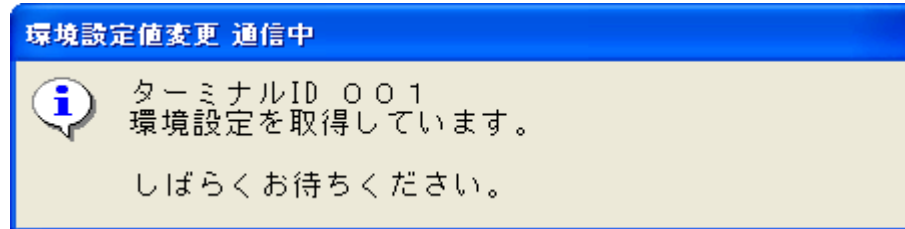
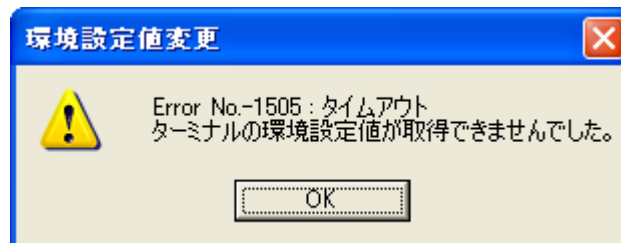
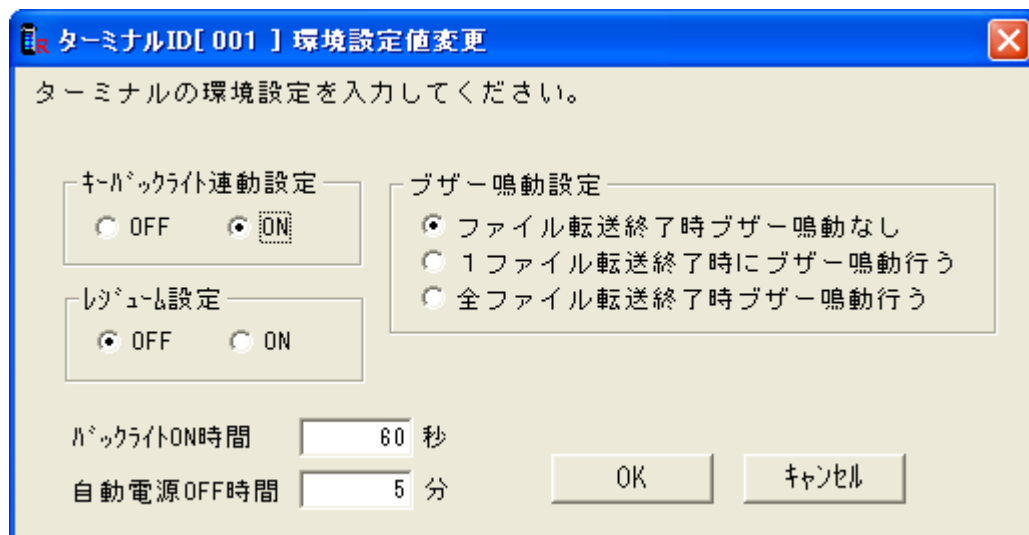
「追加」ボタン
　ファイルに追加書込みします。

「全て上書き」ボタン
　選択した全てのファイルを上書きします。

「全て追加」ボタン
　選択した全てのファイルを追加書込みします。

「キャンセル」ボタン
　アップロードを中止し、メイン画面に戻ります。

環境設定値変更

ターミナル接続中にメニューの[環境（K）]-[環境設定値変更（U）]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルから環境設定値を取得します。

ターミナルから環境設定値の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

ターミナルから環境設定値を取得すると、取得した環境設定値を下記の環境設定値変更画面に表示します。

[キーバックライト連動設定]

キー押下でバックライトの点灯と連動させるか否かを設定してください。

OFF ：キー押下でバックライトの点灯と連動させない。
ON ：キー押下でバックライトの点灯と連動させる。

[レジューム設定]

レジューム起動の有無を設定してください。

OFF ：レジューム起動しない。
ON ：レジューム起動する。

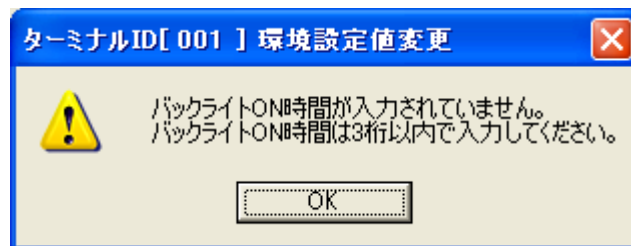
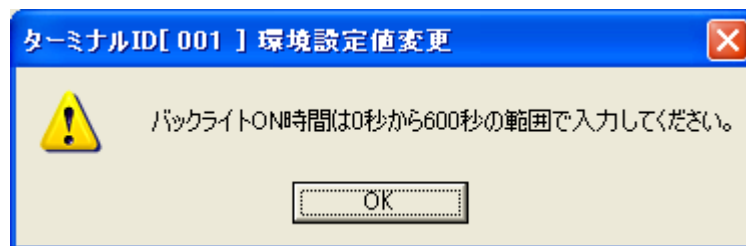
[ブザー鳴動設定]

ファイルのアップロード・ダウンロードにおいて、ファイル転送が終了した時にブザーを鳴動するか否かを設定してください。

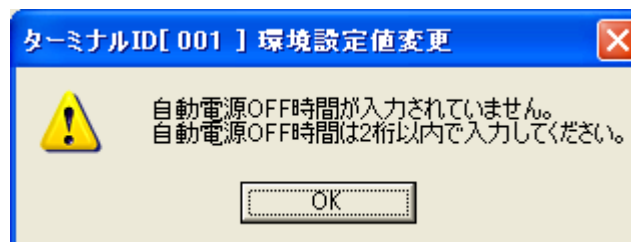
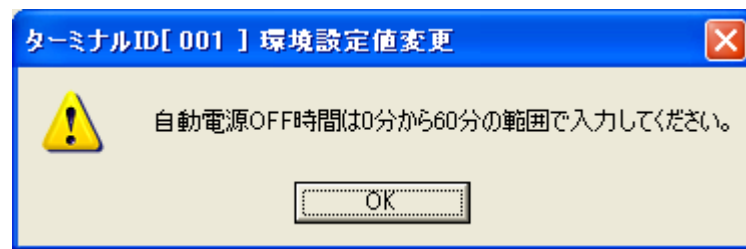
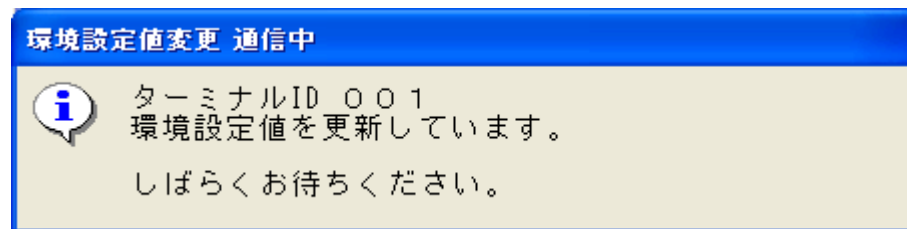
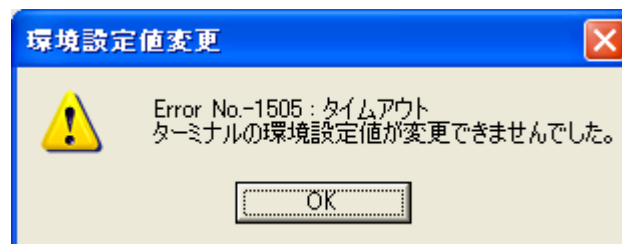
※ ターミナルの電源を OFF にするとブザー鳴動設定は初期化（ファイル転送終了時にブザー鳴動なし）されます。

[バックライト ON 時間]

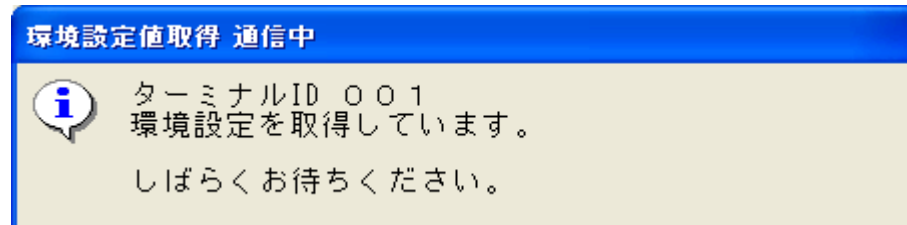
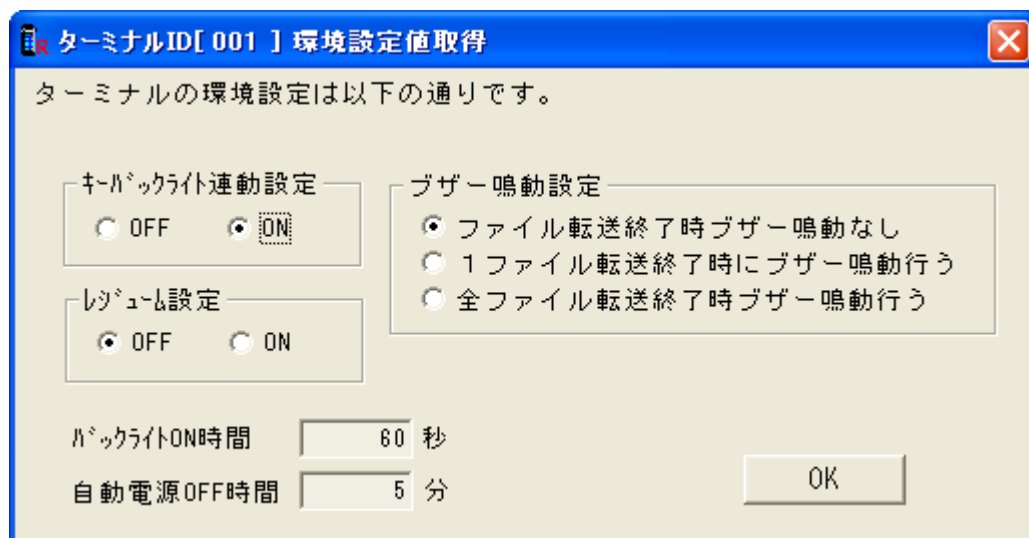
バックライトを点灯する時間を設定してください。
バックライト ON 時間は 0 秒～600 秒の範囲で入力してください。

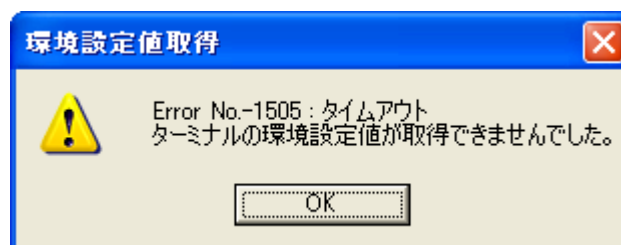
※ 未入力の場合、以下の画面を表示します。

※ 範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

[自動電源 OFF 時間]

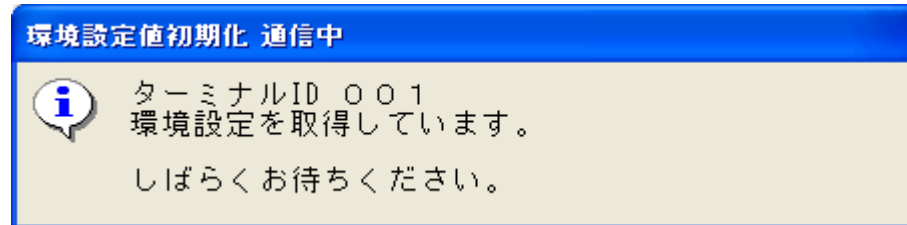
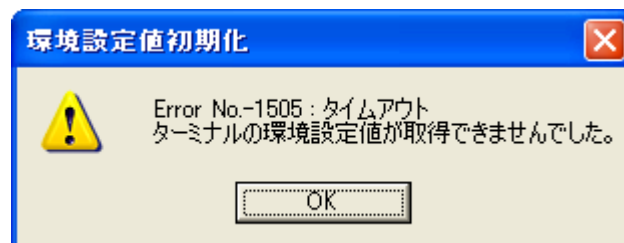
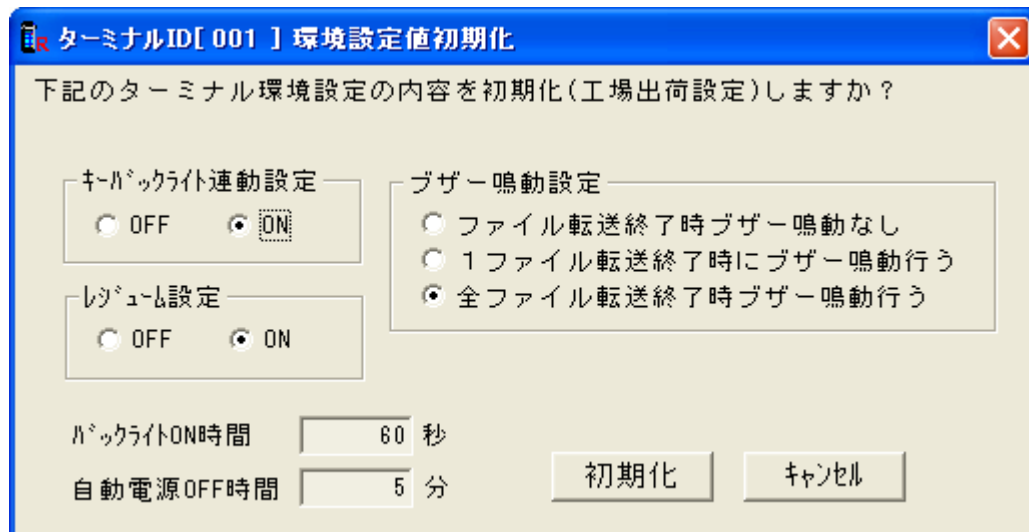
自動的にターミナルの電源を OFF する時間を設定してください。
自動電源 OFF 時間は 0 分～60 分の範囲で入力してください。

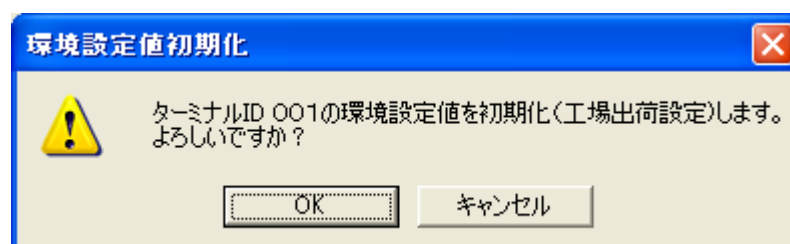
※ 未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

「OK」ボタン
　下記の処理中画面を表示し、ターミナルの環境設定値を入力された環境設定値で設定します。

　ターミナルへ環境設定値の設定が終わると、メイン画面に戻ります。
　ターミナルへ環境設定値の設定に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
　環境設定を行わずにメイン画面に戻ります。

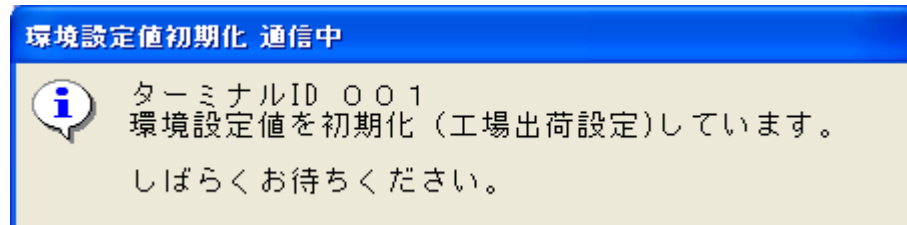
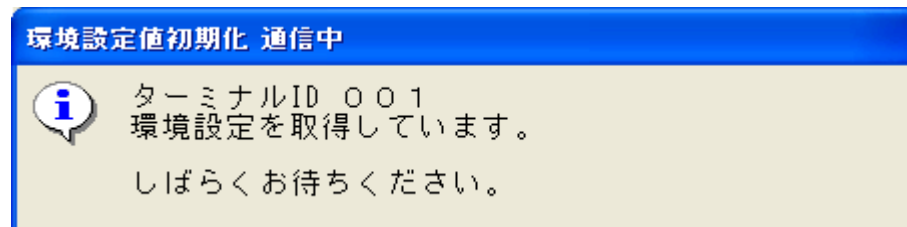
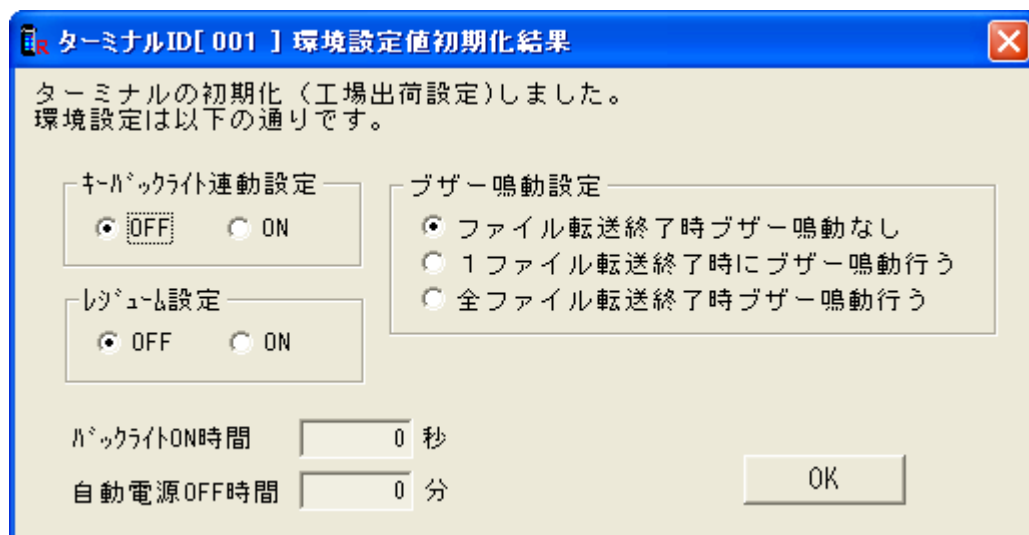
環境設定値取得

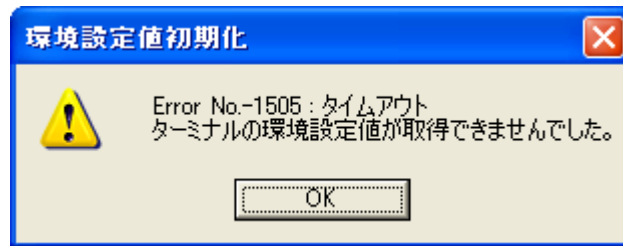
ターミナル接続中にメニューの[環境（K）]-[環境設定値取得（G）]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルから環境設定値を取得します。

環境設定値を取得すると、取得した環境設定値を下記の環境設定値取得画面に表示します。

上記の画面で「OK」ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

なお、ターミナルの環境設定値の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

環境設定初期化

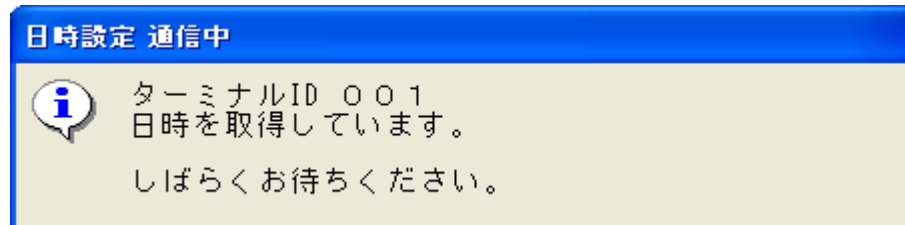
ターミナル接続中にメニューの[環境（K）]-[環境設定初期化（I）]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルから環境設定値を取得します。

ターミナルから環境設定値の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

ターミナルから環境設定値の取得すると、取得した環境設定値を下記の環境設定初期化画面を表示します。

「初期化」ボタン

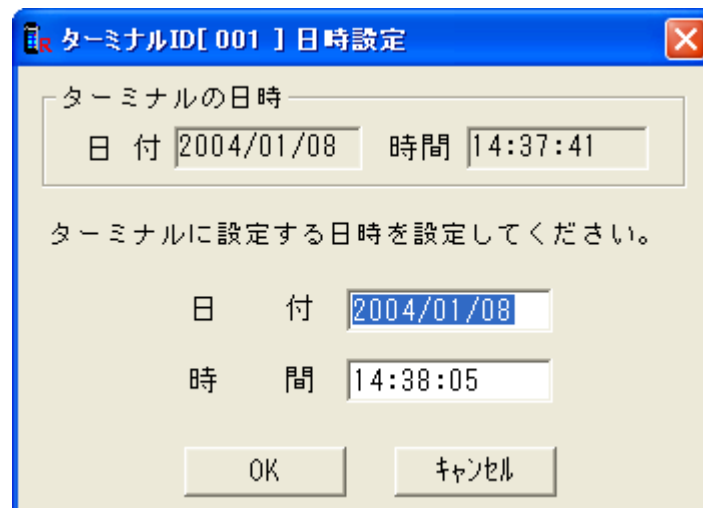
下記の確認画面を表示します。

「OK」ボタンをクリックするとターミナルの環境設定を初期化します。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、環境設定の初期化を行わずにメイン画面に戻ります。

初期化中は、下記の処理中画面を表示します。

環境設定値の初期が終わると、下記の処理中画面を表示し、ターミナルから環境設定値を取得します。

ターミナルから環境設定値の取得すると、取得した環境設定値を下記の結果画面に表示します。

「OK」ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

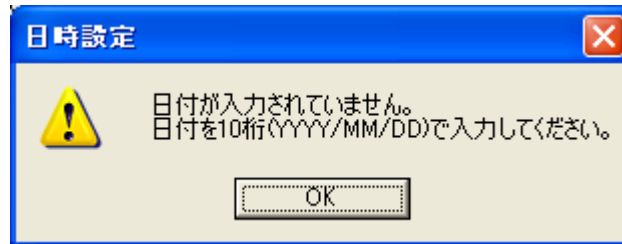
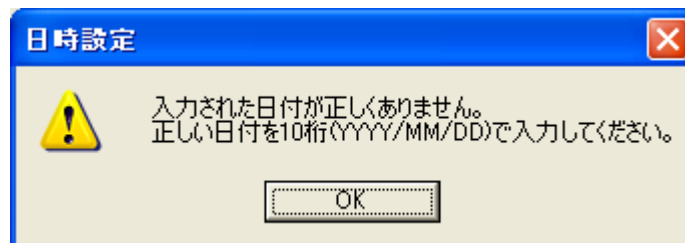
なお、ターミナルの環境設定値の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
環境設定の初期化を行わずにメイン画面に戻ります。

日時設定

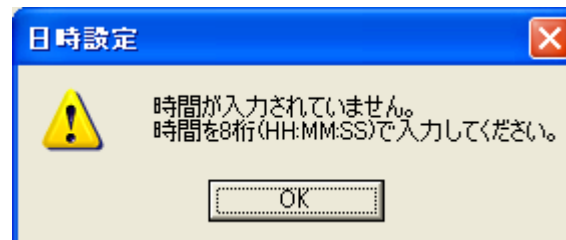
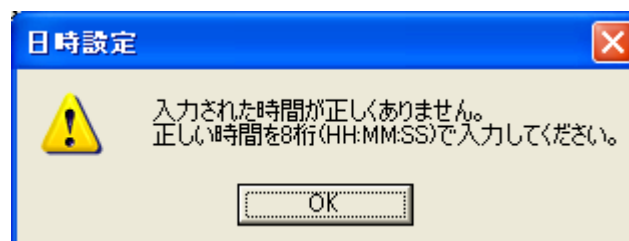
ターミナル接続中にメニューの[環境（K）]-[日時設定（D）]を選択すると下記の日時取得中画面を表示します。

日時の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

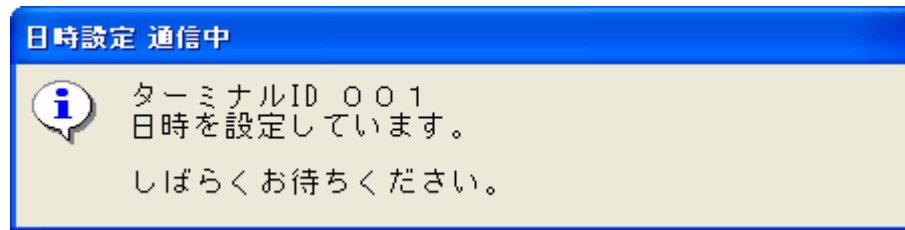
日時が取得できると下記の日時設定画面を表示します。

[ターミナルの日時]
　ターミナルより取得したターミナルの日付／時間が表示されます。

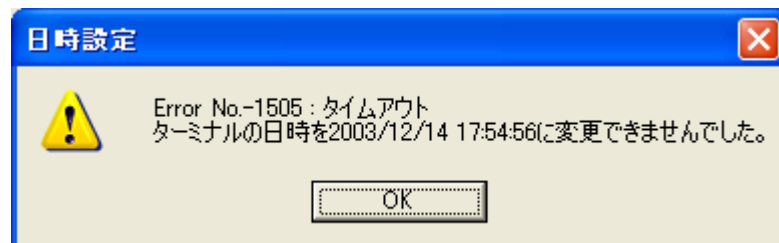
[日　　付]
　ターミナルに設定する日付を設定してください。
　日付は１０桁（ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤ形式）で入力してください。
　なお、“／”は自動的に入力されます。

※ 日付が未入力の場合は下記の画面を表示します。

※ 日付が不正な値の場合は下記の画面を表示します。

[時　　間]

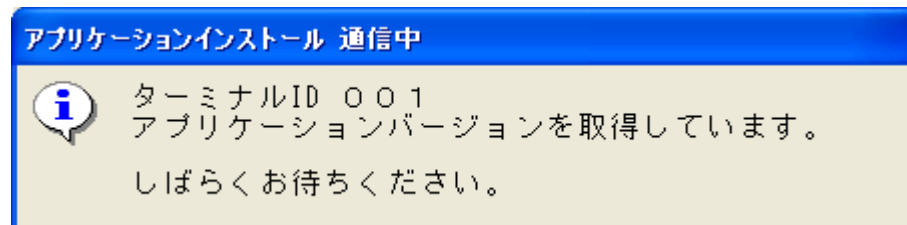
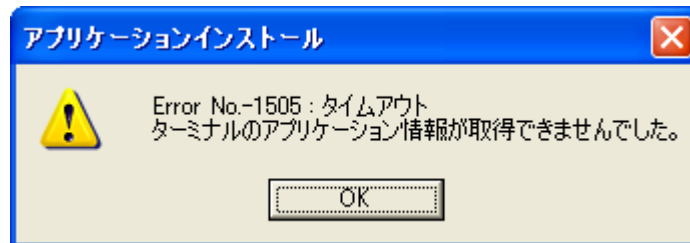
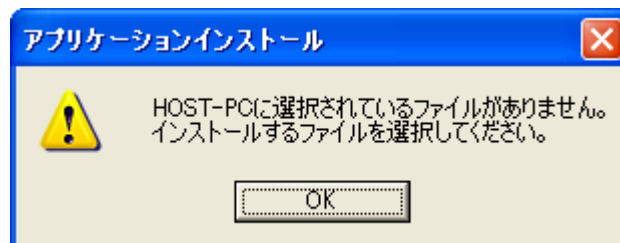
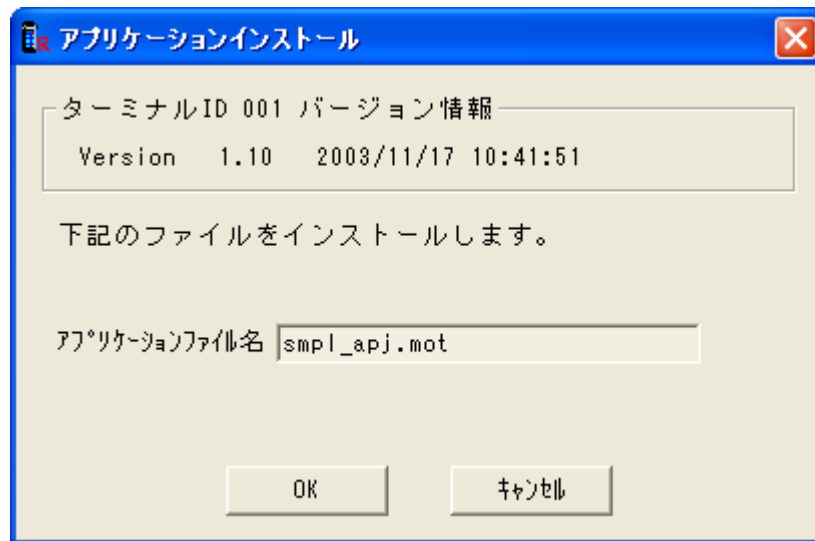
ターミナルに設定する時間を設定してください。
時間は8桁（HH：MM：SS形式）で入力してください。
なお、“：”は自動的に入力されます。

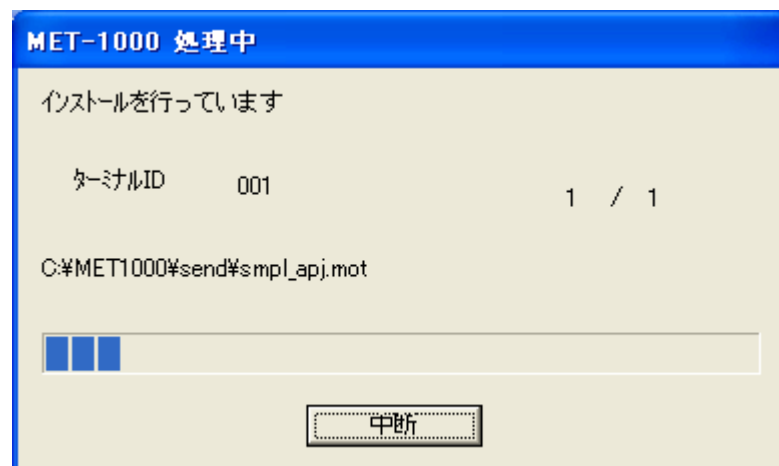
※ 時間が未入力の場合は下記の画面を表示します。

※ 時間が不正な値の場合は下記の画面を表示します。

「OK」ボタン

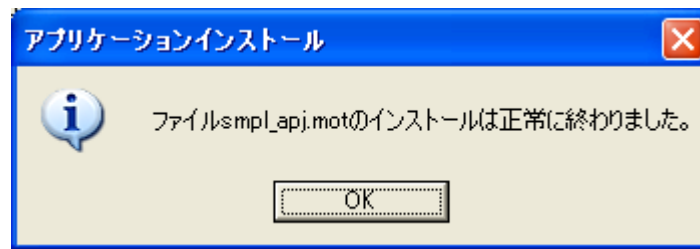
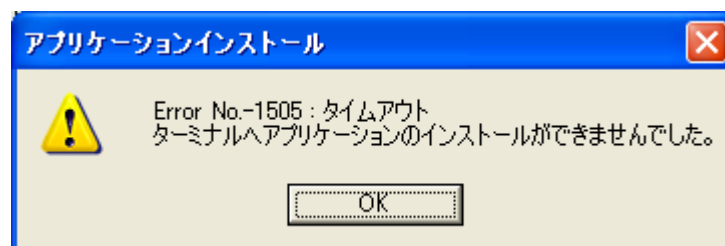
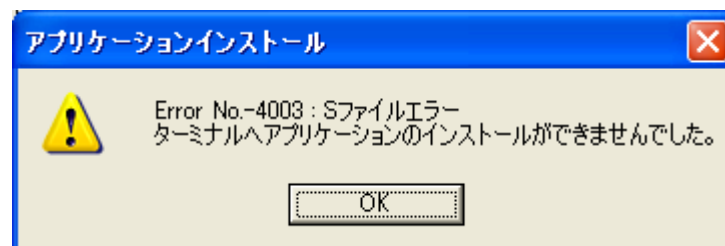
下記の処理中画面を表示し、ターミナルの日付／時間を入力された日付と時間で設定します。

ターミナルの日付／時間の設定が正常に終わるとメイン画面に戻ります。

ターミナルの日付／時間の設定に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
　日時設定を行わずにメイン画面に戻ります。

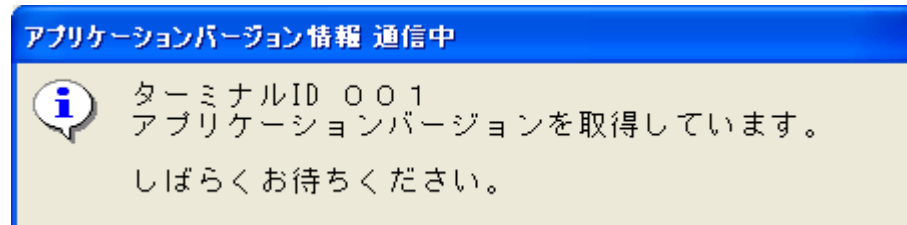
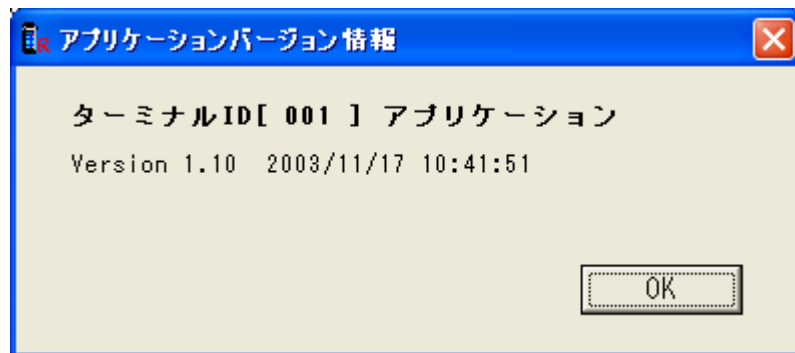
アプリケーションインストール

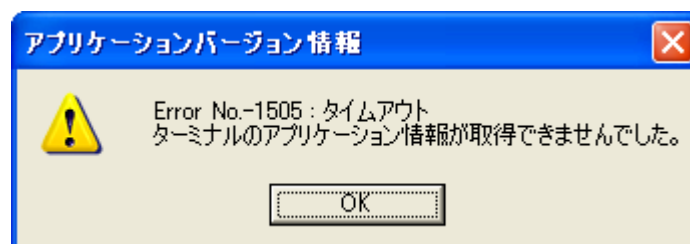
ターミナル接続中にメイン画面の PC—ファイル情報リストボックスでインストールするアプリケーションのファイル（S フォーマットのファイル）を選択した後にメニューの[アプリケーション（A）]-[AP インストール（I）]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルからアプリケーションのバージョン情報を取得します。

アプリケーションバージョン情報の取得中にタイムアウトエラーが発生すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

PC—ファイル情報リストボックス内のファイルが未選択の場合、下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

バージョン情報を取得すると、下記のアプリケーションインストール画面を表示します。なお、バージョン情報の取得に失敗（タイムアウトエラーは除く）場合は、バージョン情報の表示欄に「バージョン情報がありません」を表示します。

※ ターミナルにインストールされているアプリケーションのバージョンを確認してください。

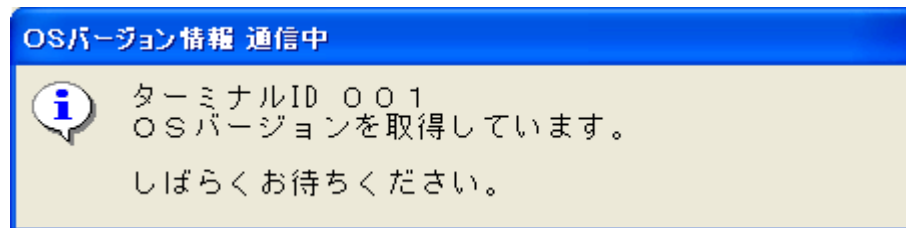
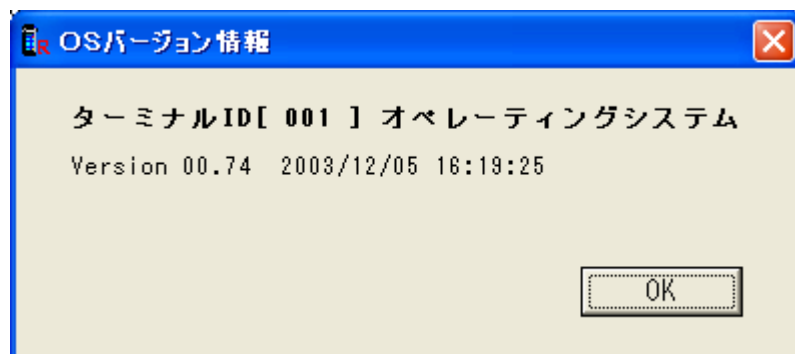
「OK」ボタン
ターミナルへアプリケーションのインストールが開始し、下記の処理中画面を表示します。

上記の処理中画面で「中断」ボタンをクリックするとアプリケーションのインストールを中断し、メイン画面に戻ります。

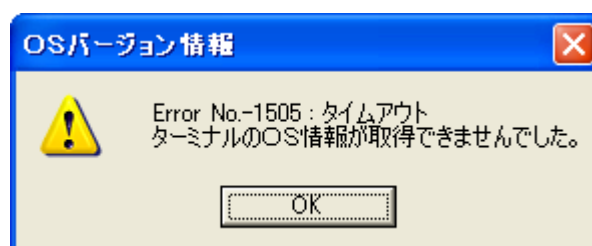
アプリケーションのインストールが正常に終わると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

アプリケーションのインストールが失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

指定したアプリケーションのフォーマットが違う場合(例:テキストファイルを指定)、下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン
アプリケーションのインストールを行わずにメイン画面に戻ります。

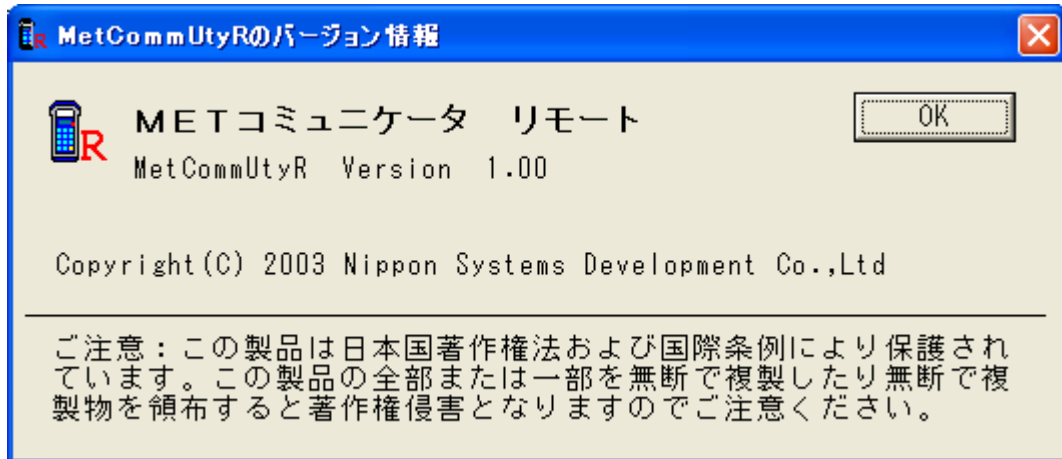
アプリケーションバージョン情報取得

ターミナル接続中にメニューの[アプリケーション（A）]-[AP バージョン情報（A）]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルからアプリケーションのバージョン情報を取得します。

バージョン情報を取得すると、取得したバージョン情報を下記のアプリケーションバージョン情報画面に表示します。

上記の画面で「OK」ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

ターミナルからアプリケーションのバージョン情報の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

ＯＳバージョン情報取得

ターミナル接続中にメニューの[OS (O)]-[OS バージョン情報 (A)]を選択すると下記の処理中画面を表示し、ターミナルから OS のバージョン情報を取得します。下記の OS バージョン情報画面を表示します。

バージョン情報を取得すると、取得したバージョン情報を下記の OS バージョン情報画面に表示します。

上記の画面で「OK」ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

ターミナルから OS のバージョン情報の取得に失敗すると下記の画面を表示し、「OK」をクリックするとメイン画面に戻ります。

バージョン情報取得

メニューの[ヘルプ（H）]-[バージョン情報（A）]を選択すると本モードのバージョン情報を下記のバージョン情報画面に表示します。

上記の画面で「OK」ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

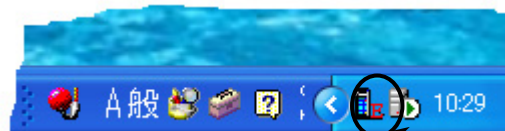
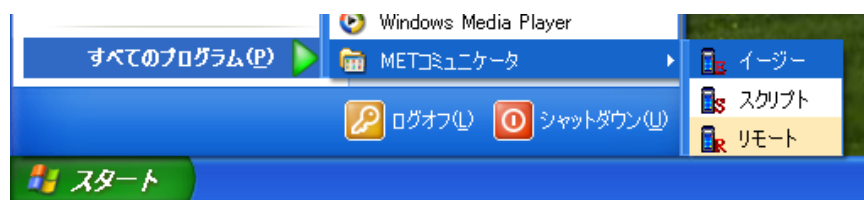
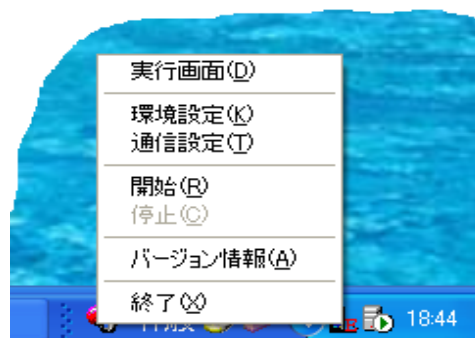
終了方法

メニューから［ファイル（F）]-[終了（X）]を選択、または「終了」ボタンを選択すると本モードを終了します。

イージーモード

ターミナルが指定したファイルを自動でファイルダウンロード・アップロードを行います。なお、本モードは、起動するとアイコンをタスクトレイに登録することで、バックグランドで通信を行うことができます。本機能は、ターミナルのモードがイージー時のみ使用が可能です。

起動方法

[スタート]-[すべてのプログラム (P)]から [MET コミュニケータ]-[イージー]を選択するとイージーモードが起動され、タスクトレイにアイコンを登録します。

アイコンにマウスカーソルを移動させて、マウスの右ボタンをクリックすると下記のポップアップメニューを表示します。

また、アイコンにマウスカーソルを移動させて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると実行画面を表示します。

※1）ポップアップメニューは処理毎に選択可／不可状態が変化します。

		ポップアップメニュー選択可否						
		実行画面	環境設定	通信設定	開始	停止	バージョン情報	終了
状態	起動時	○	○	○	○	×	○	○
	実行画面	○	○	○	○	×	○	○
	環境設定	×	×	×	×	×	×	×
	通信設定	×	×	×	×	×	×	×
	開始	○	×	×	×	○	×	×
	停止	○	○	○	○	×	○	○
	バージョン情報	×	×	×	×	×	×	×

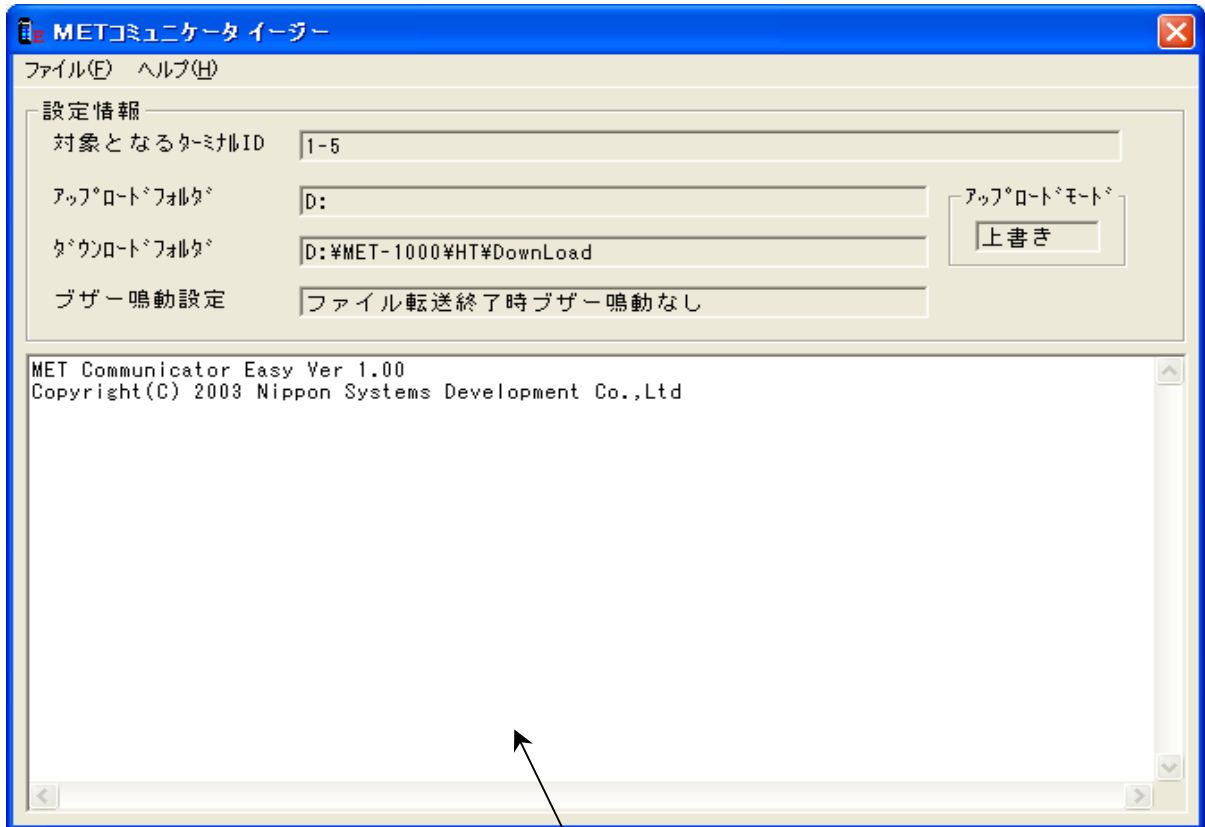
注1）○は選択可能、×は選択不可。
注2）環境設定、通信設定、バージョン情報の各画面が表示されている場合、ポップアップメニューは表示されません。

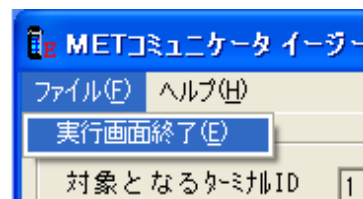
※2）本モード起動時に DLL のバージョンが異なる場合、以下のメッセージを表示後して終了します。

上記のメッセージが表示された場合は、「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」で本アプリケーションをアンインストールしてから再度インストールを行ってください。

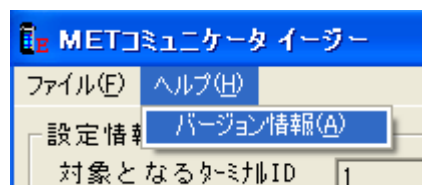
実行画面

ポップアップメニューから[実行画面（D）]を選択、またはアイコンにマウスカーソルを移動させて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると下記の実行画面を表示します。
本画面はターミナルとのファイルのダウンロード／アップロードや環境設定等の実行状況を確認する画面です。
※本画面を表示してもターミナルと自動接続されません。

履歴の表示領域

[ファイル（F）]

実行画面終了（E）　　実行画面を消します。

※ 実行画面を消しても、実行状態は継続します。（本アプリケーションは終了しません）

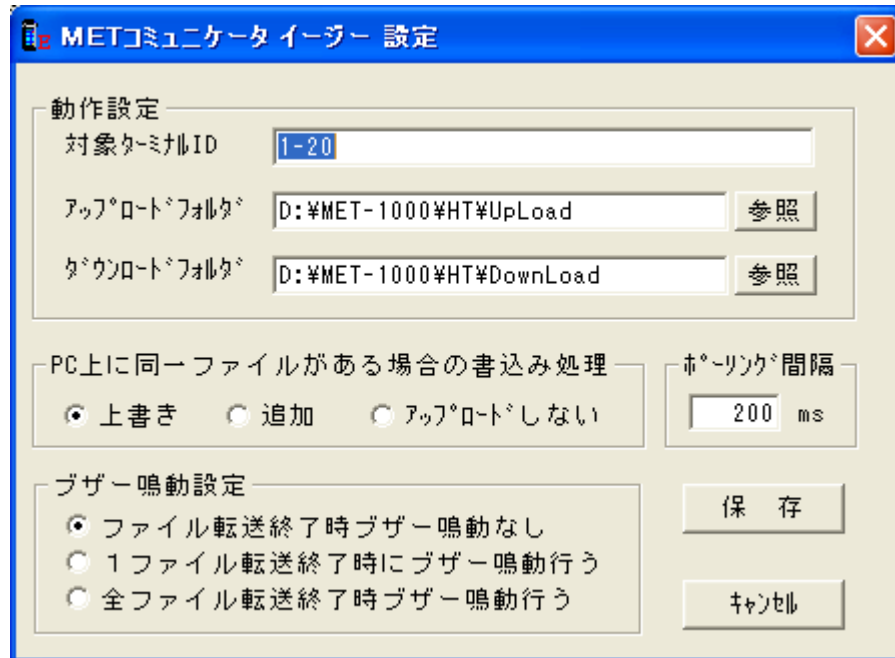
[ヘルプ（H）]

バージョン情報（A）　バージョン情報を表示します。

[閉じるボタン]
実行画面を消します。

※ 実行画面を消しても、実行状態は継続します。(本アプリケーションは終了しません)

[設定情報]
環境設定で設定されている下記の情報を表示する領域です。

対象となるターミナルID	アップロード／ダウンロードを行うターミナル IDを表示します。
アップロードフォルダ	ターミナルからアップロードしたファイルを格納するフォルダを表示します。
ダウンロードフォルダ	ターミナルへダウンロードするファイルが格納されているフォルダを表示します。
アップロードモード	ターミナルからアップロードしたファイルと同一名のファイルが存在した時の書込み方法を表示します。
ブザー鳴動設定	アップロード／ダウンロードのファイル転送が終了した時のブザー鳴動の有無を表示します。

[履歴の表示領域]
環境設定やポーリング開始／停止等の操作やターミナルに対してアップロード・ダウンロードを行った実行結果を履歴として表示する領域です。どのターミナルに対して何の処理を行い、その結果がどうであったかを遡って確認することができます。

【 正常終了時の履歴】
YYYY/MM/DD HH:MM:SS ○○○○：△△△△△△△△△△
【 異常終了時の履歴】
YYYY/MM/DD HH:MM:SS ○○○○：△△△△△△△△△△(Error №-9999:×××)

YYYY/MM/DD	操作、またはアップダウンロードを行った日付
HH:MM:SS	操作、またはアップダウンロードを行った時刻
○○○○	操作、またはアップダウンロードの名称 メイン／アップロード／ダウンロード／環境設定／通信設定
△△△△△△△△△△	メッセージ
-9999	エラー№※1
×××	エラー名称※1

※1) エラー№／エラー名称の詳細は『エラー一覧』を参照してください。

環境設定

ポップアップメニューから[環境設定（K）]を選択すると下記の環境設定画面を表示します。

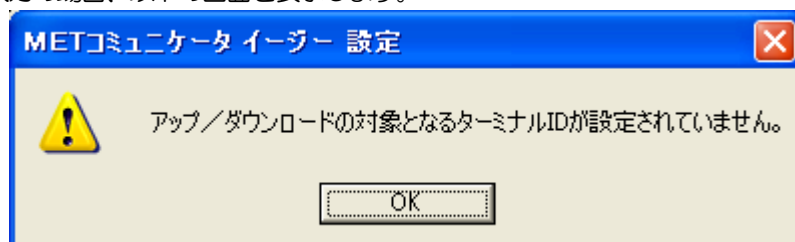
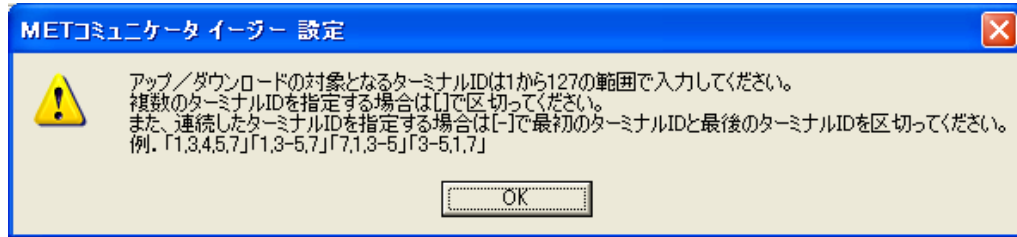
[動作設定]

1）対象ターミナルID

アップロード・ダウンロードを行うターミナルIDを設定します。

複数のターミナルIDを入力する場合は、ターミナルIDをカンマ(，)で区切って入力してください。また、連続したターミナルIDを入力する場合は、ターミナルIDをハイフン(—)で区切って入力してください。

例）ターミナル ID が 1,3,5,6,7,8 のターミナルに対してアップロード・ダウンロードを行う場合は“1,3,5,6,7,8”、または“1,3,5-8”と入力します。但し、連続したターミナルIDの入力で“8-5”、または“5-5”の入力はエラーとなります。

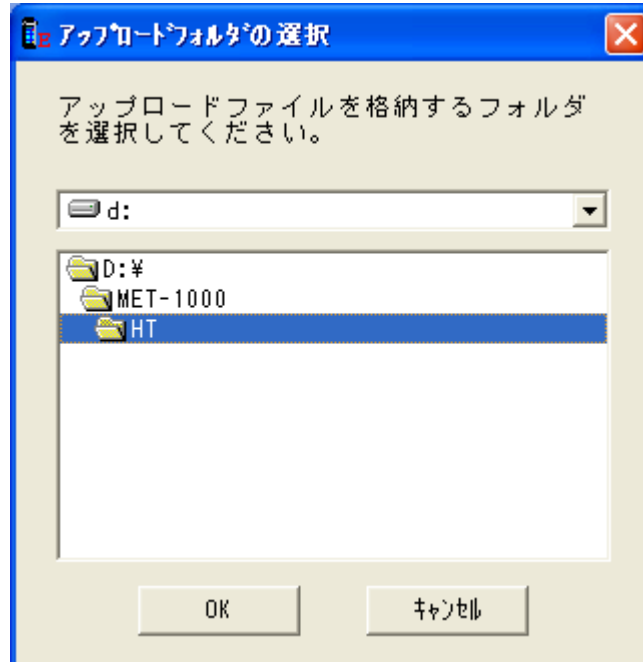
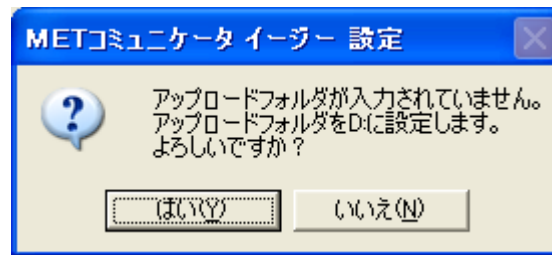
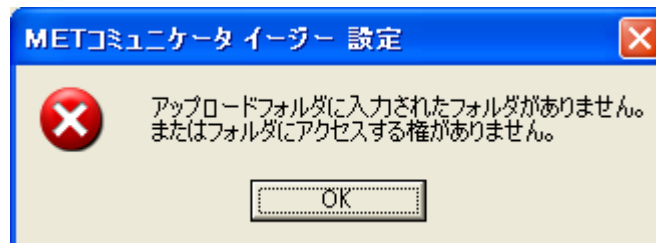
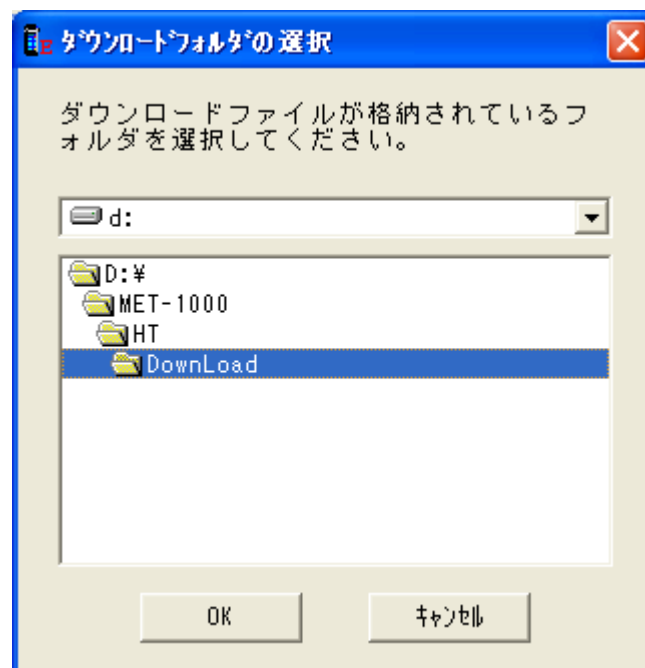
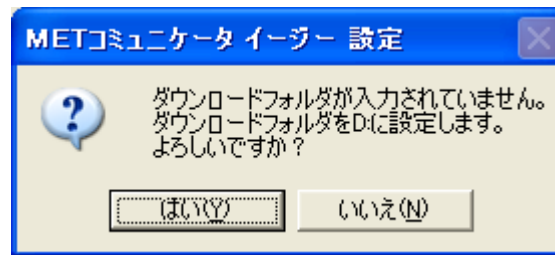
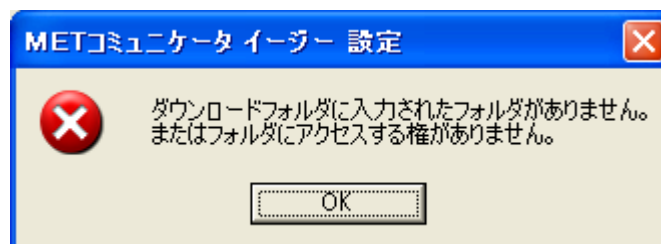
※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※ 範囲を超えている／指定方法が間違っている場合、以下の画面を表示します。

2）アップロードフォルダ

ターミナルからアップロードしたファイルを格納するフォルダを設定します。

「参照」ボタンをクリックすると下記のアップロードフォルダの選択画面を表示します。ターミナルからアップロードしたファイルを格納するフォルダを選択して「OK」をクリックすると選択されたフォルダがアップロードフォルダに反映されます。また「ｷｬﾝｾﾙ」ボタンをクリックすると選択されずに環境設定画面に戻ります。

注意

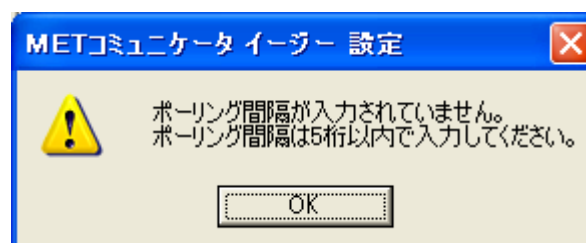
ご使用のOSがWindows Vista，Windows 7の場合、¥Program Filesフォルダの下にアップロードフォルダを設定すると、ユーザアカウント制御（UAC）によってアップロードフォルダとアップロードファイルが実際には別の場所に作成されます。アップロードフォルダには¥Program Files配下以外のフォルダを設定することをお勧めします。

もし、¥Program Filesフォルダの下にアップロードフォルダを設定した場合で、実際に作成されたフォルダを参照するには、エクスプローラで¥Program Files¥フォルダを表示して、ツールバーの［互換性ファイル］ボタンをクリックしてください。

※ 未入力の場合、以下の画面を表示します。
（本アプリケーションが起動されたドライブのルートに戻すかの確認）

※　指定したフォルダが存在しない場合、以下の画面を表示します。

3）ダウンロードフォルダ
ターミナルへダウンロードするファイルが格納されているフォルダを設定します。
「参照」ボタンをクリックすると下記のダウンロードフォルダの選択画面を表示します。ターミナルへダウンロードするファイルが格納されているフォルダを選択して「OK」をクリックすると選択されたフォルダがダウンロードフォルダに反映されます。また「ｷｬﾝｾﾙ」をクリックすると選択せずに環境設定画面に戻ります。

※ 未入力の場合、以下の画面を表示します。
（本アプリケーションが起動されたドライブのルートに戻すかの確認）

※ 指定したフォルダが存在しない場合、以下の画面を表示します。

[PC 上に同一ファイルがある場合の書込み処理]（アップロードモード）
ターミナルからアップロードするファイルと同一名のファイルが PC に存在した時の書込み方法を設定します。

上書き	アップロードしたファイルで上書きします。
追加	同一名のファイルにアップロードしたファイルを追加書込みします。
アップロードしない	同一名のファイルがあれば、アップロードしません。

※ ダウンロードの場合、ターミナルに同一ファイル名を持つファイルが存在すれば、必ず上書きとなります。

[ポーリング間隔]
ターミナルに対してポーリングを行う間隔を設定します。
10ms～30000ms の間で設定してください。

※ 未入力の場合、以下の画面を表示します。

※ 範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

[ブザー鳴動設定]

アップロードやダウンロードにおいてファイル転送が終了した時にブザーを鳴動するか否かを設定してください。

「保存」ボタン

設定された環境設定を設定ファイルに保存し、アイコン表示に戻ります。

「キャンセル」ボタン

設定された内容を破棄し、アイコン表示に戻ります。

注意

実行画面が表示されている場合、実行画面に戻ります。

通信設定

ポップアップメニューから[通信設定（T）]を選択すると下記の通信設定画面を表示します。

[通信条件の設定]

1）COM ポート番号
ターミナルとの通信に使用するCOM ポートの番号を設定してください。
COM ポート番号は 1～255 の間で入力してください。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

2）パリティ
本モードでは、パリティはNONE（パリティなし）固定です。

3）ボーレート
ターミナルとの通信ボーレートを設定してください。
ボーレートは 2400bps、4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps、115.2Kbps の何れかから選択してください。

※ ボーレートが遅い場合は PC の動作環境等により通信タイムアウト設定のポーリングタイムアウト値の調整が必要となる場合があります。

4）データ長
本モードでは、データ長は８ビット固定です。

5）ストップビット
本モードでは、ストップビットは１ビット固定です。

6）通信タイムアウト
ポーリングタイムアウト値を設定してください。
ポーリングタイムアウト値は 100ms～5000ms の間で入力してください。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

[履歴に関する設定]
1）ファイル作成の有無
履歴ログファイルを作成するか否かを設定してください。
ファイル作成の有無は「無」（作成しない）、「新規」、「追加」から選択してください。
なお、「新規」は起動時に同一ファイル名の履歴ファイルが存在すれば、そのファイルを削除してから履歴ファイルを作成し、履歴ログを書込みます。「追加」は起動時に同一ファイル名が存在していれば、そのファイルに履歴ログを追加書込みします。

※ 履歴ファイルは本アプリケーションを起動したフォルダに作成されます。

2）保存日数
履歴ログファイルの保存に日数を設定してください。
設定された日数分、履歴ファイルを保存します。なお、保存日数を０日に設定した場合、履歴ファイルは削除されません。

※　未入力の場合、以下の画面を表示します。

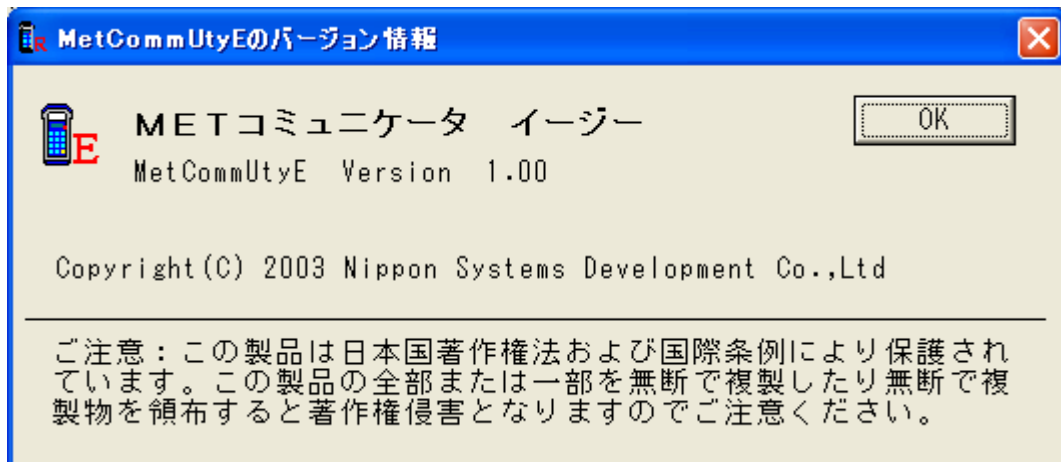
※　範囲を超えている場合、以下の画面を表示します。

「OK」ボタン
設定された通信設定を設定ファイルに保存し、アイコン表示に戻ります。

「キャンセル」ボタン
設定された内容を破棄し、アイコン表示に戻ります。

注意
実行画面が表示されている場合、実行画面に戻ります。

バージョン情報

ポップアップメニューから[バージョン情報(A)]を選択、または実行画面の[ヘルプ(H)]-[バージョン情報(A)]を選択すると下記のバージョン情報画面を表示します。

[バージョン情報]

本モードのバージョン情報を表示します。

「OK」ボタン

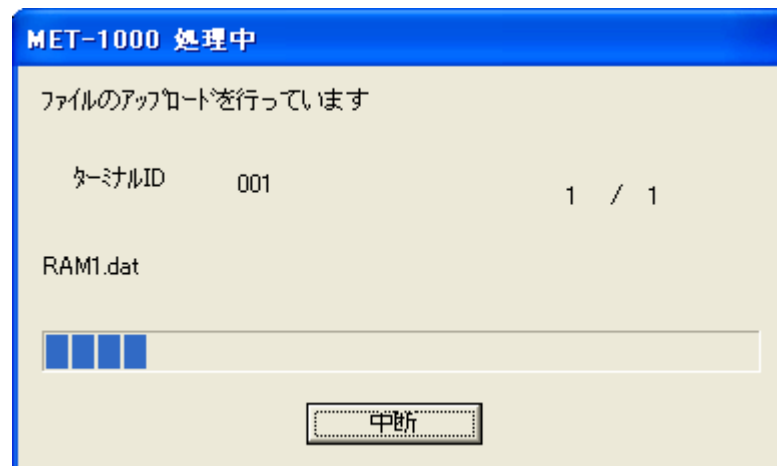
アイコン表示に戻ります。

注意

実行画面が表示されている場合、実行画面に戻ります。

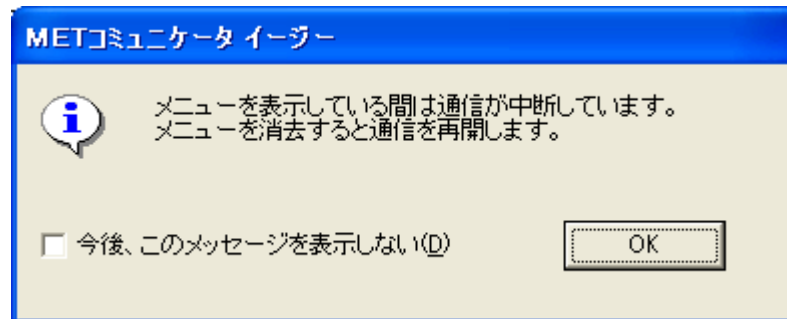
アップロード/ダウンロードの開始

ポップアップメニューから[開始（R）] を選択すると環境設定で設定されたポーリング間隔で、設定されているターミナルに対してポーリングを開始します。
光通信ユニットにターミナルが置かれるとターミナルのモードにより、アップロード、またはダウンロードを行います。

【 アップロード 】
ターミナルのモードがアップロードであれば、下記の画面を表示してアップロードを開始します。
ターミナルからアップロードしたファイルは、環境設定で設定されたアップロードフォルダに保存されます。

※ 処理中に「中断」ボタンを押下するとアップロードを中断します。ただし、ポーリングは停止しません。

【 ダウンロード 】
ターミナルのモードがダウンロードであれば、下記の画面を表示してダウンロードを開始します。
ターミナルへダウンロードするファイルは、環境設定で設定されたダウンロードフォルダにあるファイルをダウンロードします。
※ ダウンロードするファイルはターミナルから指定されます。

※ 処理中に「中断」ボタンを押下するとダウンロードを中断します。
ただし、ポーリングは停止しません。
※上記の各処理中画面は実行画面を表示していない場合は表示されません。

※　ポーリング、アップロード、またはダウンロードを行っている間にタスクトレイのアイコンをクリックしてポップアップメニューを表示するとターミナルとの通信が一時的に中断するため、下記の画面を表示します。

「OK」をクリックするとポップアップメニューを表示します。
また、「今後、このメッセージを表示しない（D）」のチェックボックスをチェックすると、タスクトレイのアイコンをクリックしても上記の画面を表示せずにポップアップメニューを表示します。

アップロード/ダウンロードの停止

ポップアップメニューから[停止（C）] を選択するとターミナルに対してポーリングを停止します。なお、アップロード、またはダウンロードの処理中であれば、アップロード、またはダウンロードを中断してからポーリングを停止します。

終了方法

ポップアップメニューから[終了（X）]を選択するとタスクトレイのアイコンを消去して、本モードを終了します。

コマンドパラメータでの起動

コマンドパラメータをつけて起動すると、起動後に実行画面の表示やアップロード・ダウンロードの実行が行えます。

【コマンドパラメータ】

```
MetCommUtyE.exe△表示モード△実行モード
  または
MetCommUtyE.exe△実行モード△表示モード
```

△：半角スペース

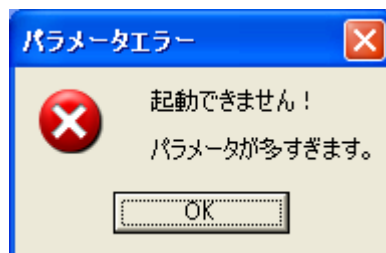
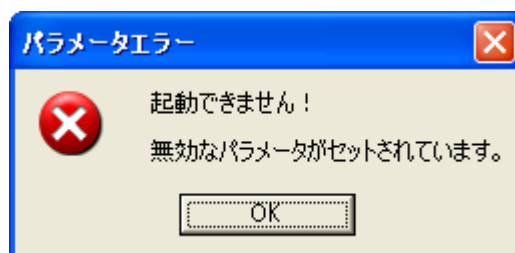
1）実行ファイル
MetCommUtyE.exe

2）表示モード（本パラメータを付加すると、実行画面が表示された状態で起動時します。）
-D　または　-d

※　省略時は、実行画面の未表示で起動します。

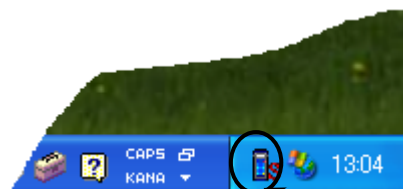
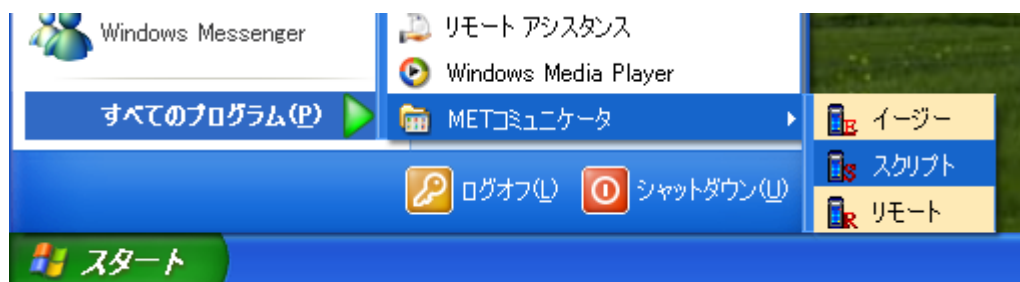
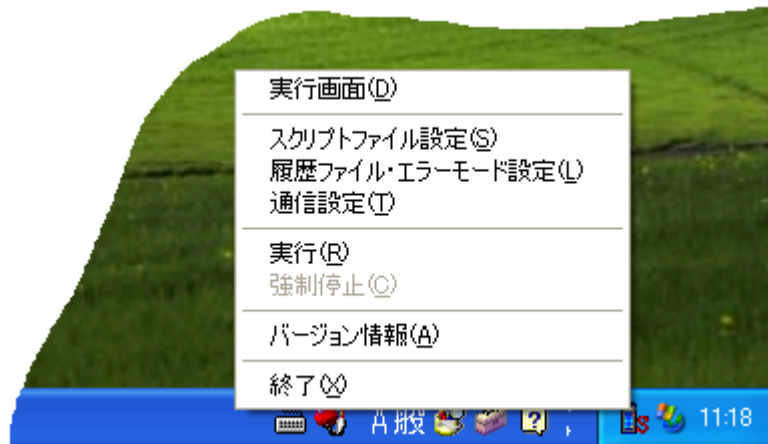
3）実行モード（本パラメータを付加すると、起動後すぐにアップロード・ダウンロードを開始します。）
-R　または　-r

※　省略時は、起動後にアップロード／ダウンロードは開始しません。

4）注意事項
⑴　パラメータの数が多い場合、以下のメッセージを表示しプログラムを終了します。

⑵　無効パラメータを指定した場合、以下のメッセージを表示しプログラムを終了します。

スクリプトモード

スクリプトファイルに設定された内容の指示に従い、自動でターミナルへファイルのアップロード・ダウンロードを行います。なお、本モードは、起動されるとアイコンをタスクトレイに登録することで、バックグランドで通信を行うことができます。
簡単なスクリプトによるファイル転送を実現し、エンドユーザに誤操作させない（バッチファイル形式）方式となっています。
スクリプトファイルは1行毎に実行され、実行不可能時にはログを表示して次行が実行されます。
本機能は、ターミナルのモードがリモート時のみ使用が可能です。

起動方法

[スタート]-[すべてのプログラム（P）]から[MET コミュニケータ]-[スクリプト]を選択するとスクリプトが起動され、タスクトレイにアイコンが登録されます。

アイコンにマウスカーソルを移動させて、マウスの右ボタンをクリックすると下記のポップアップメニューを表示します。

また、アイコンにマウスカーソルを移動させて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると実行画面を表示します。

※1）ポップアップメニューは、処理ごとに選択可否状態が変化します。

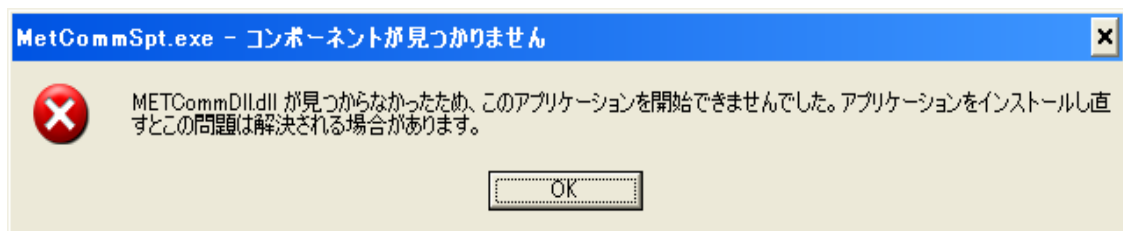
		ポップアップメニュー選択可否						
		実行画面	スクリプトファイル設定	履歴ファイル	通信設定	強制停止	バージョン情報	終了
状態	起動時	○	○	○	○	×	○	○
	スクリプトファイル設定	×	×	×	×	×	×	×
	履歴ファイル	×	×	×	×	×	×	×
	実行画面	○	×	×	×	○	×	×
	バージョン情報	×	×	×	×	×	×	×

注）○は選択可能、×は選択不可

※2）本モードを実行する場合、DLL のバージョンが異なる場合には以下のメッセージを表示して、プログラムを停止させます。

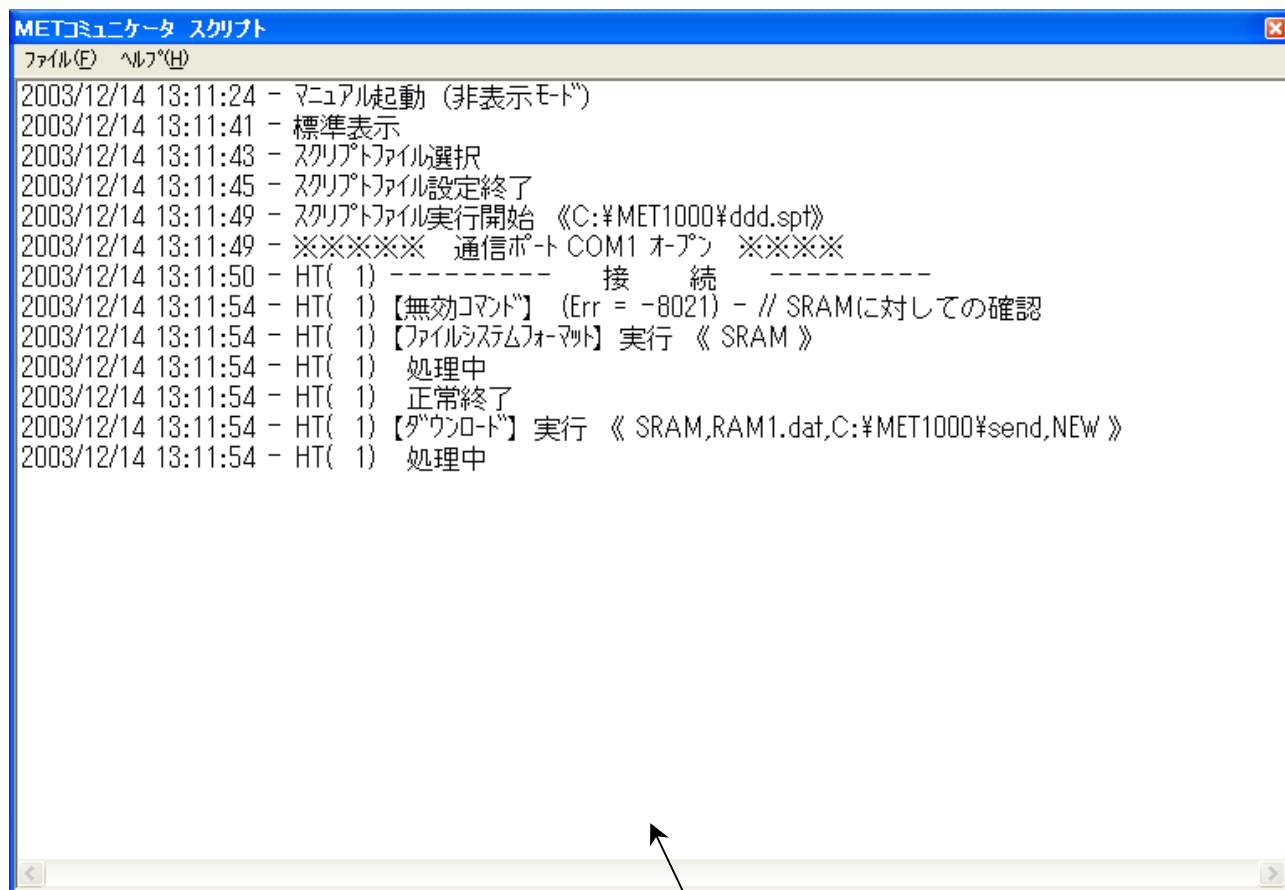
または

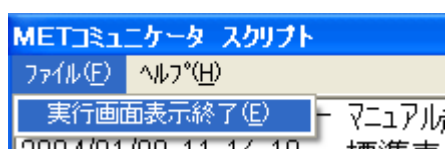
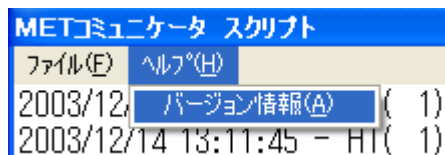
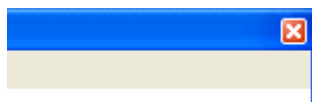
上記のメッセージが表示された場合は、[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]で本アプリケーションをアンインストールしてから再度インストールを行ってください。

※3）本モードを実行する場合、DLL が無い場合には以下のメッセージを表示して、プログラムを停止させます。

上記のメッセージが表示された場合は、[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]で本アプリケーションをアンインストールしてから再度インストールを行ってください。

※　上記のメッセージは、ＯＳによって変化する場合があります。

実行画面

ポップアップメニューから「実行画面（D）」を選択、またはタスクトレイのアイコンをダブルクリックすると下記の画面を表示します。
本画面はターミナルとの実行状況を確認する画面です。

［メニュー］

メニュー	サブメニュー	説　　明
ファイル（F）	実行画面表示終了（E）	実行画面を消します。
ヘルプ（H）	バージョン情報（A）	本モードのバージョン情報を表示します

［閉じるボタン］
実行画面を消します。

※ 実行画面を消しても、実行状態は継続します。（本アプリケーションは終了しません）

[履歴の表示領域]

環境設定や実行／強制停止等の操作やターミナルに対してアップロード・ダウンロード等を行った実行結果を履歴として表示する領域です。どのターミナルに対して何の処理を行い、その結果がどうであったかを遡って確認することができます。

① 対ターミナル処理

【正常終了時の履歴】

YYYY/MM/DD HH:MM:SS – HT（ ○○○）：△△△△△

【異常終了時の履歴】

YYYY/MM/DD HH:MM:SS – HT（ ○○○）：△△△△△（Err = -9999）▲▲▲▲▲

【状態の履歴】

YYYY/MM/DD HH:MM:SS – △△△△△

YYYY/MM/DD　各処理を行った日付
HH:MM:SS　各処理を行った時刻
○○○　処理しているターミナル ID
△△△△△・▲▲▲▲▲　メッセージ
-9999　エラー№.※1

※1）エラー№.の詳細は『エラー一覧』を参照してください。

メッセージ）

【状態】

内　容	メッセージ
スクリプト実行開始(非表示)	マニュアル起動（非表示モード）
スクリプト実行開始(表示)	マニュアル起動（表示モード）
スクリプト実行開始(自動・表示)	自動起動（非表示モード）
スクリプト実行開始(自動・非表示)	自動起動（表示モード）
実行開始	スクリプトファイル実行開始　《◆◆◆◆◆◆》
通信ポートオープン	※※※※※　通信ポート COM1 オープン　※※※※
スクリプト強制停止操作	スクリプトコマンド強制終了要求
スクリプト強制停止	スクリプトコマンド強制終了
スクリプトファイル開始	スクリプトファイル選択
スクリプトファイル設定終了	スクリプトファイル設定終了
スクリプトファイルキャンセル終了	スクリプトファイルキャンセル終了
履歴ファイル選択	履歴ファイル選択
履歴ファイル設定終了	履歴ファイル設定終了
履歴ﾌｧｲﾙ設定キャンセル終了	履歴ファイル設定キャンセル終了
通信・環境設定	通信・環境設定
通信・環境設定終了	通信・環境設定終了
通信・環境設定キャンセル終了	通信・環境設定キャンセル終了
バージョン参照開始	バージョン参照開始
バージョン参照終了	バージョン参照終了
通信ポートクローズ	※※※※※　通信ポート COM1 クローズ　※※※※

※　◆◆◆◆◆◆はスクリプトファイル名を表示します。

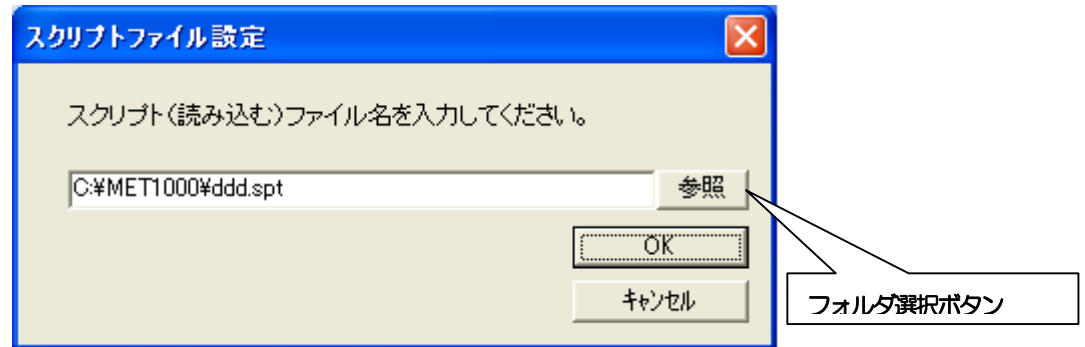
【正常・異常】

内容	結果	メッセージ
ターミナル接続	正常	---------- 接 続 ----------
ターミナル全コマンド終了	正常	---------- 全コマンド終了 ----------
ファイルシステムフォーマット実行	正常	【ファイルシステムフォーマット】実行 《◎◎◎◎◎◎》
アップロード実行	正常	【アップロード】実行 《◎◎◎◎◎◎》
ダウンロード実行	正常	【ダウンロード】実行 《◎◎◎◎◎◎》
ファイル名変更	正常	【ファイル名変更】実行 《◎◎◎◎◎◎》
ファイル削除	正常	【ファイル削除】実行 《◎◎◎◎◎◎》
環境設定	正常	【環境設定】実行 《◎◎◎◎◎◎》
電源 OFF	正常	【電源切断】実行 《◎◎◎◎◎◎》
リモート終了	正常	【リモート終了】実行 《◎◎◎◎◎◎》
アプリケーションインストール	正常	【AP インストール】実行 《◎◎◎◎◎◎》
ブザー鳴動	正常	【ブザー鳴動】実行 《◎◎◎◎◎◎》
処理中(長時間コマンド実行時)	正常	処理中
コマンド正常終了	正常	正常終了
長時間コマンドキャンセル要求	正常	【転送キャンセル要求】実行
無効コマンド実行	異常	【無効コマンド】 (Err = -8021) – ●●●●●●
コマンドワーニング発生	異常	警告 (Err = -9999)
コマンド異常終了	異常	異常終了 (Err = -9999)

※ ◎◎◎◎◎◎は各コマンドのパラメータを表示します。
※ ●●●●●●は異常コマンドを表示します。

例)
03/12/14,13:11:27 – マニュアル起動 (非表示モード)
03/12/14,13:11:32 - スクリプトファイル選択
03/12/14,13:11:38 - スクリプトファイル設定終了
03/12/14,13:11:39 - 標準表示
03/12/14,13:11:41 - スクリプトファイル実行開始 《C:¥MET1000¥ddd.spt》
03/12/14,13:11:41 - ※※※※※ 通信ポート COM1 オープン ※※※※
03/12/14,13:11:42 - HT(1) ---------- 接 続 ----------
03/12/14,13:11:45 - HT(1)【無効コマンド】 (Err = -8021) - // SRAM に対しての確認
03/12/14,13:11:45 - HT(1)【ファイルシステムフォーマット】実行 《 SRAM 》
03/12/14,13:11:45 - HT(1) 処理中
03/12/14,13:11:46 - HT(1) 正常終了

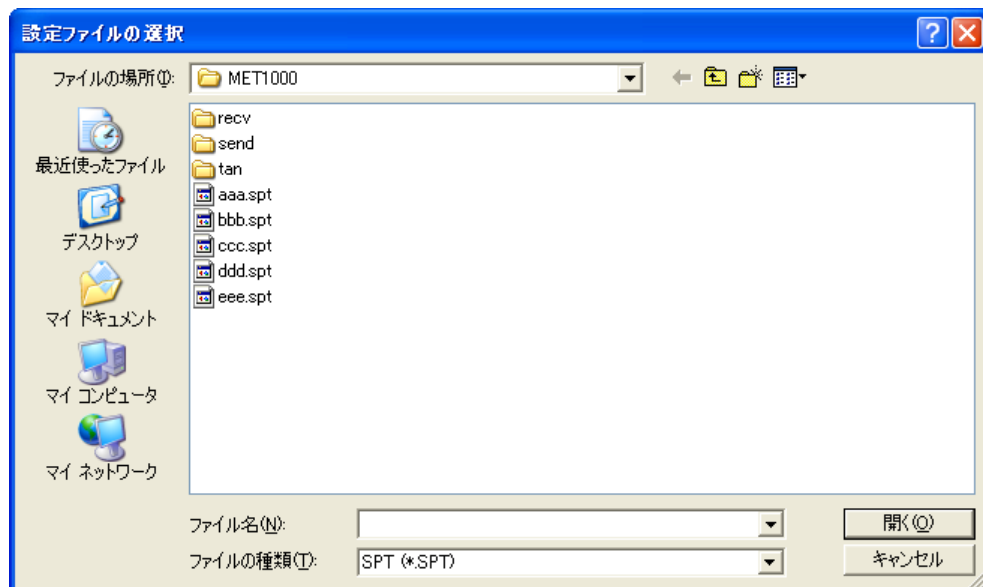
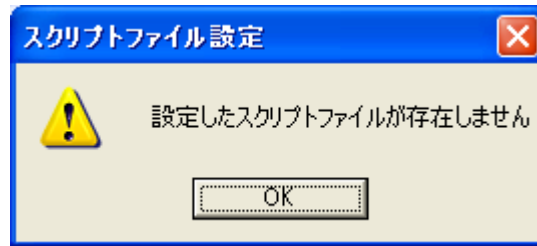
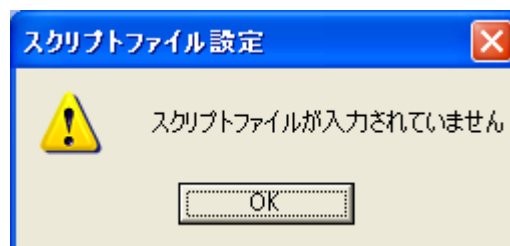
スクリプトファイル設定画面

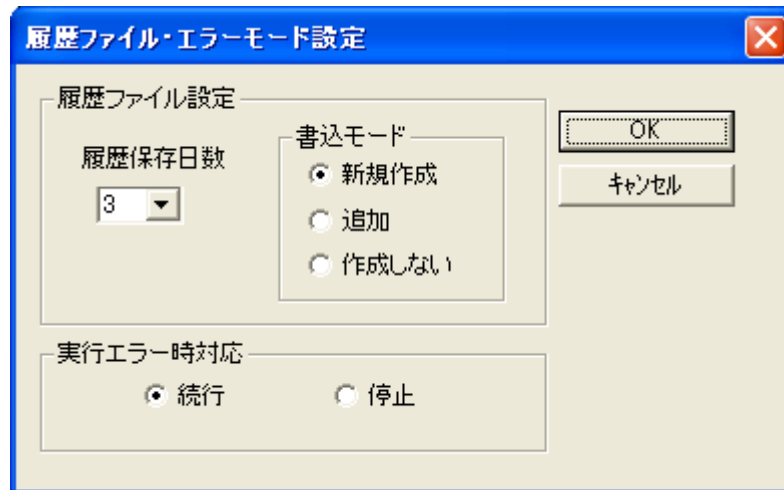
ポップアップメニューから「スクリプトファイル設定 (S)」を選択すると下記のスクリプトファイル設定画面を表示します。

[設定内容]

スクリプトファイル

実行を行う、スクリプトファイルを選択します。

「フォルダ選択」ボタンをクリックすると下記の設定ファイルの選択画面を表示します。実行したいスクリプトファイル選択して「OK」を選択することにより、スクリプトファイルが反映されます。

選択、または入力したファイル名が実際に存在しない場合、入力エラーとなります。

（入力エラー）
　設定したスクリプトファイルが存在しない場合、以下のメッセージを表示します。

　スクリプトファイルを入力しない場合、以下のメッセージを表示します。

履歴ファイル・エラーモード設定

ポップアップメニューから[履歴ファイル・エラーモード設定（L）]を選択すると下記の履歴ファイル・エラーモード設定画面を表示します。

[履歴ファイル設定]

1）履歴保存日数（0～30）
履歴ログファイルの保存日数を設定します。
設定された日数分、履歴ファイルを保存します。なお、保存日数を０日に設定した場合、履歴ファイルは削除されません。

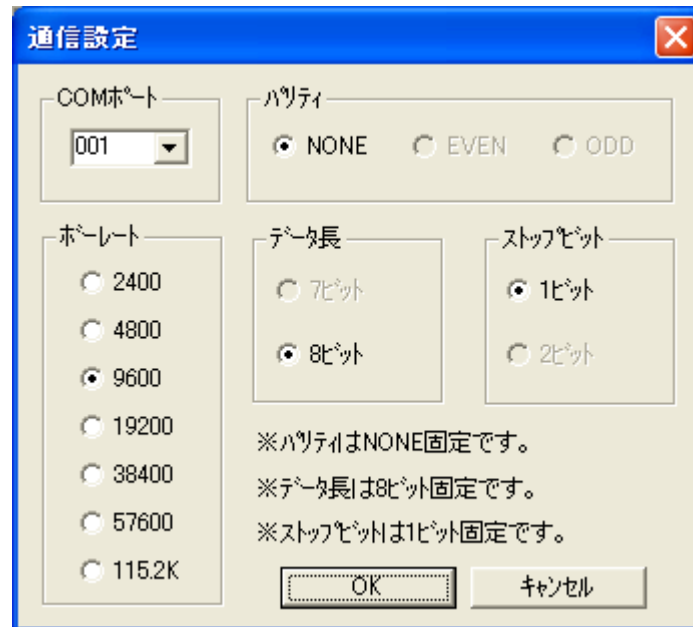
2）書込みモード
履歴ログファイルを作成するか否かを設定します。
ファイル作成の有無は「作成しない」、「新規作成」、「追加」から選択します。
なお、「新規作成」は起動時に同一ファイル名の履歴ファイルが存在すれば、そのファイルを削除してから履歴ファイルを作成し、履歴ログを書込みます。「追加」は起動時に同一ファイル名が存在していれば、そのファイルに履歴ログを追加書込みします。
※ 履歴ファイルは本アプリケーションを起動したフォルダに作成されます。

[実行エラー時対応]

スクリプトファイル内のコマンド実行時にエラーが発生した場合の処理を設定します。

続行　⇒　次のスクリプト内のコマンド実行を行います。
停止　⇒　処理中のターミナルとの通信を停止し、次のターミナルの処理へ移行します。

通信設定画面

ポップアップメニューから[通信設定（T）]を選択すると下記の通信設定画面を表示します。

[設定内容]

1）COM ポート
PC の通信ポートを設定します。
１～255 の設定が可能です。

2）ボーレート
ターミナルとの通信ボーレートを設定します。
ボーレートは 2400bps、4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps、115.2Kbps の何れかから選択が可能です。

※ ボーレートが遅い場合は PC の動作環境等により通信タイムアウト設定のポーリングタイムアウト値の調整が必要となる場合があります。

3）パリティ
本モードでは、パリティはNONE（パリティなし）固定です。

4）データ長
本モードでは、データ長は８ビット固定です。

5）ストップビット
本モードでは、ストップビットは１ビット固定です。

実行

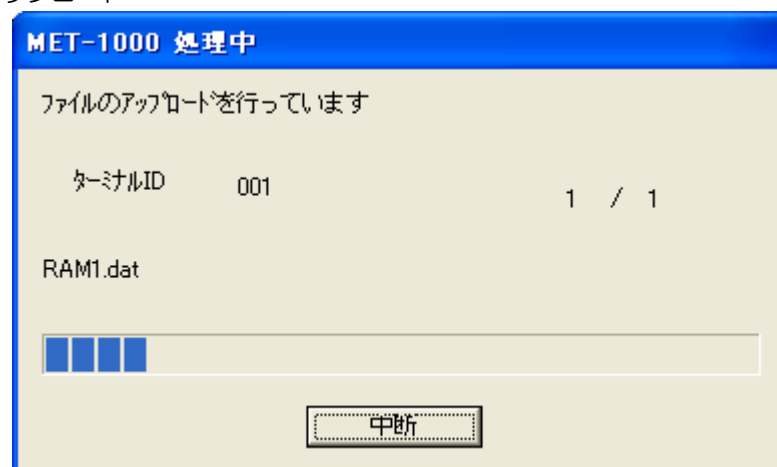
ポップアップメニューから[実行 (R)]を選択すると設定されているスクリプトファイルの実行を行います。
実行画面表示を行っていない場合、画面は表示されない状態でスクリプトの実行を行います。

METｺﾐｭﾆｹｰﾀ スクリプト
ﾌｧｲﾙ(F) ﾍﾙﾌﾟ(H)

```
2003/12/14 13:12:14 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:12:14 - HT( 1)【ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ】実行 《 SRAM,RAM1.dat,C:¥MET1000¥send,ADD 》
2003/12/14 13:12:14 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:12:34 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:12:34 - HT( 1)【ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ】実行 《 SRAM,RAM1.dat,C:¥MET1000¥recv,NEW 》
2003/12/14 13:12:34 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:13:07 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:13:08 - HT( 1)【ﾌｧｲﾙ名変更】実行 《 SRAM,RAM1.dat,RAM1A.dat 》
2003/12/14 13:13:08 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:13:08 - HT( 1)【ﾌｧｲﾙ削除】実行 《 SRAM,RAM1A.dat 》
2003/12/14 13:13:08 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:13:08 - HT( 1)【無効ｺﾏﾝﾄﾞ】 (Err = -8021) - // FROMに対しての確認
2003/12/14 13:13:09 - HT( 1)【ﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑﾌｫｰﾏｯﾄ】実行 《 FROM 》
2003/12/14 13:13:09 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:13:25 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:13:25 - HT( 1)【ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ】実行 《 FROM,FROM1.dat,C:¥MET1000¥send,NEW 》
2003/12/14 13:13:25 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:13:47 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:13:47 - HT( 1)【ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ】実行 《 FROM,FROM1.dat,C:¥MET1000¥send,ADD 》
2003/12/14 13:13:47 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:14:10 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:14:10 - HT( 1)【ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ】実行 《 FROM,FROM1.dat,C:¥MET1000¥send,ADD 》
2003/12/14 13:14:10 - HT( 1) 処理中
2003/12/14 13:14:32 - HT( 1) 正常終了
2003/12/14 13:14:33 - HT( 1)【ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ】実行 《 FROM,FROM1.dat,C:¥MET1000¥recv,NEW 》
2003/12/14 13:14:33 - HT( 1) 処理中
```

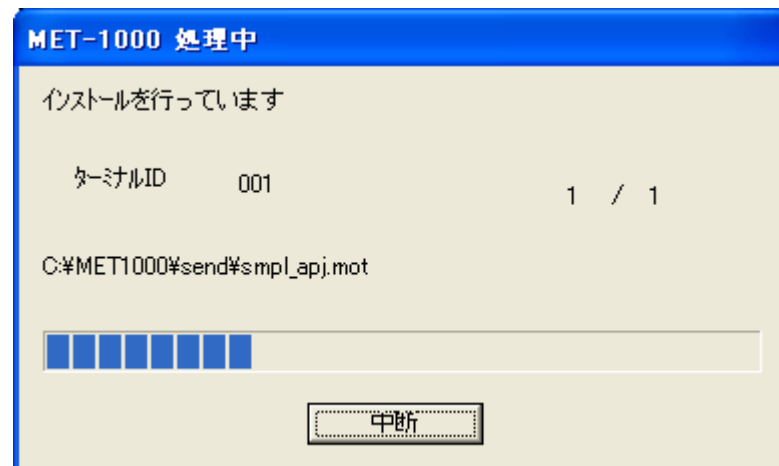
[実行中]

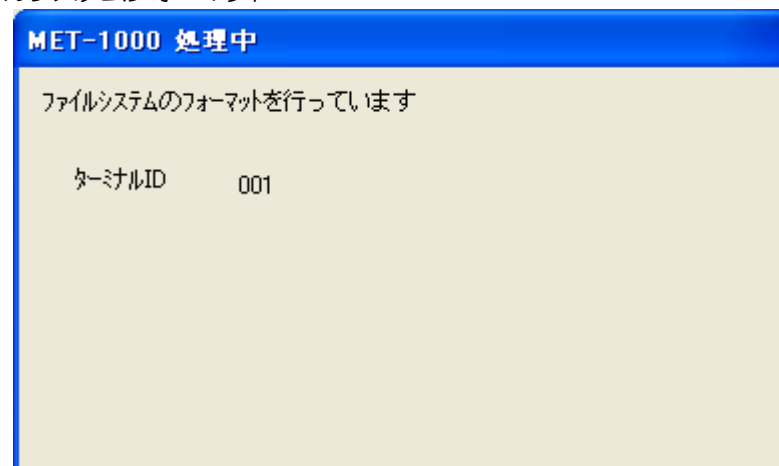
実行中は画面に実行開始・状態・結果を表示します。
強制停止したい場合には、ポップアップメニューから「強制停止」を選択することによりスクリプト実行を停止することができます。
処理時間が長時間になる場合には以下のダイアログを表示します。

(1) アップロード

※ 処理中に「中断」ボタンを押下するとアップロードを中断します。
ただし、スクリプトの実行は停止しません。

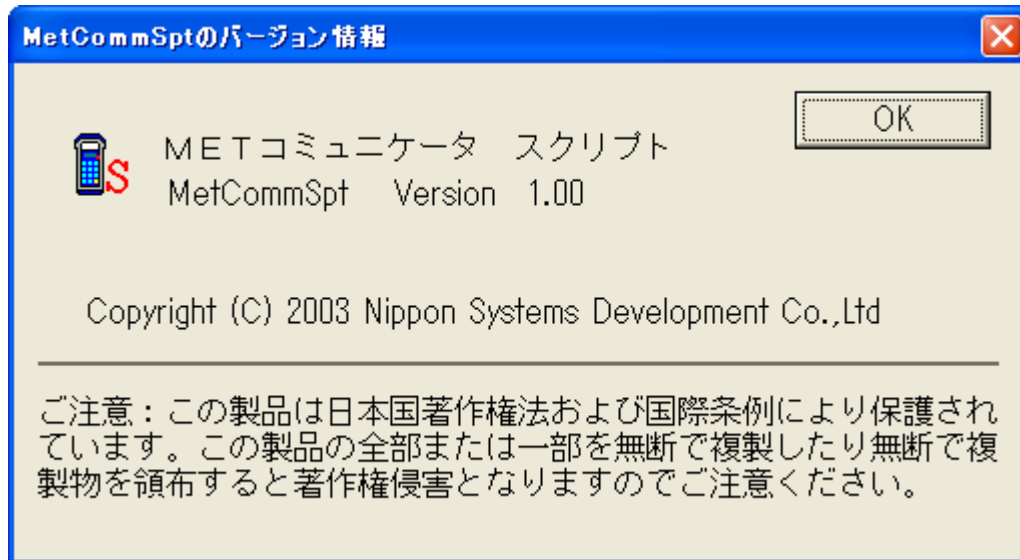
⑵　ダウンロード

※ 処理中に「中断」ボタンを押下するとダウンロードを中断します。
ただし、スクリプトの実行は停止しません。

⑶アプリケーションインストール

※ 処理中に「中断」ボタンを押下するとインストールを中断します。
ただし、スクリプトの実行は停止しません。

⑷ファイルシステムフォーマット

※　実行画面を表示していない場合は、上記の（1）～（4）の処理中画面は表示されません。

バージョン情報

ポップアップメニューから[バージョン情報（A）]、または実行画面の[ヘルプ（H）]-[バージョン情報（A）]を選択するとバージョン情報表示を行います。

終了方法

ポップアップメニューから[終了（X）]を選択すると本モードを終了します。

コマンドパラメータでの起動

コマンドパラメータをつけて起動すると、起動後すぐにスクリプト実行が行えます。

【コマンドパラメータ】

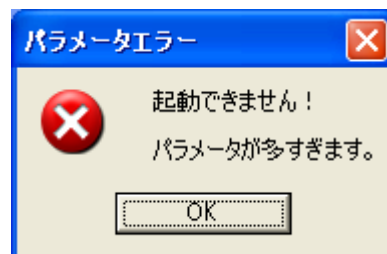
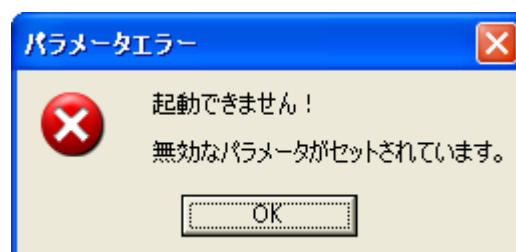
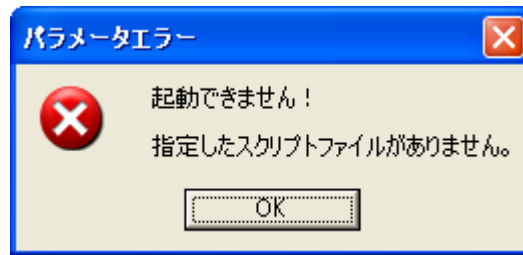
MetCommSpt.exe△表示モード△スクリプトファイル 　または MetCommSpt.exe△スクリプトファイル△表示モード

△：半角スペース

1）実行ファイル
　MetCommSpt.exe

2）表示モード（本パラメータを付加すると、稼動状況画面が表示された状態で起動時します。）
　-D　または　-d
　※　省略時は、稼動状況画面の未表示で起動します。

3）スクリプトファイル（自動実行したいスクリプトファイルをセットします）
　※　フルパス指定にて設定してください。

4）注意事項
　⑴　パラメータの数が多い場合、以下のメッセージを表示しプログラムを終了します。

　⑵　無効パラメータを指定した場合、以下のメッセージを表示しプログラムを終了します。

⑶　指定したスクリプトファイルが存在しない場合、以下のメッセージを表示しプログラムを終了します。

スクリプトファイルの作成

【特徴】

(1) 簡単なスクリプトによるファイル転送を実現し、エンドユーザに誤操作させない方式となっています。(バッチファイル形式)

(2) スクリプトファイルは、テキストエディタ(ini ファイル型の書式)で記述可能とします。

【コマンドの種類】

(1) 初期コマンド

HT_ID	対象ターミナルの ID
Polling	ポーリング

(2)処理コマンド

DownLoad	ダウンロード
UpLoad	アップロード
Apinstall	アプリケーションインストール
FileDelete	ファイル削除
FileRename	ファイル名変更
FileFormat	ファイルシステムフォーマット
Environment	環境設定
Poweroff	ターミナルの電源を切断
RemoteEnd	リモート終了
Pause	デバッグ用(ポーズ)
UpDownBuzzer	ブザー鳴動

＊1　初期コマンド・処理コマンドを区分けする為に、セクションを追加します。
　　初期コマンド　⇒　[Initial]
　　処理コマンド　⇒　[Process]

＊2　セクションに対するコマンド以外は、無視します。

例)

```
[Initial]
HT_ID　= 1
Polling = 500,1000
[Process]
FileDelete =　SRAM,METINIDAT
Poweroff
```

【コマンドの種類－初期コマンド】

（1） ターミナル ID 指定機能

ターミナル ID を指定することによりポーリングを巡回します。
ターミナル ID の取得は、単体，複数が、指定可能です。

［コマンド形式］

■ HT_ID = ターミナル ID

例） HT_ID =1 ⇒ ターミナル ID が1
HT_ID =1,2,3,4,5 ⇒ ターミナル ID が 1,2,3,4,5
HT_ID = 1-5 ⇒ ターミナル ID が 1,2,3,4,5

［パラメータ説明］

・１～１２７の範囲が設定可能です。
・複数のターミナル ID を入力する場合は、ターミナル ID をカンマ(，)で区切って入力してください。
・連続したターミナル ID を入力する場合は、ターミナル ID をハイフン(－)で区切って入力してください。
・連続したターミナル ID の入力で “8-5”、または “5-5” の場合、入力エラーとなります。
・開始，終了文字が数字以外の場合、入力エラーとなります。
・カンマ、ハイフン、数字以外の場合、入力エラーとなります。

（2） ポーリング機能

ポーリングに対するタイムアウト、及びポーリングを行う間隔を設定します。
（ｍｓ単で設定します。）

［コマンド形式］

■ Polling = ポーリングタイムアウト，ポーリング間隔

例） Polling = 500,1000

［パラメータ説明］

・ポーリングタイムアウトは 100～5000ms の範囲が設定可能です。
・ポーリング間隔は 10～3000ms の範囲が設定可能です。
・数字以外の場合、入力エラーとなります。

［補足］

・全パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

【コマンドの種類ー処理コマンド】

（1） ダウンロード機能

ＰＣ内の指定ファイルをターミナルにダウンロードします。

［コマンド形式］

■ DownLoad = ファイルシステム,
ダウンロードファイル名,
ダウンロードファイルのフォルダ,
上書き指定機能

例） DownLoad = SRAM,METDLL.txt,C:¥temp¥send,NEW
DownLoad = SRAM,METDLL.txt,C:¥temp¥send,ADD

［パラメータ説明］

・ファイルシステム(SRAM/FROM)
ダウンロードするファイル先のファイルシステムを指定します。

・ダウンロードファイル名
ダウンロードするファイルを指定します。
ターミナルにダウンロード可能なファイルは、１ファイルとします。

・ダウンロードファイルのフォルダ
指定したフォルダよりダウンロードします。

・上書き指定機能
ファイルダウンロードにおいて、上書き,追記の指定が可能とします。
既にターミナル内にファイルが存在したとき、この指定に従います。
(NEW：上書き／ADD：追加)
上書き ：上書きします。
追記 ：指定したファイルに追加（アペンド）します。
存在しない場合は新規作成します。

［補足］

・全パラメータを指定しない場合、エラーになります。

（2） アップロード機能

ターミナル内の指定ファイルをＰＣにアップロードします。

［コマンド形式］

■ UpLoad = ファイルシステム,
アップロードファイル名,
アップロードファイルのフォルダ,
上書き指定機能

例） UpLoad = SRAM,METDLL.txt,C:¥temp¥send,NEW
UpLoad = SRAM,METDLL.txt,C:¥temp¥send,ADD

［パラメータ説明］

・ファイルシステム(SRAM/FROM)
アップロードするファイル元のファイルシステムを指定します。

・アップロードファイル名
アップロードするファイルを指定します。
ターミナル内のファイルをＰＣにアップロード可能なファイルは、1ファイルとします。

・アップロードファイルのフォルダ
指定したフォルダへアップロードします。

・上書き指定機能
アップロードにおいて、上書き,追記,キャンセルの指定が可能とします。
既にＰＣ内にファイルが存在したとき、この指定に従います。
(NEW：上書き／ADD：追加／NONE：作成なし)
上書き ：上書きする。
追加 ：指定したファイルに追加（アペンド）します。
存在しない場合は新規作成します。
作成なし：書込みを行いません。

［補足］

・全パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

注意

ご使用のOSがWindows Vista，Windows 7の場合、¥Program Filesフォルダの下にアップロードフォルダを設定すると、ユーザアカウント制御（UAC）によってアップロードフォルダとアップロードファイルが実際には別の場所に作成されます。アップロードフォルダには¥Program Files配下以外のフォルダを設定することをお勧めします。
もし、¥Program Filesフォルダの下にアップロードフォルダを設定した場合で、実際に作成されたフォルダを参照するには、エクスプローラで¥Program Files¥フォルダを表示して、ツールバーの［互換性ファイル］ボタンをクリックしてください。

（3） アプリケーションインストール機能

ターミナルへアプリケーションをインストールします。

[コマンド形式]

■ Apinstall = インストールするアプリケーションファイル名,
インストールするアプリケーションバージョン

例） Apinstall = C:¥tmp¥smpl_apj.mot,1.00
Apinstall = C:¥tmp¥smpl_apj.mot

[パラメータ説明]

・ インストールするアプリケーションファイル名
インストールするファイル名を指定します。
・ インストールするアプリケーションバージョン
インストールするアプリケーションのバージョンを指定します。

[補足]

・アプリケーションインストール時にバージョンダウンを避けるため、バージョンチェック機能があります。
・指定したバージョンと、ターミナルより取得したバージョンを比較して、指定したバージョンが新しいときのみ、アプリケーションのインストールを行います。
・インストールするアプリケーションバージョンを指定しない場合、バージョンチェックを行なわずインストールします。

（4） ファイル削除機能

ターミナル内の指定ファイルを削除します。

[コマンド形式]

■ FileDelete ＝ ファイルシステム，ファイル名

例） FileDelete = SRAM,smpl_apj.mot

[パラメータ説明]

・ファイルシステム（SRAM/FROM）

削除するファイルシステムを指定します。

・ファイル名

削除するファイル名を指定します。

[補足]

・全パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

（5） ファイル名変更機能

ターミナル内の指定ファイル名を変更します。

[コマンド形式]

■ FileRename ＝ ファイルシステム，
旧ファイル名，
新ファイル名

例） FileRename = SRAM,master.dat,sample.dat

[パラメータ説明]

・ファイルシステム（SRAM/FROM）

削除するファイルシステムを指定します。

・旧ファイル名

変更前のファイル名を指定します。

・新ファイル名

変更後のファイル名を指定します。

[補足]

・ファイルシステムに FROM を指定した場合、エラーとなります。

・全パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

（6） ファイルシステムフォーマット機能

ターミナル内のファイルシステムをファイルフォーマットします。

［コマンド形式］

■ FileFormat ＝ ファイルシステム（SRAM/FROM）

例） FileFormat = SRAM

［パラメータ説明］

・ファイルシステム（SRAM/FROM）

フォーマットするファイルシステムを指定します。

［補足］

・パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

（7）環境設定機能

ターミナルの環境設定を変更します。

［コマンド形式］

■ Environment = キーバックライト連動、
バックライト時間、
自動電源 OFF 時間、
レジューム ON/OFF

例） Environment = ON,30,5,OFF

［パラメータ説明］

・キーバックライト連動（ON/OFF）

キーバックライトの連動設定を指定します。
ON ：連動します。
OFF ：連動しない。

・バックライト時間（秒）

バックライト時間を指定します。

・自動電源 OFF 時間（分）

自動電源 OFF 時間をを指定します。

・レジューム ON/OFF（ON/OFF）

レジューム設定を指定します。
ON ：レジューム機能有効。
OFF ：レジューム機能無効。

［補足］

・全パラメータを指定しない場合、エラーとなります。

（8）電源 OFF 機能

ターミナルの電源を切断します。

［コマンド形式］

■ PowerOff

例） PowerOff

［パラメータ説明］

無

［補足］

・ パラメータを指定した場合、エラーとなります。

（9） リモート終了機能

ターミナルのリモートを終了します。

［コマンド形式］

■ RemoteEnd

例） RemoteEnd

［パラメータ説明］

無

［補足］

・パラメータを指定した場合、エラーとなります。

（１０） デバッグ用機能

メッセージボックスが表示され、停止します。

［コマンド形式］

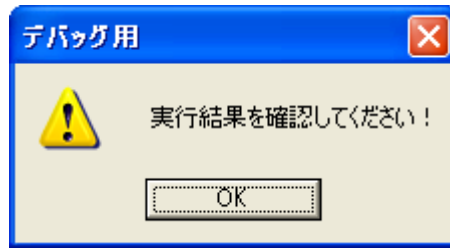
■ Pause

例） Pause

［パラメータ説明］

無

［補足］

・パラメータを指定した場合、エラーとなります。
・メッセージボックスで停止しますので、デバッグ用以外で使用しないでください。

（１１）ブザー鳴動機能

アップロード・ダウンロード終了時におけるターミナル側のブザー鳴動を設定します。

[コマンド形式]

■　UpDownBuzzer　＝　ブザー鳴動（ON/OFF）

例）UpDownBuzzer = 　ON

[パラメータ説明]

・ブザー鳴動設定を指定します。

ON　：　ブザー鳴動を行う。
OFF　：　ブザー鳴動を行わない。

[補足]

・　パラメータを指定しない場合、エラーとなります。
・　デフォルトは「ブザー鳴動なし」設定になります。
（ターミナルの電源ON毎にデフォルトに戻ります）

補足・注意事項

⑴　初期コマンドのHT_ID コマンド・Polling コマンドのパラメータが間違っている場合には、スクリプトは実行されません。
⑵　スクリプトの設定が間違っている場合には、履歴ファイルにエラーを書込み、次の処理の実行へ移行するかは、エラー時対応機能（履歴ファイル・エラーモード設定画面）の設定に従います。
⑶　スクリプトファイルの最後まで処理した場合には、最初からの処理を行います。
⑷　スクリプトファイル作成時に、初期コマンド・処理コマンドに定められたセクションに明記されていない場合には異常とします。
⑸　接続途中でターミナルとの回線が切断された場合には、最初からの処理を行います。
⑹　通信条件設定値はINI ファイルに持ちます。（通信速度等）
⑺　スクリプトファイルでセミコロン（；）で始まる行はコメント行として扱います。
⑻　コマンドは半角英字で入力してください。（倍角はエラーとなります）
ただし、フォルダ名は半角・全角のどちらの入力も可能です。
⑼　大文字・小文字は自動判別します。
⑽　パラメータの数が一致しない場合、エラーとなります。
⑾　パラメータが有るコマンドの場合、コマンド～イコール（=）間に半角の空白（△）を１文字入れる必要があります。（無、または２個以上の場合にはエラーとなります）

エラー一覧

本アプリケーションで発生するエラー一覧を以下に示します。

種別	番号	名称	内容
通信	-1001	未対応コマンド受信	ターミナルが対応していないコマンドを受信しました
	-1002	CRC エラー	受信パケットのCRC 値が計算値と異なります
	-1003	コマンドエラー	ターミナル側のモードと対応していないコマンドを受信しました
	-1004	オプションエラー	コマンドのオプションに無効な値が入力されています
	-1005	処理中断エラー(ターミナル側)	ターミナル上からの中断キー押下により処理を終了しました
	-1006	処理中断エラー(PC 側)	パソコンからの通信キャンセルの受信により処理を終了しました
	-1007	通信エラー	ファイル転送中にエラーが発生, または通信プロトコル上でのエラーが発生しました（YMODEM）
	-1008	シーケンスエラー	受信パケットのシーケンスが一致しません（イージーモードのみ使用）
	-1501	ポーリングタイムアウト	ポーリングコマンドを送信したが対象のターミナルからは 指定時間内に応答がなくタイムアウトが発生しました
	-1502	受信エラー（CRC エラー）	受信パケットのCRC 値が計算値と異なります
	-1503	NAK再送エラー	エラーが発生して再送要求をリトライ回数分行ったが 正しいデータが受け取れませんでした
	-1504	予約	
	-1505	タイムアウトエラー	PC で指定時間(通信のタイムアウトをリトライ回数分試行して)を 越えて応答がありませんでした
	-1506	シリアルポート使用中エラー	通信中にコマンド送信関数を実行しました 後から実行した関数がエラーで終了しました
	-1507	シリアルポートオープンエラー	オープン済みのシリアルポートを再度オープンしようとしました
	-1508	転送処理中でない	アップロード・ダウンロード・インストール関数実行中以外に 転送キャンセル関数を実行しました
	-1509	ハンドルエラー	オープンで取得したハンドルを使用していません
	-1510	シリアルポート未オープンエラー	シリアルポートが未オープン時に通信を実行しました
	-1511	ブロック番号反転値エラー	アップロードでブロック番号反転値が一致しません
	-1512	ブロック番号エラー	アップロードでブロック番号が一致しません
	-1513	応答データエラー	ターミナルから受信した応答データが不正です
	-1514	ファイル属性取得エラー	アップロードでファイル属性情報受信に失敗しました
ファイル	-2001	ファイル書込みエラー	ファイルの書込みに失敗しました
	-2002	ファイルシステム空きサイズエラー	ファイル作成のための空きサイズが足りません
	-2003	ファイルシステム未フォーマット エラー	指定ファイルシステムが未フォーマットでです
	-2004	ファイル未検出エラー	指定したファイルがターミナルに存在しない、または、 扱えないファイル名を指定しました
	-2005	ファイルオープン中エラー	指定したファイルがオープン中です
	-2006	ファイル作成数オーバーエラー	ファイルシステムが作成できるファイルの最大数をオーバーしています

	-2007	ファイルリネームエラー	ファイル名変更において、新ファイル名が指定した ファイルシステム内に既に存在するまたは、扱えないファイル名を 指定しました
	-2008	ファイルリネーエラー	FROM ファイルシステムに対してファイル名変更を行いました
	-2501	ファイルサイズエラー	ファイルアップロードで、ファイル属性情報のファイルサイズの フォーマットが正しくない、もしくは、取得したファイルサイズと 実際にアップロードされたファイルのサイズが一致しません
	-2502	ＰＣ空き容量不足エラー	アップロードしようとしているファイルのサイズ分を格納するだけの 空き容量がＰＣにありません
	-2503	ＰＣファイル無しエラー	ＰＣに指定したファイルが存在しません
	-2504	ＰＣフォルダ無しエラー	ＰＣに指定したフォルダが存在しません
	-2505	予約	
	-2506	予約	
	-2507	予約	
	-2508	予約	
	-2509	同名ファイル有りエラー	アップロードで同ファイル名有り時にアップロードしない 指定になっているときに同ファイル名が存在します
	-2510	予約	
	-2511	ファイル未ロード	ファイルのアップロード・ダウンロード処理を行う前に通信処理が 異常終了しました
	-2512	ファイル名長エラー	指定されたファイル名やアップロード時のファイル属性情報の ファイル名が扱える長さが範囲外です
メモリ	-3001	アドレスエラー	ターミナル内のアクセス不可なアドレスを指定しました
	-3002	サイズエラー	範囲外データサイズを指定しました
	-3003	データエラー	データサイズに対してデータ数が一致しません
	-3004	書込みエラー	データの書込みに失敗しました
	-3005	範囲外エリア書込みエラー	範囲外のエリアへ書込みを行いました
	-3006	セクタ消去失敗	FROM 内の指定したセクタ消去に失敗しました
インストール	-4001	バージョンエラー	情報格納エリアにバージョンが記入されていません
	-4002	情報エラー	情報格納エリアのデータが異常です
	-4003	Ｓファイルエラー	受信したファイルがモトローラＳフォーマット形式のファイルでは ありません
環境設定	-5001	日付・時刻データエラー	指定範囲外の日付・時刻を指定しました
	-5002	環境設定値エラー	範囲外の環境設定値を指定しました
その他	-6500	システムエラー　Createfile	Createfile 関数でエラーが発生しました ファイル作成権限があるか確認してください
	-6501	システムエラー GetCommState	GetCommState 関数でエラーが発生しました RS232C 通信で異常が起きました再試行を行ってください
	-6502	システムエラー SetCommState	SetCommState 関数でエラーが発生しました RS232C 通信で異常が起きました再試行を行ってください
	-6503	システムエラー SetCommTimeouts	SetCommTimeouts 関数でエラーが発生しました RS232C 通信で異常が起きました再試行を行ってください
	-6504	システムエラー WriteFile	WriteFile 関数でエラーが発生しました ファイル書込み、もしくはRS232C での送信に失敗しました ファイル書込み権限があるか確認してください RS232C 送信失敗の場合は、再試行してください
	-6505	システムエラー EscapeCommFunction	EscapeCommFunction 関数でエラーが発生しました RS232C 通信で異常が起きました再試行してください

	-6506	システムエラー ReadFile	ReadFile 関数でエラーが発生 RS232C での受信に失敗しました RS232C 通信で異常が起きました再試行してください
	-6507	システムエラー SetupComm	SetupComm 関数でエラーが発生しました RS232C 通信で異常が起きました再試行してください
	-6508	システムエラー CreateThread	CreateThread 関数でエラーが発生しました メモリリソースが不足していないか確認してください
	-6509	引数エラー	指定した引数に無効なデータがセットされています
	-6510	システムエラー NULL アクセス	NULL ポインタにアクセスしようとしました 詳しくは製造元へお問い合わせください
	-6511	システムエラー メモリ不足	メモリ確保に失敗しました メモリリソースが不足していないか確認してください
リモート／ イージー	-7501	ターミナルモード不一致	ターミナルのモードが一致しません
	-7502	ターミナル ID 未設定	ターミナル ID が設定されていません
	-7503	ターミナル ID 設定書式エラー	ターミナル ID の設定に誤りがあります
	-7504	ターミナル ID 重複エラー	ターミナル ID が重複しています
	-7510	ターミナル 未接続	ターミナルが接続されていません
	-7520	ファイル名桁数オーバー	ファイル名がターミナルで扱える桁数を超えています
	-7521	ファイル名(パス付)桁数オーバー	ファイル名(パス付)がターミナルで扱える桁数を超えています
	-7522	複数ファイル選択不可	複数のファイルは選択できません
	-7523	ファイル選択なし	選択されたファイルがありません
	-7524	ファイル名が正しくない	入力されたファイル名が正しくありません
	-7525	ファイル選択エラー	選択したファイルでは処理できません
	-7526	同一ファイル名有りエラー	既に同一名のファイルが存在しています
	-7527	ファイル削除エラー	ファイルの削除が出来ませんでした
	-7528	ファイル名変更エラー	ファイル名の変更が出来ませんでした
	-7530	テキストエディタ起動エラー	テキストエディタが起動できませんでした
スクリプト	-8000	ターミナルモード異常	ポーリング時にハンディがリモートモードではありません
	-8005	スクリプトファイル無	スクリプトファイルが存在しません
	-8006	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションのターミナル_ID コマンドがありません
	-8007	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションのターミナル_ID コマンドのパラメータ個数異常です（多い場合・少ない場合）
	-8008	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションのターミナル_ID コマンドの数値が異常です
	-8009	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションのターミナル_ID コマンドの範囲外の値を指定しています
	-8010	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンドがありません
	-8011	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンドのパラメータ個数が異常です（多い場合・少ない場合）
	-8012	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンド内のポーリングタイムアウトの数値が異常です
	-8013	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンド内のポーリングタイムアウトに範囲外の値を指定しています
	-8014	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンド内のポーリング間隔の数値が異常です
	-8015	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Initial]セクションの Polling コマンド内のポーリング間隔に範囲外の値を指定しています
	-8016	スクリプトエラー	スクリプトファイルの[Process]セクションがありません

-8021	無効コマンド	スクリプトファイル内に無効なコマンドを指定しています
-8030	パラメータエラー (ダウンロード)	パラメータの個数が異常です（多い場合・少ない場合）
-8031	パラメータエラー (ダウンロード)	ファイルシステム異常
-8032	パラメータエラー (ダウンロード)	書込みモード異常
-8033	ワーニングエラー (ダウンロード)	警告(エラー発生しているが、ダウンロードは正常終了)
-8040	パラメータエラー (アップロード)	パラメータの個数が異常です（多い場合・少ない場合）
-8041	パラメータエラー (アップロード)	ファイルシステム異常
-8042	パラメータエラー (アップロード)	書込みモード異常
-8043	ワーニングエラー (アップロード)	警告(エラー発生しているが、アップロードは正常終了)
-8050	パラメータエラー (AP インストール)	パラメータの個数が異常です（多い場合・少ない場合）
-8051	パラメータエラー (AP インストール)	バージョン桁数がオーバーしています
-8052	パラメータエラー (AP インストール)	旧バージョン（ハンディのバージョンが新しい）
-8053	ワーニングエラー (AP インストール)	警告(エラー発生しているが、AP インストールは正常終了)
-8071	パラメータエラー (ファイル削除)	ファイルシステム異常
-8080	パラメータエラー (ファイル名変更)	パラメータ個数異常（多い場合・少ない場合）
-8081	パラメータエラー (ファイル名変更)	ファイルシステム異常
-8090	パラメータエラー (ファイルシステムフォーマット)	パラメータの個数が異常です（多い場合・少ない場合）
-8091	パラメータエラー (ファイルシステムフォーマット)	ファイルシステム異常
-8100	パラメータエラー (環境設定)	パラメータ個数異常（多い場合・少ない場合）
-8101	パラメータエラー (環境設定)	キーバックライト連動異常
-8102	パラメータエラー (環境設定)	バックライト範囲エラー
-8103	パラメータエラー (環境設定)	バックライト数値エラー
-8104	パラメータエラー (環境設定)	自動電源 OFF 範囲エラー
-8105	パラメータエラー (環境設定)	自動電源 OFF 数値エラー
-8106	パラメータエラー (環境設定)	レジューム異常

	-8110	パラメータエラー (電源OFF)	パラメータ個数が異常です（多い場合・少ない場合）
	-8120	パラメータエラー (ﾘﾓｰﾄ終了OFF)	パラメータ個数が異常です（多い場合・少ない場合）
	-8130	パラメータエラー (デバッグ)	パラメータ個数が異常です（多い場合・少ない場合）
	-8140	パラメータエラー (ブザー鳴動)	パラメータの個数が異常です（多い場合・少ない場合）
	-8141	パラメータエラー (ブザー鳴動)	ブザー鳴動異常

※ ［　　］で塗りつぶしている番号は使用していません。予約番号です。

※ 警告に関しては、簡易エラーは発生していますが、各コマンド実行自身は正常終了している為、正常に終了したと判断してください

履歴機能

履歴ファイルのフォーマットを以下に示します。履歴ファイルは設定情報入力画面で指定される履歴ファイル名で保存します。

項番	項目名	型	桁数	備考
1	処理日	文字	8	関数開始、終了時点の日付 YY/MM/DD
2	項目区切り	文字	1	“，”（カンマ）
3	時間	文字	8	関数開始、終了時点の時間 HH：MM：SS
4	項目区切り	文字	1	“，”（カンマ）
5	ターミナル ID	文字	3	処理したターミナル ID
6	項目区切り	文字	1	“，”（カンマ）
7	処理状態	文字	4	『開始』／『終了』／『エラー△』／『状態』
8	項目区切り	文字	1	“，”（カンマ）
9	処理名、またはファイル名	文字	６５	処理名、またはファイル情報のファイル名
10	項目区切り	文字	1	“，”（カンマ）
11	エラー番号	文字	5	
12	終了コード	HEX	2	CRLF
合計バイト数			100	

＊実際の履歴ファイル名には、MET ＋モード(_)+日付（YYYYMMDD）の形式となります。

イージーモード ⇒ ESY （METESY_20031123.txt）
リモートモード ⇒ REM （METREM_20031123.txt）
スクリプト ⇒ SPT （METSPT_20031123.txt）
ＤＬＬ ⇒ DLL （METDLL_20031123.txt）

＊保存フォルダは、ソフトウェアをインストールされたフォルダとなります。
＊ファイル属性はテキスト（txt）形式となります。
＊イージーモード・リモートモード・スクリプトで使用します。
＊履歴ファイルのレコードは固定長となります。

＊履歴ファイルは、指定された日付分保持します。（日数を超えると、自動削除）
＊履歴ファイル書込モードは、追加、新規、作成しないの３つあります。
＊履歴ファイル書込モード・指定された日付分保持設定は、各処理毎に設定できます。

注意事項

（1）PCの動作環境等によりボーレートやポーリングタイムアウト値の調整が必要となる場合があります。
（2）複数のソフトウェア（リモート・イージー・スクリプト）を同時起動しないでください。
（3）ターミナルのファイル名は８．３形式となっている為、長いファイル名はサポートしていません。
（4）ターミナルのファイル名に漢字、特殊記号は使用できません。
（5） アンインストール後、履歴ファイル等が消えない場合ありますのでインストールしたフォルダを確認してください。消えていない場合、任意に削除してください。
（5．履歴機能で作成したファイルが残る可能性があります。）

困ったときは

本アプリケーションが動作しないときの対処の仕方を説明します。

No.	項 目	対 応
1	ターミナルとの通信ができない。	①PC 設定の COM ポートは正しいですか? ②PC 設定の通信速度はターミナルと一致していますか? ③光通信ユニットのディップスイッチは正しく設定されていますか? ④ケーブルは抜けていませんか? ⑤光通信ユニットの AC アダプタは接続されていますか? ⑥ターミナルの電源が切れていませんか? ⑦ターミナルの ID 設定は正しいですか? ⑧同一のターミナル ID を持つ複数のターミナルを光通信ユニットに置いていませんか?
2	USB 接続ができない。	①ケーブルは抜けていませんか? ②USB のドライバーはインストールされましたか? ③光通信ユニットのディップスイッチは正しいですか?
3	英語版 WINDOWS において使用可能でしょうか?	使用できません。
4	起動後、すぐに終了してしまいます。	既に立ちあがっていませんか?
5	通信時間が異常に長い	データをとりこぼし、何回もリトライをている可能性があります。 ①通信速度を落としてください。 ②負荷がかかるプロセスを終了させてください。
6	スクリプトの設定で、正しくファイルを作成したが、動作しない。(無効コマンドになる)	①コマンドを全角で設定されていませんか?
7	リモート・イージー・スクリプトモードでファイル操作(削除・コピー等)ができない。	①全角で設定されていませんか? ②ファイル形式が8.3形式になっていますか? ③ファイル名に漢字、特殊コードがはいっていませんか?
8	ターミナル1台では通信できるが、同時に2台接続した場合に通信できない。	①ターミナルが同一 ID になっていませんか? ②光通信ユニットのディップスイッチは正しいですか?
9	イージー・スクリプトモードで起動したが、画面が表示されない。	①起動直後の場合、画面が表示されずタスクトレイにアイコンが表示された状態になる場合があります。 ②画面表示にしましたか?
10	イージー・スクリプトモードの場合、ターミナルを光通信ユニットに置いても直ぐに通信しない。	設定で通信するターミナル ID を複数セットした場合、順番に通信を行う為、光通信ユニットに置いたターミナルへ通信が遅れる場合があります。 しばらくお待ちください。
11	アプリケーションをインストールしたが、古いアプリケーションが立ちあがる。	ターミナルにインストールされているバージョンの方が、インストールしようとするファイルのバージョンよりも、新しくないですか?

お問い合せ

日本システム開発株式会社

技術的なお問い合わせは	support@nsd-inc.co.jp	（サポートデスク）
最新情報は	http://www.systemgear.com	（弊社ホームページ）

おことわり

- 本製品の一部または全部を許可なく複写・複製することを禁じます。
- 本製品の内容・仕様は、訂正・改善のために予告なく変更することがあります。
- 本書に使用した画面および図は、実際のものと異なる場合があります。
- 本製品の内容については万全をきしておりますが、万一ご不審の点やお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果、直接または間接的に生じた損害に関して、弊社は一切の責任を負いません。
- 本書に記載してある製品の生産・販売・保守について、予告・通知なく中止することがあります。詳しくは、弊社ホームページをご覧ください。
  http://www.systemgear.co.jp/support/stop/index.html

MET コミュニケータ　取扱説明書

2010年０７月１３日　　第４版発行

発行　日本システム開発株式会社

宝塚テクニカルセンター
〒665-0045　兵庫県宝塚市光明町３０番１２号

(BK0040A03-4)